

昭和二十四年三月十九日 第三種郵便物認可
昭和廿六年二月廿五日印刷
昭和廿六年三月一日発行 (毎月一日発行)

建築（社會）

日本建築協會

VOL-32

1951

3

*The Architectural
Association of Japan*

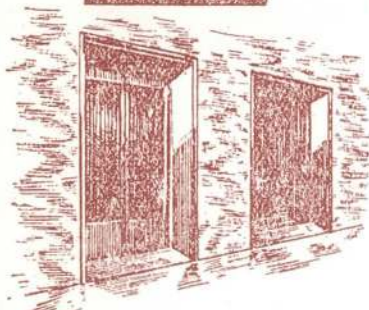
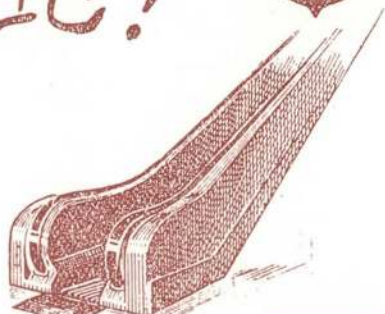
HITACHI

心地よく乗る！



日立

エレベータ



(各種) エレベータ ダムウエータ 電動階段

(最近の主なる日立エレベータ納入先)

顧客名	設置場所	臺数	備考	顧客名	設置場所	臺数	備考
海上ビルディング	東京駅前	1	直流ギヤレスエレベータ	日本専賣公社 東京地方局	東京都	2	交流貨物用エレベータ
東武鐵道KK (浅草松屋)	浅草	2	直流ギヤレスエレベータ	白木屋百貨店	〃	1	直流客用ギヤードエレベータ
第一ホテル	新橋	2	直流ギヤードエレベータ	参 詣 院	〃	4	料理用ダムウエータ
松坂屋百貨店	銀座	1	電動階段 (エスカレータ)	新橋演舞場	〃	1	踊 舞 臺 装 置
帝國生命館 (日 比 谷)	東京都	2	直流ギヤードエレベータ	大阪ビルディング	〃	3	直流客用エレベータ
放送會館	〃	2	直流ギヤードエレベータ	宮田自動車KK	神奈川縣	2	特殊輸送装置
味之素ビル	〃	2	直流ギヤードエレベータ	旭硝子KK 鶏見工場	〃	2	交流 2段速度貨物エレベータ
〃	〃	2	交流客用エレベータ	〃 尼崎工場	尼崎市	3	交流 2段速度自動着床エレベータ
服部時計店	東京銀座	2	直流ギヤードエレベータ	福屋百貨店	廣島市	2	直流ギヤード客用エレベータ
三仲十五號	赤 坂	2	交流客用エレベータ	新橋演舞場	東京銀座	1	交流 2段速度客用エレベータ
雅 叙 園	〃	1	料理用押、引自動リフト	〃	〃	3	ダムウエータ
興 業 會 館	〃	1	交流客用エレベータ	大洋橋業KK	東京月島	4	交流 2段速度荷用エレベータ
大日本映畫	東京京橋	1	客用押、引自動着床エレベータ	月島冷蔵車	〃	〃	〃
鋼 鋼 會 館 (増岡建設KK)	東京駅前	1	直流ギヤレスエレベータ	豊南ニュー フジヤホテル	熱海市	2	ダムウエータ
〃	〃	1	交流 2段速度自動着床エレベータ	神奈川縣廳	神奈川縣	2	交流 2段速度客用エレベータ
〃	〃	2	直流客用エレベータ	オリンピヅクル	東京銀座	2	交流 2段速度客用エレベータ
パークビル	東京都	2	交流 2段速度自動着床エレベータ	埼玉縣廳	埼玉縣	2	交流 2段速度客用エレベータ
秋島建設KK	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

日立製エレベータは勿論、旧日本エレベータ製造株式会社、旧AB See会社製のもの、保守、修理を御引受け致します。(設計資料御入用の際は最寄の営業所へ御照会下さい)

東京 大阪 名古屋 福岡 仙台 札幌

日立製作所

時の言葉..... 2

新建築紹介..... 3

ローヤル・オークに建てられた家

モダンな小住宅の一円地

大阪高等裁判所同心町アパート

Y 氏 邸

S 氏 邸

川 村 邸

社 宅

住宅の室内装備について

吉岡 吉雄...13

「住居」の考へ方—特にその

内面的な考へ方について

白木小三郎...17

最近の住宅設備について

石原 正雄...21

若し自分が家を建てるなら

松本 正雄...26

若し自分が家を建てるなら

清 家 清...28

若し自分が家を建てるなら

岩本 博行...32

若し自分が家を建てるなら

増田 友也...34

若し私が家を建てるなら

福田 朝生...36

若し自分が家を建てるなら

光藤 俊夫...38

今昔・是非.....滝沢 真弓...40

平凡・異常.....石川純一郎...41

街の顔を美しく.....星 広 文...43

石綿スレート標準仕様書.....44

役員・委員一覧.....46

会 員 動 静.....47

会 務.....49

会 告.....50

建 築 と 社 會

1951

3

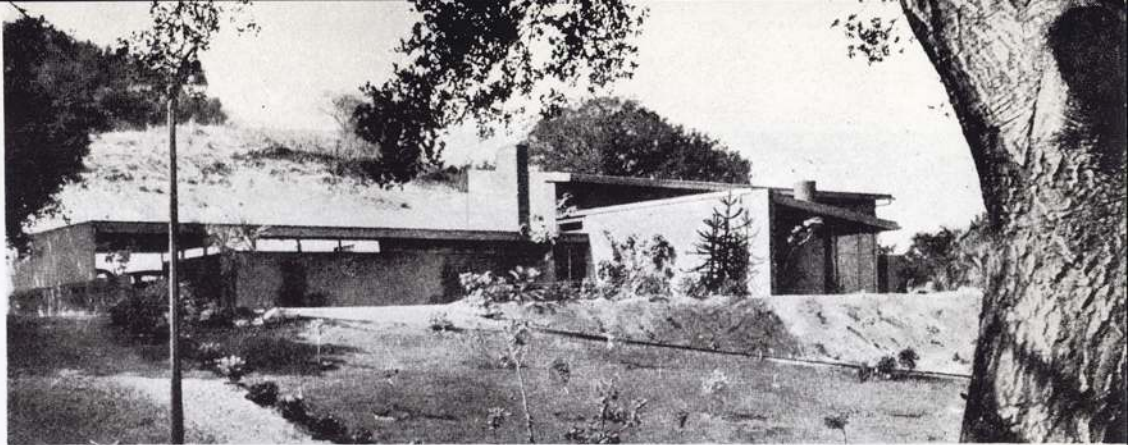


時 の 言 葉

家を建てること云う事は人々の一生一代の念願である。人々が夫々に立身し、出世し、功成り名遂げて、一生一代かかつて作りあげた表徴が家であつた。家と云うものはその様にして建つて来た。そして部落が出来、村が出来、町が出来、都市が出来た。所で、事程差様に念願し希求して出来た家が、果してそれ程良いものであつただろうか、否、無論それはそれ相応の意義が満足されたであろうが、今や吾々はそれ等の多くのものを否定せざるを得ないのである。と云うのは家に就ての間違つた観念、又端的に云えば科学的合理性の缺序か、家を真に本来の目的に、つまり人間の文化的な幸福に合致させなかつたからである。

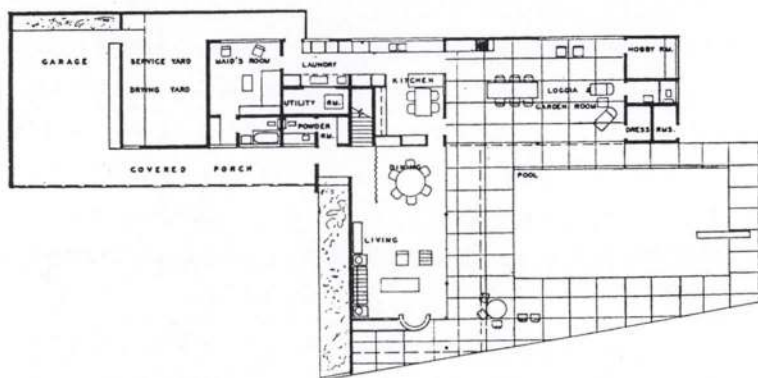
家を見得や外聞や誇示や家相にわづらわされて、生活の真のあり方を没却して考えていたからなのである。良い住宅と云うものは、良い生活内容を容れていると云う事である。それなら良い生活内容とは何であるか、それは家族の健康、衛生、休息、栄養、能率、慰安、育児、団樂、社交等の良さを云うのである。そしてそれらは、家族の制度と云う事まで討議され、人間の生活基地としての最も文化的な幸福を追求する線に於て肯定し得るものでなければならぬのである。併せて、それらの生活内容を容れる囲いであるところの建築の耐久、防災、経済性が考慮され、社会的共同体としてのあり方までに考え至つていなければならない。之等の考慮は自ら、住居の位置、容積、環境あり方を決定するものなのである。こう云う事は既に討議され研究されている。然しかんじんな事は、この理想が実現される為の、社会の積極性と理解の点である。

社会経済が社会推進の基盤であるとは云え、理解と云うものがあるなら自らその方向への積極性は保持されるのである。マルセイユにエルビヂユによる2000人收容の高層住宅が1昨年10月から着工されている。あの苦しい中であつてフランスが理想追求への激しい意慾を示しているのは、何よりも文化への理解を意味しているのである。吾々はその高さに敬服すると同時に吾々自身が、この理解と積極性と勇氣を持ちたいと希うものなのである。



A HOUSE IN ROYAL OAKS BY SUMNER SPAULDING JOHN REX,
ARCHITECTS C. G. DE SWARTE, STRUCTURAL ENGINEER

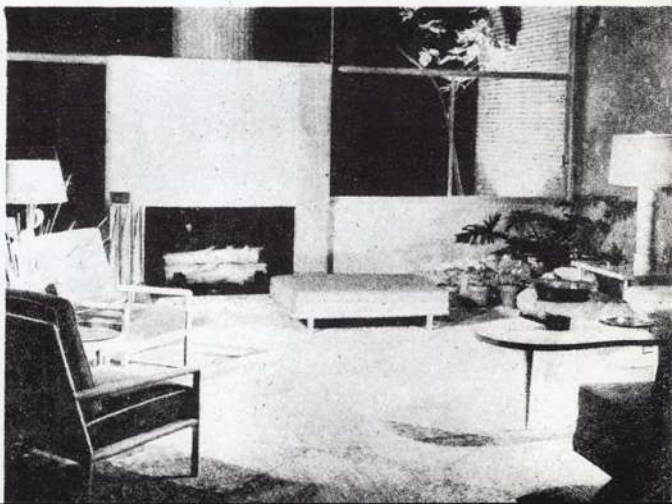
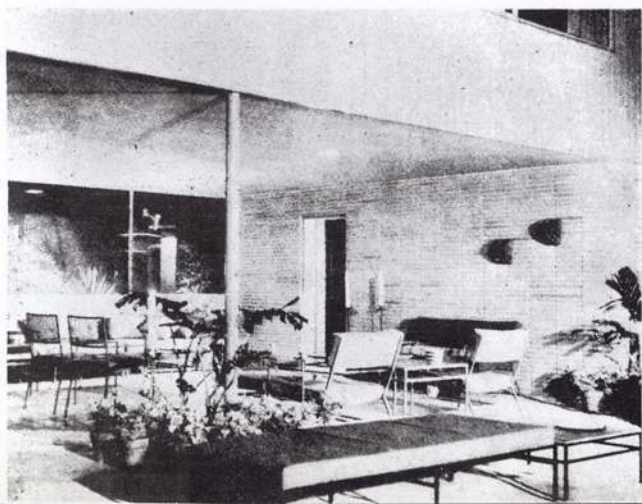
ロイヤル・オークに建てられた家

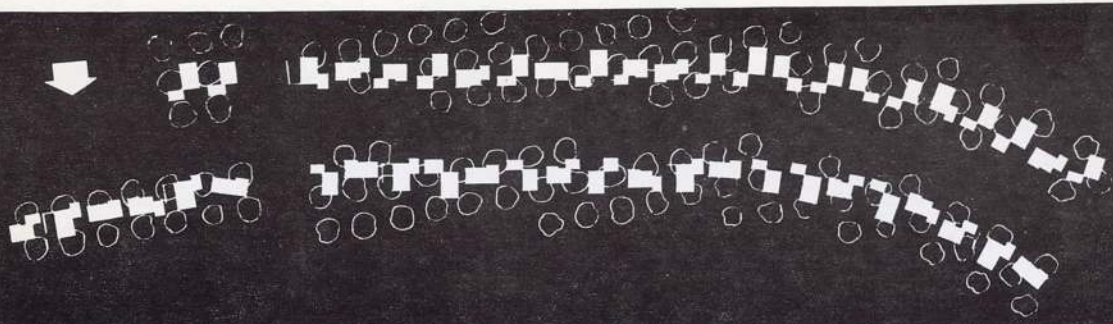


建築家 サムナー・スパウルディングとジョン・レックス
構造技術家 シ・ジ・デイスワート

2. ロジヤは居間に続き台所に便利な所にある。プールは設計の中心になって居る、ロジヤとプールの周りには輻射暖房の設備があり寒い晩でも気持ちよく過せる。

1. 居間の暖炉はガラスで囲まれている、色は褐色調の緑と柿色でアクセントがつけてある。





モダンな小住宅の一団地

A・ローレンス・ミリアー設計

48戸の小住宅から成る此の団地住宅はなだらかな丘を背にしたくろみ園にあつて、その完成ももう近い。とりどりの立面、素地のまゝのレッドウッド、それに黄、褐緑の外壁など全体として調和のとれた美しさである。

平面は75m²及び70m²の二寝室型と、90m²の三寝室型。立面は7種類に分れている。何れも単純且開放的で35m×17mの敷地に戸外生活、サービス、庭園等のスペースが具合よく配置されている。

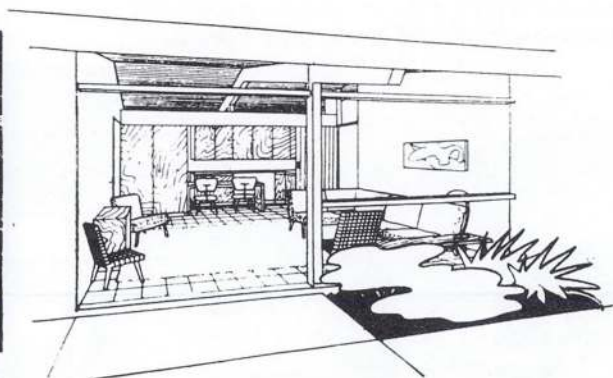
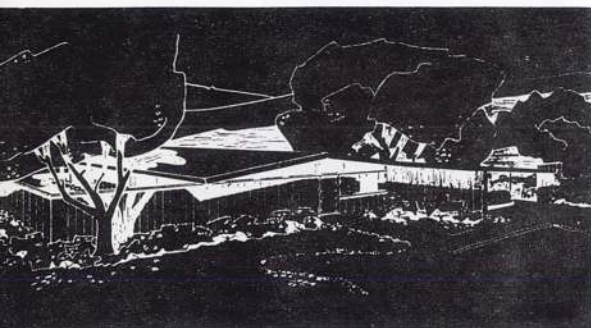
FHA(聯邦住宅改善管理局)の忌憚にふれないようモダンなデザインでも可成り制限された前提でもつて設計されているので所謂“tract practice”の規準と大差がない。それでも費用の点や“normal tract practice”によつて細部は相当変つた。と言うのがその大部分が業

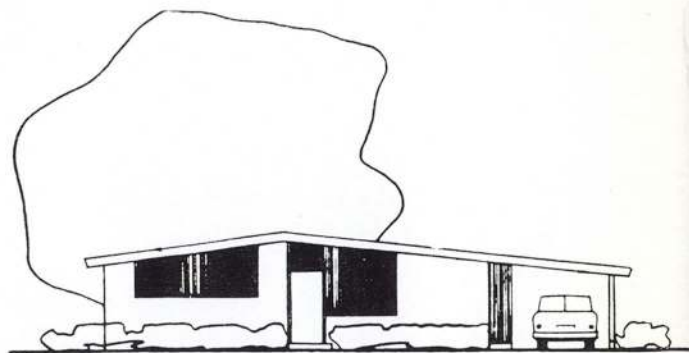
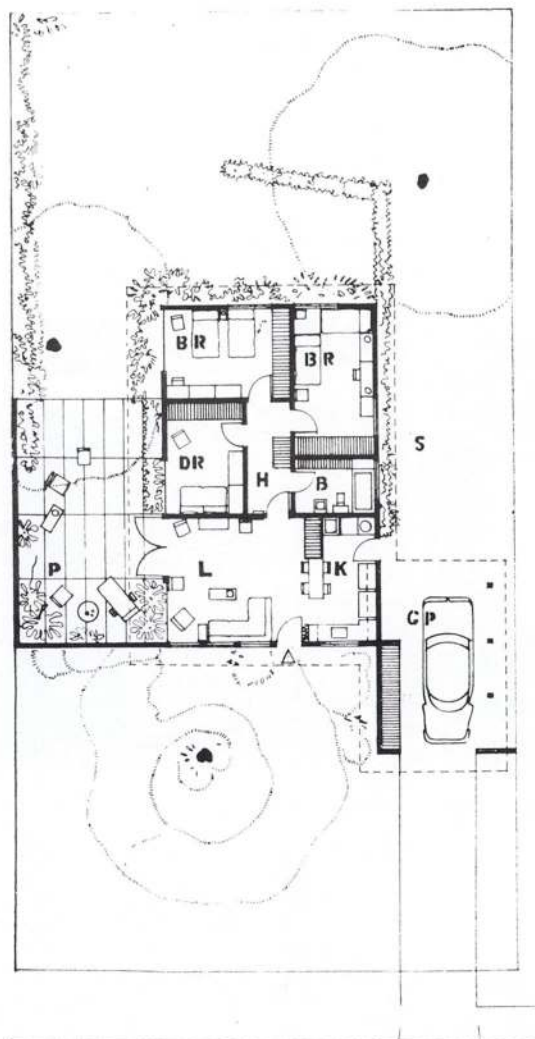
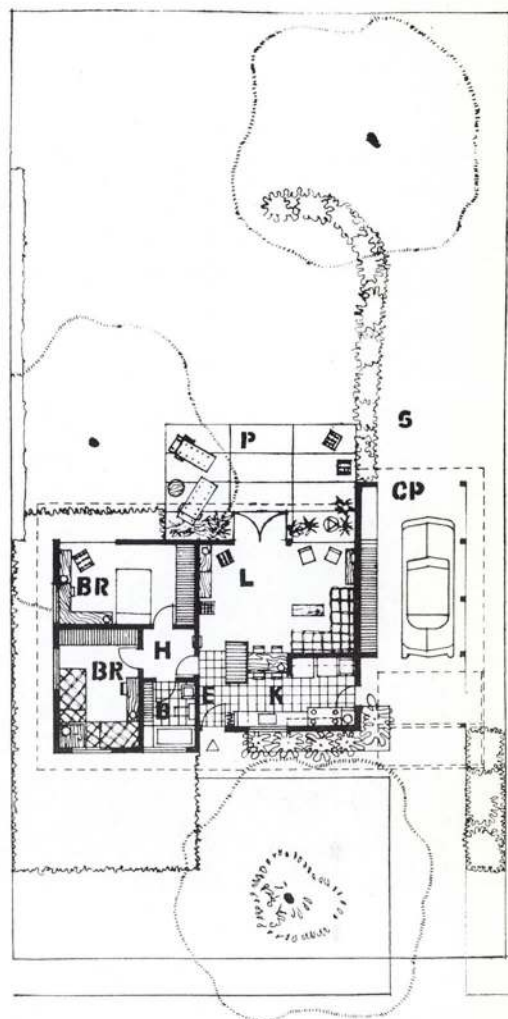
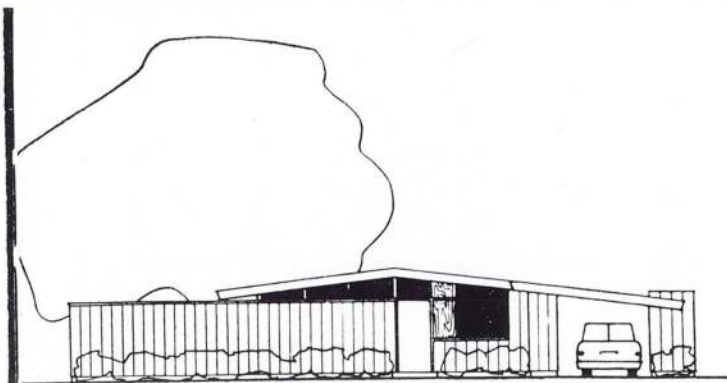
者の製品や取付法等の型式に統制を欠くことに起因している。しかし全体として外観も機能も具合よく処理されて居り、現在の商業のレベルでの小住宅としては好例と見てよからう。

面白いことは5年前からロスアンゼルス地方で行われたのと全く同じ条件で、同じ建設者によつて建てられていることである。小敷地を戸外生活により良く利用すること、モダンな外観が一般の人々の気に入るかどうかをテストすること等を目標にしてはいるが、都心に近い所で受けるうるさい要求のあまりない土地に住宅を建て売りすると云うことが主眼であつた。

一般の人々にうけると云うことが建て売り住宅には最も重要なことだが、建設業者も、資本家も販売業者も金融の面で従来のもとは比較にならぬにも拘らず、此の種の斬新な計画を希望している。

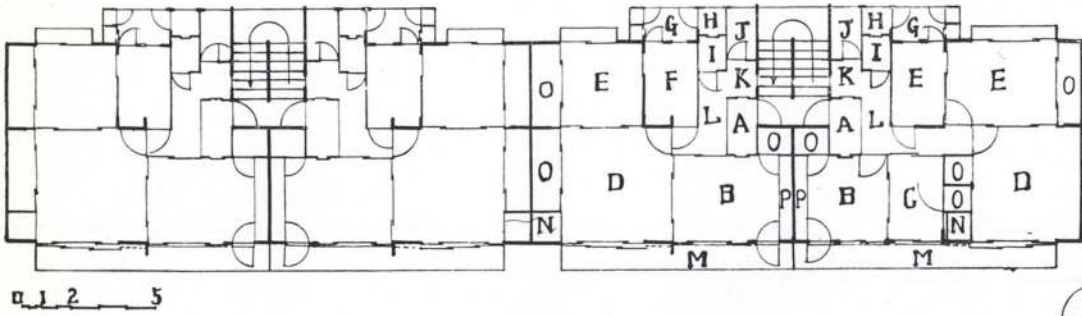
(アート・アンド・アーキテクチュア誌1950年11月号より)





第2期工事

第1期工事

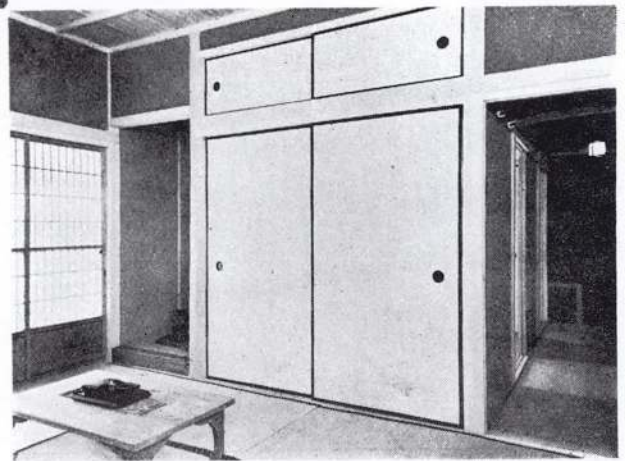


平面図説明

A 玄 関	I 便 所
B 書斎 6 (4.5) 帖	J 浴 室
C 居 間 3 帖	K 脱衣兼洗面所
D 客 間 8 帖	L 廊 下
E 茶の間 4.5 (6) 帖	M バルコニー
F 台 所	N 床 ノ 間
G 洗 濯 場	O 押 入
H 焚 口 室	P 書 棚

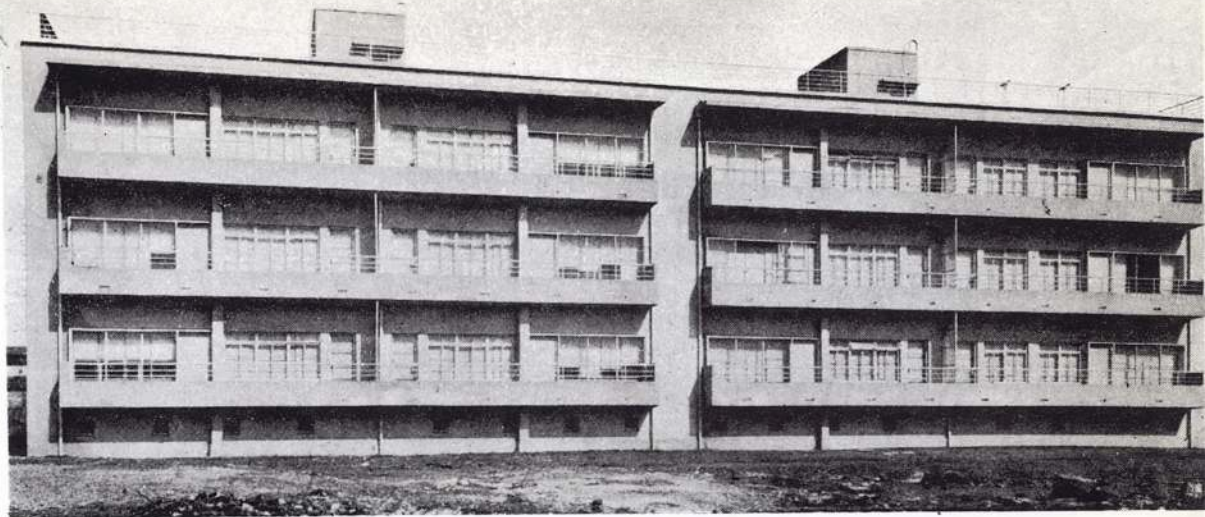
(北 外 観)

大阪高等裁判所 同心町アパート



(居 間)

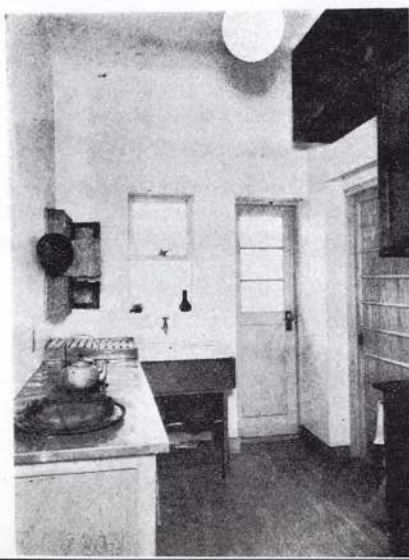
位 置	大阪市北区南同心町二丁目一番地
設 計	最 高 裁 判 所
施 工	株式会社 戸田組大阪支店
工 程	自昭和25年3月 至昭和26年1月 (一期並ニ二期工事通算)
建築面積	建坪 84.78坪 延坪 345.52坪 1戸当り A...21.20坪 B...19.20坪
構造概要	鉄筋コンクリート壁体構造、半地下...1 地上...3 計 4階



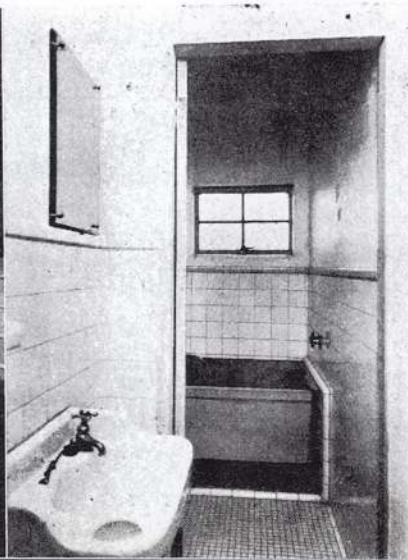
(内 外 観)

外 装 外 壁……色モルタル振落シ仕上 鉄部アイヴオリーペンキ塗
 玄関廻り及腰…人造石洗出し仕上
 内 装 階 段 室……床色モルタル 巾木色モルタル 腰モルタルペンキ仕上 壁及天井 プラスター仕上
 玄 関……床磁器タイル、巾木人造石洗出シ壁砂壁、樺縁天井(杉赤桤)
 廊 下……床檜桧甲板
 居間書斎・茶の間……畳備後表、壁黄大津 樺縁天井(杉赤桤目)
 客 間…… “ “ 壁砂壁 “ (杉赤桤) 半間床付
 台 所……床檜桧甲板、壁及天井プラスター仕上、調理台及コンロ台 銅板張り 戸棚共ワ
 ニス仕上、腰一部タイル張り
 便所及浴室……床モザイクタイル、腰タイル 壁プラスター、天井打上、木部ペンキ塗
 脱衣兼洗面所……床檜桧甲板 一部モザイクタイル、腰タイル、壁及天井プラスター
 焚 口 室……モルタル塗刷毛引
 洗濯場及バルコニー、床モルタル塗目地切、

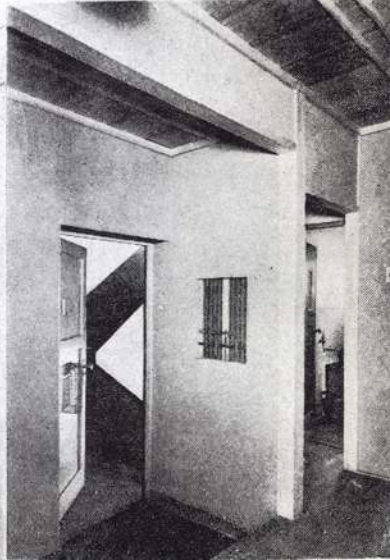
(臺 所)

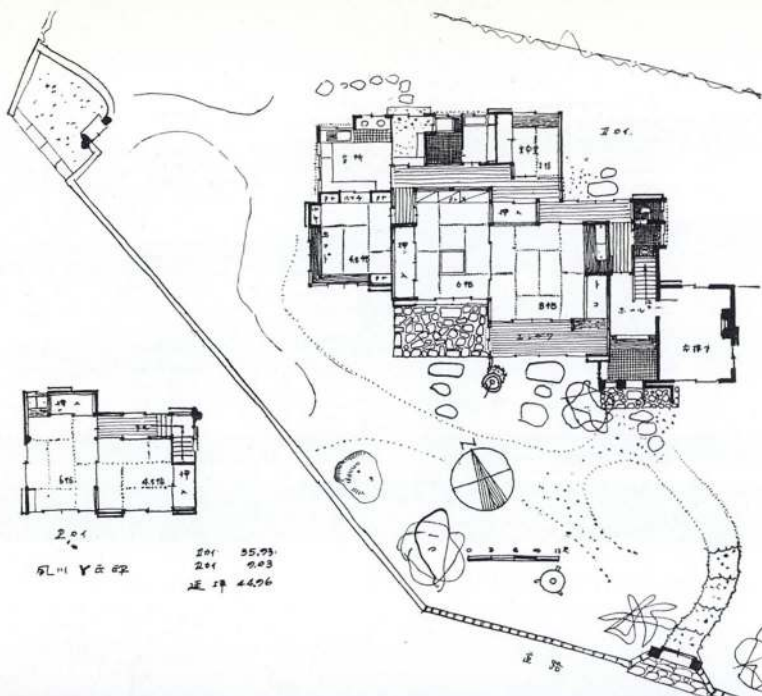


(浴 室)



(玄 関)





Y 氏 邸

(兵庫県夙川)



応接室

ストーブ サンドストーンを加工、切取積みとし軟かみを出してゐる。

天井 杉面皮化粧梁。

壁 漆喰塗りコンビネーション仕上



設計・施工 大林組

竣工 昭和25年11月

基礎 住吉川産玉石化粧積ミ

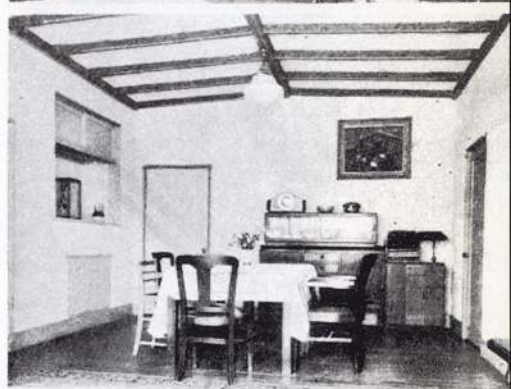
外壁 クリーム色モルタル掻き上

木部オイルステイン塗り

屋根 泉州産、日本瓦葺キ

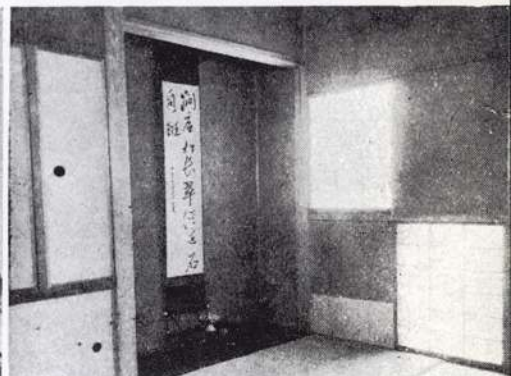
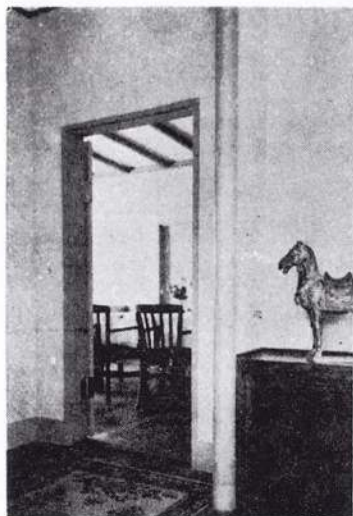
S 氏 邸

(兵庫県御影)



(居間兼食堂)

(玄 關)



(4.5帖老人室)

設計・施工 大林組

竣 工 昭和25年12月

基 礎 住吉川産玉石化粧積ミ

外 壁 腰 堅板貼りオイルステイン塗り
小壁、クリーム色スタッコ仕上

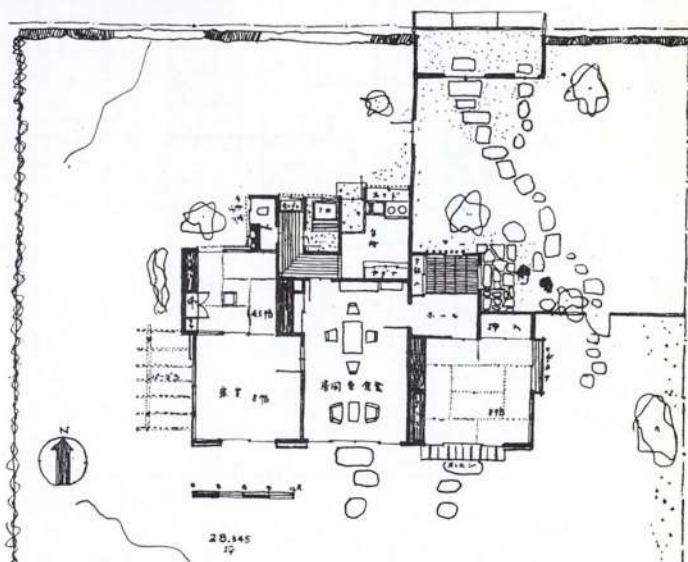
屋 根 黒色日本瓦葺キ

応接室 床……堅木フローリング貼り、オ
イルステイ、ラック仕上

壁……色漆喰大壁仕上

天井……舟底天井、化粧梁、挽肌ベ
ンキ仕上

木部……ベンキ塗り

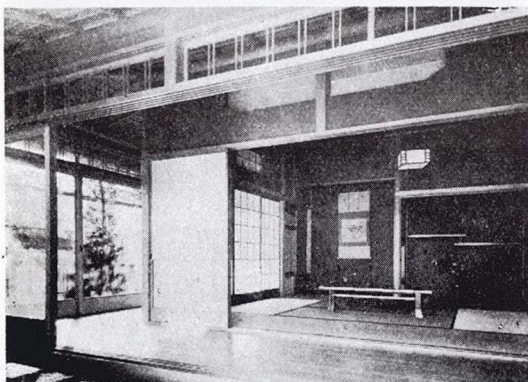


28.145
sq

(外観)



(座敷)

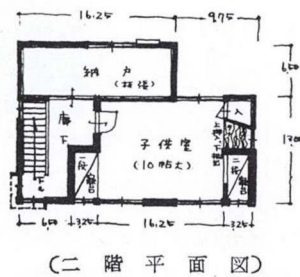
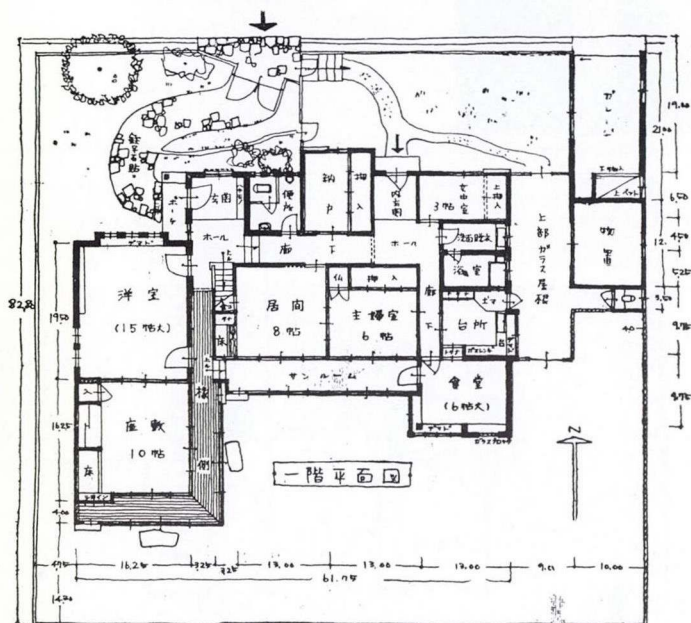


(洋室)



川村 邸

設計施工 株式会社あめりか屋
 位置 大阪市東区天神橋
 竣工 昭和25年11月
 建築面積 1階…63.20坪 合計…77.82
 2階…14.08



一階平面図



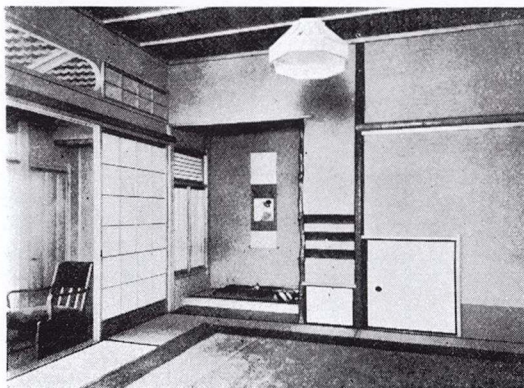
(食 堂)

構 造 概 要

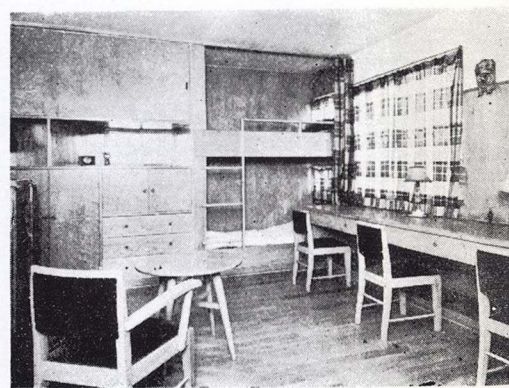
外 装 木造二階建屋根、黒S
型瓦葺キ外部モルタル
カキ落シ

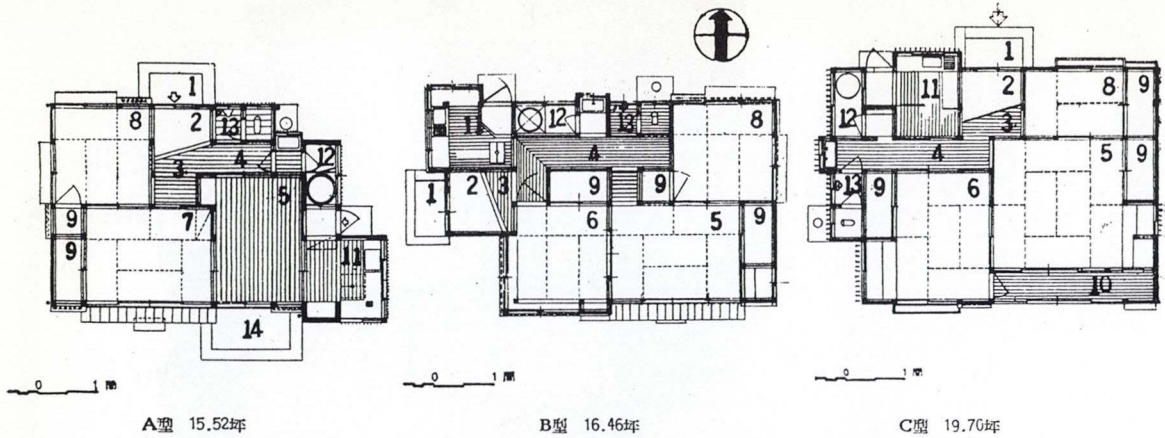
内 装 洋室漆喰ペンキ仕上
真壁木摺下地砂壁仕上
床檜フローリング土間
タイル張
天井、漆喰天井、竿縁
天井、打上天井、

(居 間)



(子 供 室)





川崎製鉄株式会社
魚崎・社宅

設計 株式会社 大阪建築事務所
施工 株式会社 松本組
位置 神戸市東灘区魚崎町

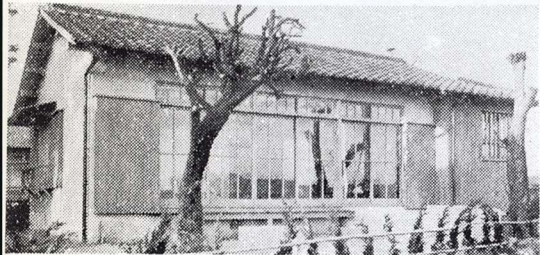
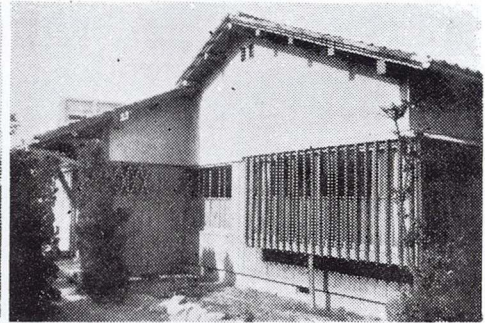
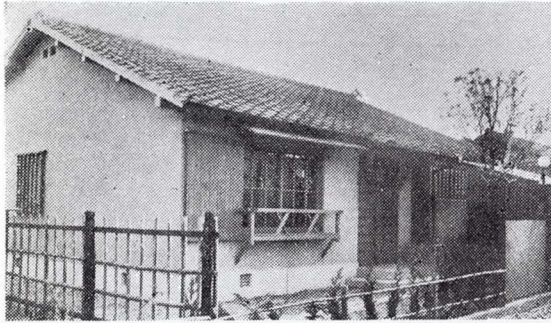
平面図説明

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1 ポーチ | 6 茶ノ間 | 11 臺所 |
| 2 玄関 | 7 寢室 | 12 浴室 |
| 3 ホール | 8 次ノ間 | 13 便所 |
| 4 ローカ | 9 押入 | 14 テレス |
| 5 居間 | 10 縁側 | |

(川崎製鉄魚崎C型社宅)

(辰己商会A型社宅)

社宅



(川崎製鉄魚崎A型社宅)

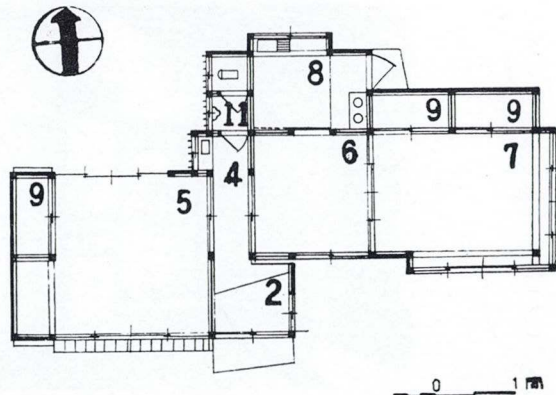


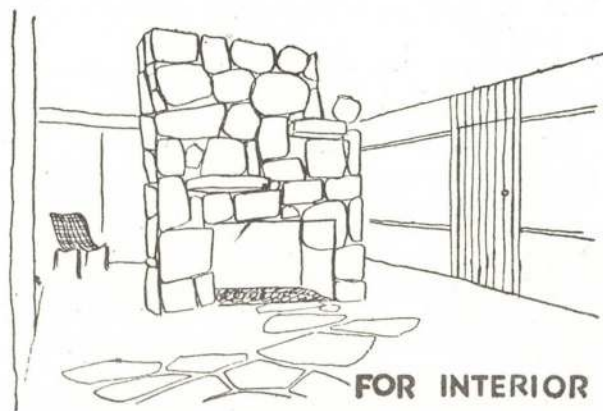
(川崎製鉄魚崎B型社宅)

- 平面図説明
- | |
|-----------|
| 1 ポーチ |
| 2 玄関 |
| 3 ホール |
| 4 ローカ |
| 5 居間 |
| 6 茶ノ間 |
| 7 次ノ間(寢室) |
| 8 臺所 |
| 9 押入室 |
| 10 浴室 |
| 11 便所 |
| 12 ベランダ |

株式会社 辰己商会社宅

設計 株式会社 大阪建築事務所
施工 株式会社 巽組
位置 大阪市阿倍野区相生通2丁目
建築面積 A型 15.00坪





住宅の室内 装備について

吉岡 吉雄

私達の国にもささやかながら、鋼筋コンクリートのアパートが続々建築されて行くのは本当に喜ばしいことです。特に天災地変の多い此の国ではどうしても耐震耐火建築でなければならないでせう。どうしても現在迄の住宅に対する観念は限界が来ているのではないでせうか。もつと経済力が豊になり社会生活が増々進歩して家庭に於ける生活様式が更新された場合、恐らく個人の住宅も経済力の許す限り高度に機能化され、知性の高い生活が営まれることとせう。

いろいろの新しい海外の住宅も其の意味で眺めるとき、良く私達に消化され栄養となるでせう。

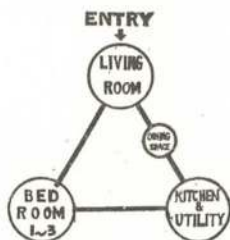
住宅の不足は当分長く続くでせう。けれども極度に切りつめられた私達の住宅にも許される限り、活用されなければならないでせう。

プランニングについて

戦後の住宅には外国でもブルジョア住宅は少くなりました。社会生活の進화가、極めて能率的な住居形式を要求しているのです。

Living Room (Dining Space を含めた) と、一つ乃至三つの Bed Room, それに厨房其の他の Utility Part. この三つが住宅を構成している主要な要素です。

客のための応接室、社交室等の部屋はなくなり、Living Room が此等の総ての役目を果しています。Living Room は家族の団欒の場所であり、子供の遊び場ともなり、又接客の場所ともなるのです。親しい客を招いてするパーティにも用いられるでせう。随つて



Living Room の大きさや Bed Room の室面積等も一定の限度があり、建築面積が或る範囲内に、固定される傾向となつています。(第1図) それから Living Rm と Dining Rm とを兼用するブ

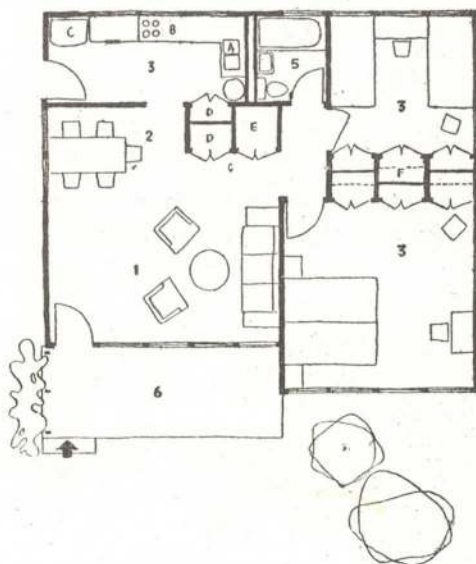
ランニングの例は、Dining Rm を単独にもつ住宅の率より遙かに大きなものとなつています。更に、厨房が居間に迄進出した Living Kitchen 等も周知のこととせう。その他に、職業のためどうしても必要とする人々は仕事部屋を持つでせう。

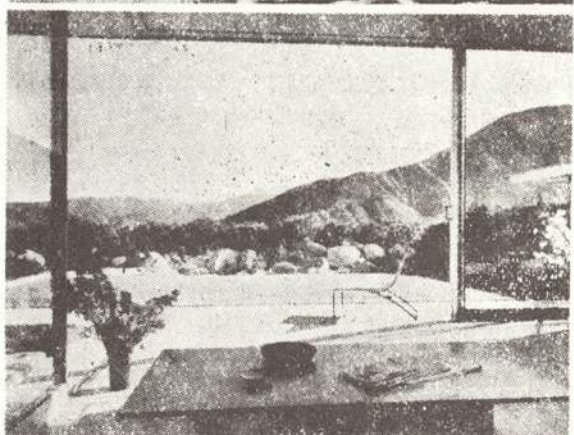
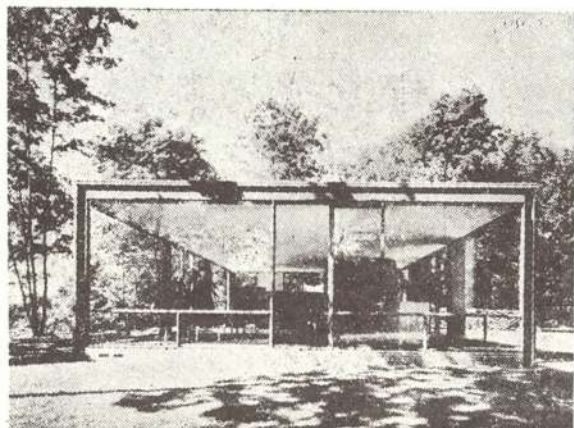
古い因習の中にも美点はあるでせうが、経済力の許す限り不合理な疊の生活を排して、これからの進歩的な人々の住宅の設計には団欒室とプライバシーをもつ寝室と機能的な厨房の三つを基調とした方向に進で行くこととせう。

新しい住宅のもつ雰囲気

住宅の外や内部に表われた意匠はこうした能率的に機能化され、必要限度に分析された中にも、やはり人間のもつ自然な慾望を満足させるということは忘れられない様です。住宅が住むための機械とされた過去の時

第1図 ジエネラル パネル ホーム
ワックスマン クロビウス 協同設計
平面の基本型 居間…厨房…寝室





代とよい対照となるでせう。環境主義とでもいうのでせうか。自然の中に融合することに主眼が置かれています。(第2図)

大きな硝子の開口部は、単なるガラスと鉄とコンクリートの建築から生れただけでなく、直接外の一部を取入れるためであり、自然の中に生活したい欲求の表れたのでせう。(第3図) 石を積み重ねた原始的なファイアープレスが、パネルヒーティングと併用されているのも単なる懐古趣味でなく、パチパチと焼える薪に、生活の喜びがあるのです。(第4図) 殊に、壁面を、石で積上げたり、節のある木材を羽目板に用いることは過去に於ても屢々試みられたでせうが、材料の持味を生かしながら、いう迄もなく、少しも虚飾でなく、構造と機能に立脚し、明るくシンプルな新しい感覚にまで洗練されているのです。(第5図)

パネルヒーティングの床に用いられた不規則な石張り、室内に入り込んだ芝生やプール、硝子張りの部屋等も自然を愛好し、少しでも多く、自然をとり入れたいためでせう。庭園等も極く自然な姿が要求されています。

ここで一つ付け加えたいことは非常にオープンな感じになつたことです。これは種々の科学の発達がそうさせたことでせうが精神的な要素も見逃せないでせう。今迄の洋風住宅の窓の小さい構造は此の国の気候風土に適しない儘に呑みにされていたのとは違つて、斯うしたオープンな住宅はそつくりその儘もつて来ても日本の風土や環境に適すると思います。最近新しい傾向をもつ住宅が建てられていますが、それ等は此の国の恵まれた自然の環境と実にしつくりと調和を保つて新鮮な感じを与えています。

一時流行したスパンニッシュ風の住宅が徒らにブルジョア趣味に惰したり、過去の国際建築が冷たい感じをもつとは余程趣きを異にしています。

又反対に従来の日本住宅の好さもあるでせうが、余りにも日本趣味に抱泥されるのは批判さる

写真説明 (上より)

第二図 ガラスの家 自然との融合
建築家 フリッツ・ジョンソンの家

第三図 開放された室内 自然の中の生活
建築家 リチャード・ノイトラ

第四図 ファイアープレスの構成
南面した硝子張りの居間、パネルヒーティングをもつ石張りの床、煙囪の向うは食堂になっている。

第五図 ブライウツドの家具
設計 チャールズ・イームズ
高周波で接合された成型合板の家具は新しい感覚をもつ、長方形のベンチ上に、食器棚もベンチの寸法に合せてユニットにしてあるから使い方によつて好きな配置に變へられる。
収納家具もユニット式で量産される。

べきでせう。すべては新しい精神と科学が解決して呉れるでせう。

住宅経済の上から見ても、極度に切りつめた合理的な予算によつて最大の効率を計ることに努力されています。こうなれば住宅にも充分な商品価値が出来て来るでせう。住宅に限らず近代社会に於て経済性と背馳する様な試みは社会的に意味が少ないことになります。故に必要以上というより装飾らしき装飾は一掃され、いわゆる室内装飾という古い言葉は追放されねばなりません。そうしてこれ等は建築自体の解決すべき問題であるのです。構造と材料と機能が、それ等の形と調和の上に新しい美を造型しています。全体に大まかで少しの無駄ややつもないデザインです。

必要なカーテンや家具等の形や色彩の選択等は主婦の役目であつて、建築家は助言を与えるべきでせう。

構造・機能・材料

住宅の構造について、合理的な考え方の一例ですが、大きなビルの構造方法 (Skelton) の様に、柱間を整然と並べ、フラットルーフの屋根をのせ、各室の間仕切は自由に得られるカーテンウォールの方法が住宅にも用いられる様になつています。

(第6図)

柱やビーム、スラブは木材等を用いられることもあります。本来ならばやはり鋼筋コンクリートですべきでせう。

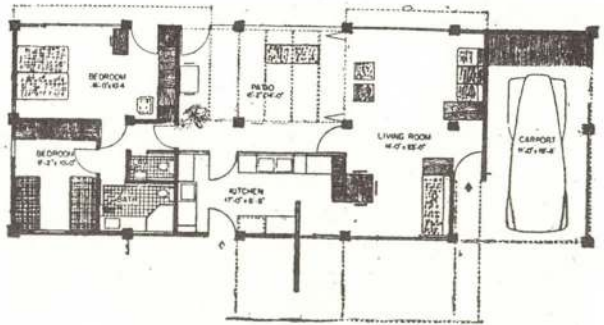
いいかえれば壁面は外壁と間仕切とを問わず主体構造から完全に分離されていることです。

(Constration + Screen)

で解決されています。柱や梁の主体構造は統一され、均等に屋根荷重 (又は床荷重) を支えていて、壁体には荷重がかかつていないのです。住宅の経済性から見れば、構造の合理化が追求されるのは当然でせう。

このために、Planning が拘束される心配はありません。耐震的な鋼筋コンクリート構造の場合複雑な平面に随つて、コンクリートを打つことは極めて無意味なことです。この主体構造は木材や又、軽金属、鉄骨等で構成される場合もメンバーの統一が可能です。

そうして木材やブライウツド、アルミニウム、それからガラスによつて外壁や間仕切が造られて行きます。家の外壁はどこにでも大きな開口を得られるでせう。その結果室内装備とプランニングは同一義に考えられる様に



第六図 構造主体と間仕切を分離された。カーテンウォールの住宅。各室の間仕切は自由に造られる。

なりました。新しい意匠は新しい構造によつて可能となることは近代建築の通念でせう。室内装備という課題でしたが特に構造を取上げた所以でもあるのです。

機能 三 それから気候風土に対する順応と充分な保護とが考えられねばなりません。

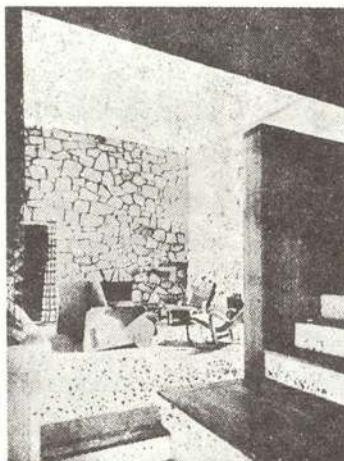
長く突出した庇は夏の日射や雨を防ぐでせう。床下を掘下げて通風換気を計ることや (床が地面に接するのは防湿上悪い)、床を二重張りにしてその間に防水紙を入れることも湿気の多い此の国では当然されるべきでせう。壁や天井は防音と防熱のために全部 Insulation が施されています。

又、日射を調節するベネシアン、これ等は住むための機能を充分に充す不可欠の要素です。

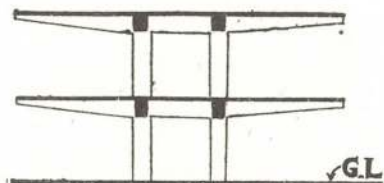
暑い夏をしのぎ容くするため、大きな硝子の開口部を開け放したり、

間仕切さえも開閉出来る方法や、移動式のものとするのが、室の融通性をもつことにもなり、平面上の機能と生活科学的な機能とは同時に考えられねばなりません。

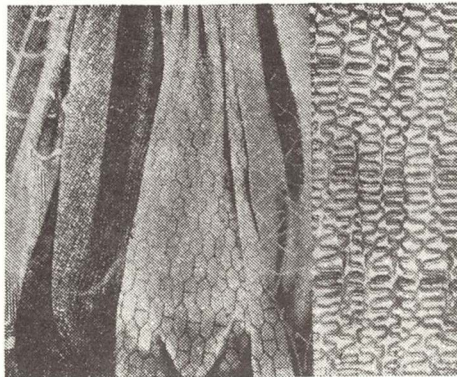
暖房は前にも述べた様に殆どがファイアースレスと機械暖房を併用しています。単なる見せ掛けのファイアースレス等は面白くありません。機械暖房も温水パネルヒーター



第七図 石と木材で構成された壁面、石の壁は構造となっている。建築家 マルセルブロイヤーの家。グロビウス及ブロイヤー協同設計



カンティレバーで支えられた主体構造の例、此の Floor の上に室が仕切られる。



第八図

模様の幾何学的なものが好まれる。
カーテンは織物プリント共に流行している。

ングや温気暖房が住宅にも普及しています。

厨房や浴室等の衛生設備は既に数多く紹介されていますので省略します。

材 料 コンクリートはパイプレーターを使用することによつて稠密となり、資材の節減と同時に、打放しの儘のコンクリートの肌の美しさが、賞用される様になりました。型板にプライウツドが用いられ室内に露れる部分にもコンクリートの肌が適用されるでせう。モルタル仕上とすることは亀裂や剝落の原因でもあるのです。モルタルでお化粧することよりコンクリートや木材や石の素材の構成を生すことが近代的な美しさとなりました。カーテンウォールや間仕切は総て統一されることが望ましいものです。室高は8呎位のものが、多数をしめています。

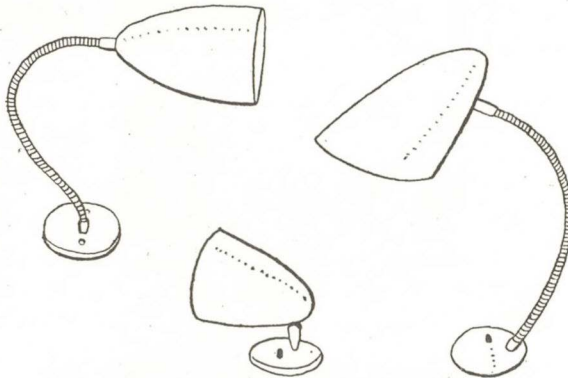
8呎位でも全体が Open な感じであれば少しも圧

迫される様な感じがありません。玄関から居間、寢室等全部一つの Case に扱つたり、室毎に仕上を変えないで同じ仕上であつたりすることは、かえつてシンプルで伸び伸びと気持ちのよいものであり、且つ経済的でもあるわけです。

用いられる材料は、木材、プライウツドが普遍化されています。プライウツドは3'×8'又は4'×8'が単位となっています。ほとんどが合成樹脂接着材にて加熱処理されているので充分な耐水性をもつていて、外壁にも使用されるのです。

此等は現場施工が多いのですが、現場施工の複雑なのに対して、Prefab で互換性のある組立式パネルを併用すれば工期の短縮と工費の節減にも利用することが出来るでせう。此等の方法を併用することは秩序ある中に Prefab の利点と又 baferP の得られない自由な平面と耐震性をもつことになるでせう。

壁材料にはプラスチックも利用されています。



第九図

ジェネラル、エレクトリック会社の照明器具の標準型、天井や壁の間接照明用、室の一角から天井を照し出す方法が流行している。
卵型の笠はアルミニウム製で自由に回転する。

「ワーライト」という製品が出ていますが白色や淡色の他綺麗に木の空目やトラバーチンを転写したものもありますが、やはり自然の木の持つ良さは忘れられない様です。これは厨房、浴室等の乾式構法に良いでせう。

「フレクスウツド」として裂や紙に薄いペニヤを張り付けたエンドレスの壁紙も市場に出ています。軽合金を用いることもつと利用されて良いでせう。プライウツドに耐火性を与えるために、塗料や接着剤を耐水、耐火性することや耐火ボードを芯材にプレスすること等も考えています。

木材やプライウツドに用いられる仕上の色は生地を生かしたナチュラルなカラーが好まれます。

燃えやすい木材の塗料のため従来の硝化綿塗料（ラッカー）から引火性の少く被膜の強い合性樹脂塗料に変わって来ています。

家具其の他

アメリカ等では家具はその家々に合して設計したり製作する様なことは殆どない様です。そうすれば非常にコストが高つくからです。

建築家や、デザイナーによつて作られたすぐれた作品は量産されていて、必要なものを選択して配置する様にしています。家具もプライウツド等新しい技術を用いたフレッシュなものです。総てが新しいイデオロギーに出発しているためでせう。違つた設計者の家具を同一の室に配しても少しも不自然ではなくむしろ渾然と建築と融合しています。これ等はサーリーネ・イームス・ブローイヤー等の作品によつて代表されています。

書棚や服ダンス等の収納用家具は屢々ユニットにされたり又ビルトインされたり、間仕切として利用されるのが一般です。（第7図）カーテン等模様のあるものは新しい幾何学的なものが流行しています。（第8図）

照明は蛍光灯と間接照明に移りました。蛍光灯は虹輝のないこと、天然光線に近いこと、影の出来ないこと、発光能率のよいことで完全に他を駆逐して実用の域に達しています。特に光を拡散させるためのルーバーを附し間接照明として盛に用いられています。ルーバーは天井に埋め込まれて建築に調和してシンプルとなっています。蛍光灯と同じ様にもう一つの傾向は局部照明の効率的な利用です。室全体のやわらかい光と強い白色光のスポットのコントラストが親しみのある雰囲気醸しています。フローアースタンド、テーブルスタンド、ブラケット等のスポットはいづれも機能的に設計され光源の移動や伸縮が自由で多くは軽合金の反射笠をもつスマートな形で大量生産されています。（25頁に続く）

「住居」の考へ方——

特にその内面的な考へ方——について

白 木 小 三 郎

この頃、時々こんな事に会つてよく考えさされる事がある、それは一私が戦争中から丹波の田舎に引込んで居た関係や、民家探訪に、時々田舎を歩き廻る関係からなのだが一汽車のない様な不便な田舎をバスが通う様になつて非常に便利になり、又今までガタガタの自動車の走つて居た様な所も見違える様な立派なものが走る様になつた。田舎の薄汚れた駅前に見かけるスマートな車体等、目を見張る位だし、然かも大きく堂々としてローカルの汽車よりもたのもしくさえ見える位だ、又時には大阪の御堂筋を走つて居る様な、トレーラーだつたりする。

一瞬それが走るであろう田舎道を忘れて、それが走り出す迄は、乗つて走る愉快さにすつかりうれしくなる事がある。

然し間もなく動き出すと、又完全にみじめな現実にもどされてしまう、田舎道は依然として洗濯板の様な凸凹道であり、大型の車体であるだけに益々弱点が拡大されてひどい、家並の道路等に入ると両側の軒端の瓦に触れそうにして走る道の狭さも依然そのままである、そのため田舎での唯一の幹線道路が一日の内、何度か殆んど事実上の交通止めになり、人さえ通れぬ様な状態で、ましてその他の車と名の付く様な物は手押車に類するもので、その度毎にあつちの辻、こつちの小路に姿を消さねばならぬ様な情ない有様である。

住われる「生活」を内面的に考えずに「住宅」としての形だけを整える事を急ぐのと何んとなく似て居る。もしもこんな事が事実として吾々の生活に現われたらどうであらう……

又戦争と敗戦の結果、特に都市に於ける住宅が、所謂雨露をしのぐ程度の焼トタン板の小屋から次第にバラック建築に変わり、愈々本格的な「住居」を考えねばならぬ時期になつて来た、と言うよりも、研詰しつくされた設計が愈々施工に移さるべき時だと言うのが正しいかもしれない。量よりも質を考えねばならぬ時とも言える。

然かも戦後の思想的な大きな飛躍が「住」問題にも種々大きな課題を提示して居るが、これを真正面から解決を迫られて居る現状だと思う。曰く民主的社會の建設、曰く家族主義への反省等々「住」問題として具現されなければならぬ。抽象的な、客観的要求が仲々多い。その他の施策にしても新しいものは、「住生活」の満足な解決と具体化とを背景に持たぬものは少いとも言えよう。然

かも戦後の不完全な「住居」が一社会的な総ての分野で敗戦と言う現実の前に、敢えて主体性を放棄して、表面的な欧米模倣に日もこれ足らぬ様な虚脱の状態をつけた一所謂戦後の不安定な時期を作つたとも言える。然し見失つてしまつた様な自己への反省が、欧米の世界の直訳的模倣の形から、自主的に撰択された形で吾々の社会生活の中に生かして行こうとする主体的な意欲の回復の見られる今日「住」問題に就いても同じ様に今日の吾々に適したものが生まれて来ると思う、と言うよりも何にも先んじて作り出さねば、社会的な安定が望めないとも言える。

新しく要求される民主的な合理的な提案が、歴史的にも、風土的にも、吾々の生活の中に大きな断層を作らずに生かして行くためには、過去の吾々の生活への卒直な反省と、回復されつつある主体性により深い内面的な解決に、揆たねばならぬものが多いのではなからうか。

即ち先づ客観的な提案を主体的に、外部的な要求を内面的に、解決しなければならぬものと思う。これがそのまま「住」問題の考え方であり解決の方法だと思う。抽象的な種々な客観的要求を主体的な方向からする考え方のための又科学的に合理的な提案を内面的な方向からする解明のための、研究をここに改めて取上げようとする所以である。即ち生活様式とか生活感情とかを問題にして――

(一) 焼け跡の瓦礫の中に作られた、焼けただれたトタン板と、焼けこげた木材との堀立小屋のわびしさに、あの頃はよく吾々の先祖が営んだであろう堅穴又は平地式の草葺の堀立小屋を思い出して、考え合せて見ては、同じ形の下に流れる内面性の違いを比べて見た。

吾々には、どんな時でも、どんな所でも、何等かの形の「住居」が必要なのだ。然し問題は時と所によつて違う形を内面的に規定してるものは何かと言う事である。

自然環境が人々の生活の殆んど必然性となつて居た様な頃の人々の「住居」に対する考えと、自然環境を且つは風土的影響を、自由に撰択の出来る可能的条件と考え得られる様な立場の現在の吾々の「住居」に対する觀念とに、非常に大きな差のあるのは当然すぎる位に当然と言えるだろう。

然し現在の吾々としても決して自然環境から凡由でないのも自明である、と言うよりも、自然環境、風土の影響、との長い間の関聯の下にこそ「生活感情」が生まれ

生活への主体性が育まれて来たと言えるのだろう。それが又風土的な環境の許す限りの材料で「生活様式」を形作り、造形表現の一つとして「住居形式」を作り上げたのである。この様に風土性が人間生活に大きな有機的関聯を持つ事は明瞭な事実ではあるが然し風土性又は自然環境が直接生活の様式を規定する力を持つと言うのではなく、唯、生活活動の成立を制約する一定の限界を示しているに過ぎない。例えば、生理的にも肉体的にも最も恵まれた条件の下で必ずしも精神的な文化活動が最も盛んであるとは言えぬ様に、吾々の、精神的な自発性と行動的な能動性が、生活活動の原動力となるのである。即ち、風土的な必然の限界は吾々にとつては、そのまま生活上の可能的な条件の総てであると同時に、可能性の体系なのである。ここに、精神性が自発的に、能動的な行動をする余地が残されて居るのである。

さて生活様式の相違と、風土性の相違との間に、直接的な関聯はないとしても、風土性と動植物—即ち間接的風土性—との関係を介して、外部的に且つ内面的に関聯を持つて来る。ここに吾々の生活する風土性とは、気候的、自然環境的、生物的な一連の有機的環境の事であり「衣」「食」「住」等の全生活はこの様な環境との交渉の下に成立すると考えられるのである。

即ち気候的な影響は、直接植物的に結果が表れるし、植物的な特異性はそのまま動物的な特性となつて現われる。この様な直接的な風土性と、間接的な風土性との有機的な関聯の下に吾々の生活は成り立ち、この様な関聯の仕方の特異性から「生活様式」の特異性が「生活感情」の特異性が、育てられて来ると考えられる。

例えば日本の様な、なごやかな気候風土の海洋式な地域では雨が多いので、種々な植物がよく繁茂する。従つて動物も草食動物が繁殖する様に、吾々の生活も植物性に依存する様になつて来るのは又当然で、家屋について見ると、先づ夏の蒸し暑さと、雨の多い事に対する配慮が第一に要求されるのである。これに対しては当然開放

的な構造と傾斜した屋根が考えられる、所がこの様な気候風土の吾々に建築材料として、提供してくれるものは、植物性のものでありその第一のものが木材である。然かも木材は、開放的な構造の家屋を作るに便利な架構式構法に最も適した材料であり又萱等の植物は急傾斜の屋根を葺くのにこれ又適した材料なのである。

即ち、夏の蒸し暑さに対する開放的な構造と雨に対しての傾斜屋根と、家屋に対する気候的な要求は、この様にして間接的な風土性の産物によつて充足されるのである。

この様な直接的風土性と間接的風土性との呼応性の下に、自然に生まれて来る住居は或は生活様式は、吾々に自然に対して極めて従順な住居観或は生活感情を育て上げて来るのである。

又、この様な高温多湿な気候であるから、植物質の家屋は、割合に早く腐つて耐乏性がないと言う欠点と、そして燃え易いと言う欠点からのがれ得ない、この様な材料の上の制約は、そのなごやかな自然の恩恵と共に、住居のひいては物質への淡々たる気持となり物質的な家屋を「仮り宿」と観ずる様な又、観念化された「家」をこそ「心」の安住の物所と考える様な住居観を作り上げて来る。

中世以後になつて仏教的な「無常観」と結び付き「わび」「さび」等の感覚となり、茶室等の数寄屋造りの造形表現となつて来たり又近世の「粋き」と言う物にこだわらぬ気持等「物より心え」の観念にも、つらなつて来る。

又、地域的な特性である、小さくて美しい景観、恵まれた自然の姿、この様な自然環境の下で営まれる「生活」は鋭敏にして繊細な自然感情を育て、自然の観察力の中に、極めて発達した直観的能力を作り上げて行き、短小を愛すると言う特性が生まれて来る。短小性の中に、豊富な体験内容を盛るとき、形式を溢れ流れ出す「匂」や「響」が、簡潔性の中に輝く様な特有の象徴性を具えて居る。これ又「わび」「さび」の体験の基盤であり、茶室等の数寄屋造りの造形の基底をなすものであろう。

一方これに反して大陸的な乾燥した気候風土の下では、植物の繁茂が見られない。従つて、動物も少い、そのために動物の人工飼育は人間の生存に、是非必要なものになつて来る。

衣も食も共にこの人工飼育による、動物質に依らざるを得ない、この様な少ない恩恵の自然性を補うために生活技術が発達して来る。

住居にしても植物質に依る訳には行かないから石材や粘土の加工品等に依るより仕方がない、屋根も雨が少いから蓋をして置くと云う程度の陸屋根の様なので充分になる、殊に寒暑の差のはげしい気候は屋内を出来るだけハッキリ、外氣と隔離する事が要求されるのである。石材又は煉瓦等を材料とする場合、組積式構法が最も適



建築 (JOJ) 金物

ドアハンガー

工場・倉庫・ガレージ
の扉に御使用を御奨
め致します。

吊下げ重量
1号-60kg 2号-100-kg

(全国有名金物
店にあります)

J.O.J 印ドアハンガーは車軸の周囲は銅焼
入ローラーベアリング装置になつて居ります
から丈夫で扉の開閉が軽く取付には吊下げを
自由に調節できます。

製造元・大阪・大同鑄造株式会社

したものであり、開口部の少ない壁面だけの様な家屋構造が最も合理的なものになる。

この様な閉塞式な構造の然かも壁の厚い家屋は、はげしい気候風土から、吾々の生活を隔離するのに最も合理的なものとなる、居住空間の区劃は従つて自然環境から独立した、個有の空間の創造を意味するのである、自然環境の少ない可能の条件を最高度に活用する事によつてのみ「生活」が営まれ得る訳で、ここでは従つて最高度の工作技術が要求されて来るのである。

即ち、この様な風土的環境に於ては「如何に生きべきか」と言う、生活的な命題が直接「如何に考えるべきか」と言う命題に結び付き「如何に作るべきか」と言う創作的な命題にまでつらなつて来る、人間の生活はこの様に風土的条件との全智全能を挙げての真剣な対決の下にのみ可能になる。

どちらの風土にしても、もと風土性に出発した「生活感情」や「生活様式」は逆に風土性を可能性の限界として、それが撰択の自由を持つて主體的になつて来て「住居」の内面性の規定者になるのである。この様な「住居」の内面性の規定者である「生活様式」「生活感情」は一方では、風土性の内面から直観の豊かさを、もう一方では知性の鋭さを汲み上げて来る。

自然と言へば普通それ自体、必然的な法則の体系と考えられるが、これは自然を単に知識の対象と考える限り間違つてはいないが、然し自然を生活的行動の対象と見るときは事情が異つて来る、それは自然を生活環境として素直に受入れ、その中で生活する吾々が、あくまでも主体性を持つ限り、その中で自由に撰択の出来る可能性の条件となる、即ち知識的には必然的な体系と考えられたものが生活的、行動的には可能的な体系となつて来るのである。

これがそのまま生活の内面性—生活様式、生活感情—の相違になつて現れて来る。

(二) 風土的環境に対する関心と同様に、生活の歴史的方面を見きわめる事が、そのまま「生活」の「住居」の内面性の動きを示すものとして重大に考えなければならぬ。

横穴等を住いとしていた自然利用の歴史以前の人々の場合は暫く置き、家屋を作る様になつてからの人々は、その時の生活様式に適した「住居」をその時の生活感情に即して作つたに違いない、即ち上代にては吾々の先祖は、洗ひ浄め、払い浄める、清潔を好む性格の持主であつたらしい、神社建築様式に見られる一当時の住び—直線的な素木造りの様式は一面清潔をよるこぶ当時の人々の「生活感情」の造型的表現と見られる、又仏教と共に華やかに伝えられた支那文化の殆んど絶対の支配下にあつた王朝時代の貴族が自己の生活に密着した方向では殊に住居様式では断然従来の簡素なものに一層の感覚的な洗練を加えた、寢殿造えの方向を取つて伝統の持続の強さ—殊に「住居」に対する内面性の持続性を示して居る。

この様な民族的な造型文化的な特性は、自然環境から

文化環境への時間的転回点に成り立つもので、然もこの様に漸次自己自身の固定性を築き上げる、これが文化的伝統となり、生活的伝承となり、それを形成した主代から離れて独立せる存立性を持つて住生活を内面的に大きく規定するのである。

中世以後禪宗の文化の支援により、伝統されたものをより深く掘り下げたものと思う。即ち抽象的な伝統を再び吾々自身の生活の實際に於て、体験し「形から心へ」の求心的な方向を取つて表われた、簡素を好む心、清浄を好む心が「わび」「さび」と言う仏教的生活体験を加えた生活感情になつて現われて来た、漢語の「数奇」と言う語が当て嵌められて居るが「数奇」とは「数命不遇」と言う意味で、それが持つ「すべてそなわぬ所から生まれる美」と言う一「不完全な美」と同義性から使つて居る様だ。

茶室等の草庵風の数奇屋造に見られる造型美は調和を破つた不調な不完全な所から生れて来る、内面的に調和を求める心と生活との均合の美で単に感覚的に美しいとか機能的に美しいとか感ぜられる様なものの基底をなして居る。即ち生活的な「内面性」にこそ、味い取らねばならぬ「美」の実体がある。

これが武家時代になると、これ又禪宗の宗教生活に起源を持つ書院造住居になる、それはもと簡単な直線の組合せで、天井も柱も床もすべて自然の素材のままのもので作られた、素朴な簡潔なものであつた。しかもこれは禪家の生活から生れたものであるから、その精神的な生活から受ける洗練は、単なる造型美を超えた深さを持つものであろう。それが武家的社会の封建制は、これに倫理性さえ加え、床の間などは倫理性と審美性との融合されたものとなつて来た、間取等に就いても四つ目の形式から変化した、単に平面的区劃に過ぎない「住居」の内面構成が空間区劃の住居以上の整然たる生活秩序を保つて動いて居たのは、封建性と倫理性の力と言へるのであるが、又住居形式と生活的内面性との完全なる一致とも言へる。

この様な歴史的背景と洗練とを受けて来た「民家」には単に感覚的に或は機能的に形の上をなで廻しただけで

サッシュ・ドアー・シャッター
鋳金製品・自動車々体
部品・車輛・発動機

日本建鉄株式会社

大阪事務所	大阪市西区江戸堀上通二ノ五七 電話 土佐堀 ②188番
本社及 東京工場	東京都荒川区三河島七ノ七八〇 電話 下谷 8155~8159
中川工場	東京都葛飾区奥戸本町一〇〇〇 電話 本田 190・196・1018
船橋工場	千葉県船橋市海神町二ノ三五〇 電話 船橋 509~511
丸ノ内 営業所	東京都千代田区丸ノ内二ノ三 三菱新館内 電話 丸ノ内 973・4501

は、解釈のつかないものがある、即ち、生活的現実として、全身的に把握されなければならぬものがある。

又「民家」には、この様な歴史的な伝統性と生活的な現実性とを調和した姿で、然も時間的なズレ或は、地域的なズレをさえ超えたものを感じる、然し近世になると社会的に封建的な身分上の分化だけでなく、職能的な身分上の分化が次第に盛んになり、「民家」の類型にも封建的階級意識による分化、経済的、社会意識による分化等々が行われて来るが、時代の変化と共に或は現われ又或は消えてしまう。この様に「住居」としての本来的な意味よりも多く、社会的な経済的な意味を持つて現われたものは、「民家」としての生命が短い、これに反して土地生産に生活の基盤を持つ「農家」は、風土性に太い根を下して営々として歴史的に推積された生命を生きつづけるのである。

即ち「生活感情」或は「生活様式」を生命のままで把握する所に「住居」を考える場合の「内面性」の意義が出て来ると思う。

同じく「民家」の範疇に入るものでも、この様にハッキリした性格の違いが一「町家」と「農家」との差が一見られる。歴史性の差ではなく、風土的自然環境との相即性の差である。即ち「町家」に街村的環境と都市的な環境との発生源に違いがあつてもどちらも古い歴史的背景を持つて居る。然し本質的には土地生産から離れて生れ、社会的な進化と共にその属性として育ち、中世期的封建社会と近世的資本主義経済社会との過渡期に「商家」として発展を見た訳である。従つて「町家」は所謂古い意味の庶民的な性格と経済力により形式化した封建組織に対する実力の勢力たらしめた性格との二重性を持つて発展したのである。同じ様な間口の狭い奥行の深い通庭式の町屋形式は外面的に又内面的に違った二重性格の一類型を形成した、即ち一方には庶民的な格一的な外観を持ちながら一方ではその経済力による差がまちな内容を持たせる様な「町家」の類型が出来て来た。この様にして形成された生活様式は愈々社会的な環境のみに規定され社会条件によつて大きく変動する事になる。然しその過渡的な性格そのままに「義理」一封建的觀念と「人情」一庶民的感情とが変動する「家」をその生活内面から支えて居たのである。

一方「農家」は「住居」として自然環境に即した殆んど自然発生的な歴史性を持つて居り、生産生活の面から見ても土地生産の風土的環境に根を張つたものである点、大きな生命力がある訳である、然し中世の封建社会では「生産性」のみが取上げられ「生活性」が従になつて、農業生産のための家屋に人間の封建的な社会的生活部分を持ち込んだ様な形にさへなつた。即ち「農家」の一般的な類型である四つ目形式の間取に広々とした土間がついて居るのであるが、床張りの大部分は公的な生活のために広々とした土間は農業生産のための作業場に当てられ家族の人々の住生活部分は片隅の方に押やられた様な姿であつた。即ち集約農業方式のために家族主義的「農家」が形成されて来た。この様に中世期的な歪曲を受けたにせよ「生活」の基本は大きく自然に根を張つて居た所に、時代的な変動の少い、大地に根を下した様な素朴な「農家」がたのもしく見られる所以である。然しこの方面に於ても、新しい時代の要求は或は農地開放とか、自作農創設等と抽象的な課題が仲々多い、即ち新しい生活様式の下に新しい生産方式の育つて来るのが待たれるのである。例えば生産作業の協同化から生活の共同化まで、生産方式と新しい生活様式とが一貫的に考えられては居るのである、家屋の方で見ると居住部分と作業部分の分離から共同住居まで論議され計画されて居る。然しこれの実現は仲々であると言うのは先づ解決されなければならぬ内面性への反省が不足して居るため殊に農村の保守性は益々これが実行を妨げて居る、然し敢えてこれを先決する事こそ農村住居の解決の鍵である。

これと同じ様に都市に於ける「住宅」問題も単に建物としての解決の方策は論議されつくされ設計も出来すぎである位立派なものを見る事が出来る、それが例えば実現したとしても吾々の「住居」として動き出すためには道の悪さに悩む例に上げたスマートなバスの様な悩みを味わなければならぬのではなからうか。

然かもこの様な時に道路の方面から交通機関を考える見方が割合不足してゐるのではなからうか。

地味ではあるがこの方向からの「住居」を考える事も新しいスマートな「住宅」を設計する事と同様に意義のある事だと思ふ。(完) (筆者・大阪市大政学部助教授)

理想的床材料

リノリウム



リノタイル

特製リノリウム糊

東洋リノリウム株式会社

本社・工場 兵庫県伊丹市伊丹五五八 電話 伊丹 1・51・69

大阪事務所 大阪市東区瓦町二丁目 三和ビル 電話 北浜 375・376

東京支店 東京都中央区銀座四丁目 三和ビル 電話 京橋 1701・2564

最近の住宅設備について

石 原 正 雄

デザイン、構造、設備という三分野に建築を分けて考えてみると設備の占める地位は極めて重要であるにも拘らず、いまでも附帯設備と云われているように、何か余分に附加されたものだと言う感がある。これは単に言葉の上の感じだけではなく建築の設計過程や設備技術者の占める社会的地位をみれば明かなところである。このことはともともと欧米に於いても見られる傾向であろうが我国で特に甚しいようである。しかし設備の進歩によつて建築が得る所は極めて大きく、それはデザインに、より広い自由度を与え、新しいプラン、新しい造形を可能にして来たのである。例えば台所、浴室、便所など昔は種々制限があつて、その位置を限定されたものである。新しい台所設備は排気装置の完備と共に台所を居室の中に置くことも出来るし、浴室も焚口の關係で台所に隣接させる制約もなくなった。又水洗にすれば便所を室の真中におくことも可能である。このようなことは他にいくつても例をあげることは出来るが、これは全く設備の進歩に基いているところである。また各種設備の機能的形体——実際には機能的にみせかけた物が多いが——例えば照明用ルーバー、吹気吹出口のグリル、アネモスタット等は室内のデザイン要素として無視出来ないものになっている。従つて建築家——デザイナーは先づデザインしてから設備は設備技術者にまかせるといふわけにはゆかない。構造、デザイン、設備の技術者が最初から協同で一つの建築を作りあげてゆく組織がなければ、これからのよい建築を作ることはむづかしいであろう。しかしながら更に重要で且根本的なことは設備の占める社会的、大衆的な基盤がないことによつて我国では、設備の地位が低くまた協同の組織も出来てこなかつたのだと云うことである。進歩しか技術を実現出来るのは、極く一部の大会社や高級住宅に限られている。こういう傾向は勿論アメリカにもあるであろうが、商業主義による欠点は多々あるにしても、常に新しい設備が大なる普及率を持つべく、研究され、設計されている。アメリカではともかく社会的、大衆の基盤の上に、安定していないまでも連絡がある。ところが我国では全く連絡がないといつてよい状態である。ヒートポンプや太陽熱利用というような最新の技術は我々の知識になつても、いまだに蒸気暖房はおろかストーブさえない原始的住宅にとつては何の役にも立たない。だから新しい設備が紹介されても「なるほど、そんなものも出来たのか」という程度の感じしか受けない。アメリカの新しい台所設備などが紹介されても、我々の台所と余りにも違いが大きいため、現実の低

水準を一段でも高くする役には立たない。即ち技術の社会性、大衆性が建築設備、特に住宅の設備についてみると甚だ稀薄である。

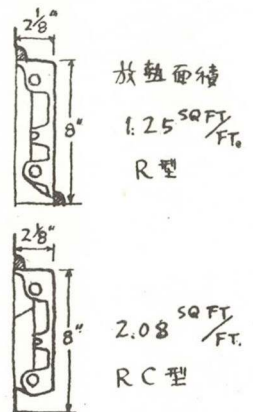
新しい設備を知ることとは勿論、必要なことではあるが、何か我国の現状を考えると割り切れない思いがする。以下数種の雑誌や書籍によつてみた、主としてアメリカ、イギリスの住宅の暖房装置を紹介しようと思うが上述の如き意味で我々の技術から余りにとひはなれたものにはふれないことにした。

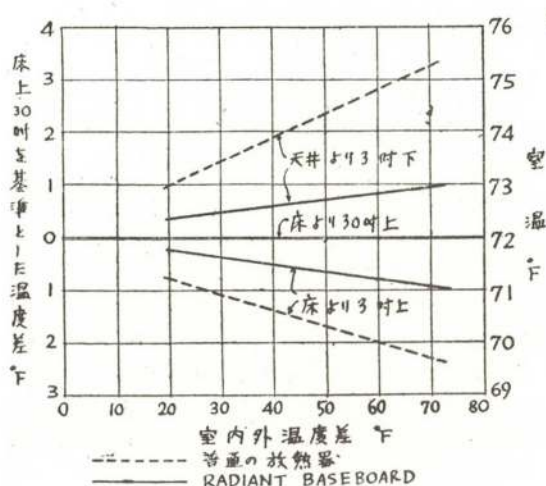
アメリカでは暖房用燃料として重油、粉炭が最も多く使用され、次いで石炭ガスが利用されている。最近、新築住宅にはガスを燃料とした暖房が多いとのことであるが、新しいものでは重油とガス共用のヒーター (Multi-Fuel Heater) が作られた。ガスは平均暖房負荷時に、重油は最大暖房負荷時に使用する。ガスだけに頼ると、最大負荷時のために供給パイプの太いものが必要となるので、それを避けるため重油と共用すれば経済的になるのである。なお重油とガスとの切換えは戸外に設置されたサーモスタットによつて自動的に行はれる。給湯と暖房ヒーターを一つにまとめた Combination Heater というのがあつて、輻射暖房用の低温水はヒーターの下部及び外側のチャケットから、給湯用の高温水は上部から得られるものである。なお給湯用温水は直接、供給パイプに接続している。この種のボイラーの容量は 81,000 及び 110,000 BTU/h で共に供湯量は 3ガロン/minである。一般にヒーターは空間を利用するために背を高くし、向、その床上に占める面積を出来るだけ少くする傾向がある。

Space-saving Equipment

と称せられているものである。石炭ボイラーは住宅用として、よくまとまつてエヤーコンデショナーのようになつてきている。燃焼効果のよい方法としてはまだ燃えていない石炭を通過した空気が燃えている石炭を通過した空気に合流し、これらが直接通り抜ける空気に合流するような装置であつて、このような装置では、例えばフルに燃焼せしめて16時

第一図
巾木暖房のユニット断面





第2図

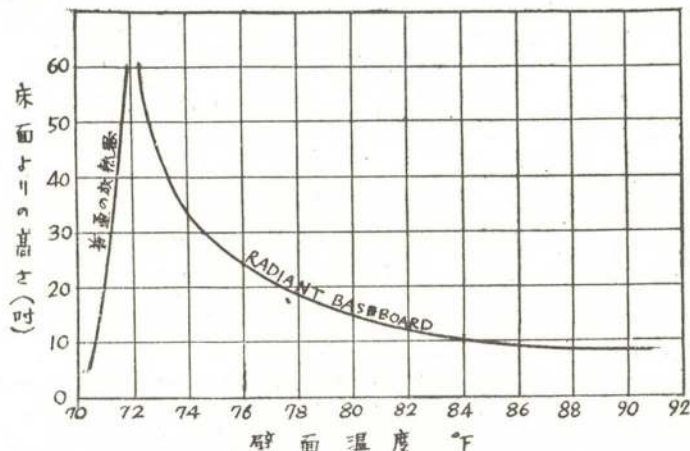
スベストをつめた煙突と、それをかこむ四角の屋根裏換気用のベンチレーターとからなっている。

巾木暖房 Baseboard Heating

新しい放熱器として、ここ数年来盛んになつたもので Radiant Baseboards と称せられる。これは巾木の位置に断面の高さ7~10吋、巾2吋前後の巾木を一廻り大きくしたようなケースに鰭 (Fin) 付のパイプが通っているものである。これについてはイリノイ大学で実験した結果、従来の放熱器に比較して種々すぐれた点のあることが明かになった。それは次のような点である。

間かかる石炭を72時間にのばしてゆるやかに焚くことが出来る。煙突はこれまでのように独立した構造物でなし

- 1、地下室なしの床スラブ温度を快適な状態に維持するに適している。この放熱器は長くて位置が低いから、放熱面積が大で、且つ広く分布しているから暖房効果がよい。



に屋根や天井に支持出来る工場生産の軽量なものが出来る。これは二重の円筒金属板の間に熱遮断のため

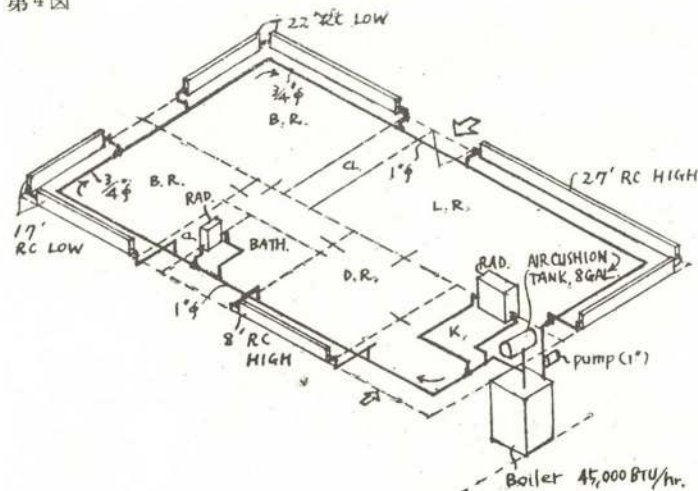
- 2、室の垂直温度差が少い。
- 3、熱媒として温水を使用しても暖房負荷の急変にすぐ応じられる。即ち予熱時間が少い。
- 4、場所をとらないし、目立たない。

以上の点からみて巾木暖房は特に住宅の暖房として優れたものと思われる。この暖房には一般に温水強制循環装置が適している。装置の操作は他の放熱器の場合と同じで、経常費にも変りはない。巾木の位置にある壁の熱遮断が悪いと放熱器からの熱損失が直接的に大きくなるから、放熱器の裏側に熱遮断材を取付ける必要がある。このヒーターのユニットには第1図に示すように床面に接したもの (R型) と床面との間に約1吋の隙間をとつて

対流効果を大にしたもの (RC型) との2種がある。また高さの高いものと低いものがあるが、現在アメリカの市場品としては低いもので 6 13/16 吋高いもので 9 8/7 吋で大した違いはない。長さ1呎当りの放熱面積はR型で1.25平方呎 RC型で2.08平方呎である。

(American Radiator 及 Burnhm 社の製品)

イリノイ大学でテストした室温の上下分布をみると第2図に示すような結果で従来の放熱器に比較して垂直方向の温度差は極く僅かである。例えば室内外温度差70°Fの場合、天井と床から夫々3吋は



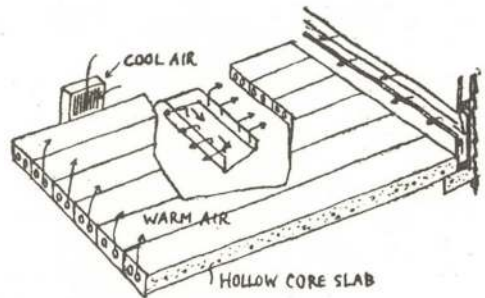
なれた点の温度差は普通の放熱器では6°Fであるが巾木暖房では2°Fにすぎない。次に壁面温度もこの暖房によれば普通の放熱器より高くなる。どのような条件と比較したか詳しく分らないのであやしげな点もあるが床面からの高さや壁面温度との関係は第3図に示すような結果となつてゐる。この結果は戸外気温 32°F 室温床上30吋で 72°F の場合のものである。巾木暖房では壁の下部が特に高温になることが分る。

結局、巾木暖房は上述のように、室温の上下分布、壁温、床温等の点からみると対流暖房と輻射暖房との中間、あるいは併用と考えられるようであるが、しかし平均輻射温度 (MRT) は従来のものと変りはないそうである。ただ居住帯での温度、輻射効果を考えると、強力な熱対流を集中的に生ずるため特に天井面の温度が高くなる従来のものより快適であろう。我国では鉄筋アパートも僅かばかり出来ているが暖房をするとなれば従来の方式だけでなく、実験的な意味からも種々の設備を採用していることは有効なことと思う。巾木暖房などはこの意味からも更に施工の点からも大した困難はないから是非実施したいものである。第4図には4室住宅に設備した巾木暖房の一例を示した。

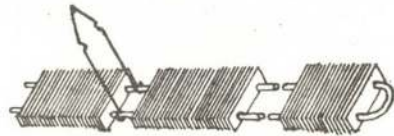
温気暖房

温気暖房はアメリカで広く利用されているが、最近の設備も従来の変つた点はないようである。ただコストの低下をねらつて pre-cut のアルミニウム製円形ダクト (径4吋) が出来ていて、現場での仕事の最小化が図られている。この場合ダクトの延長を少くするためヒーターの適当な位置が選定されねばならない。またなるべく高温の空気を送り室内吹出口の Vane によつて室空気がよく混合せしめて吹出させるようにすれば経済的になる。このためには放射型の Vane や極く細長い slit によつて温気を扇状に又は温気のカーテンとして室に入れるようにする。変つたものでは precast の空洞スラ

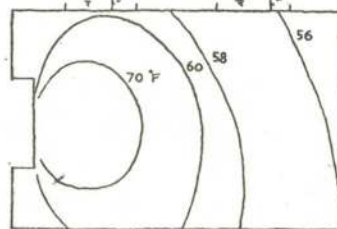
第5図



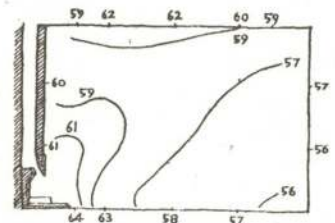
第6図



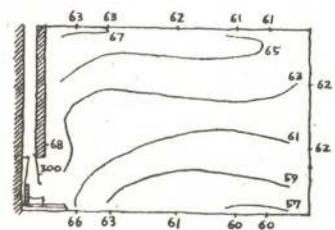
第7図



普通の暖爐 石炭消費率 3ポンド/時



新しい暖爐 石炭消費率 2ポンド/時



カタログ贈呈

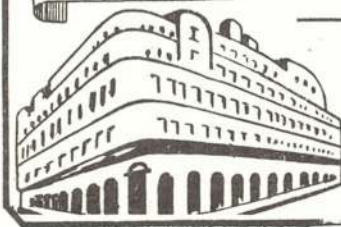
建物クリーニングの店

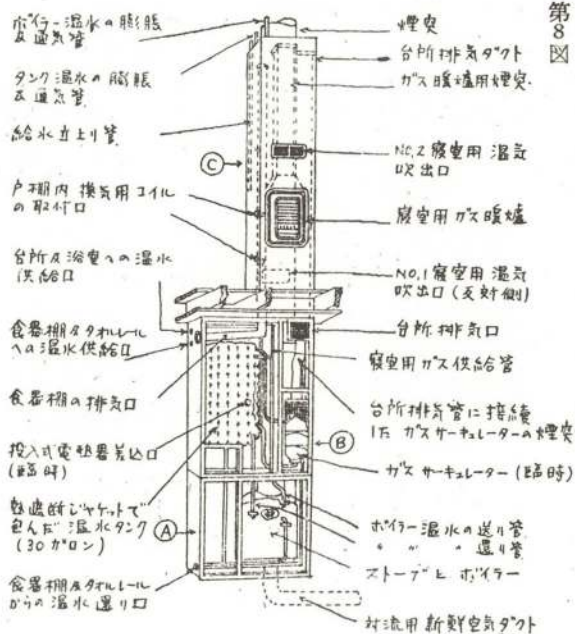
創業30年 古い歴史と新しい技術

ビルディングのクリーニング工事
古い住宅が新築同様になる美素工事 (請負)
新築住宅にお手入れのいらいぬ美素工事

株式会社 美素工業所

大阪市東區瓦町 (堺筋) 三和ビル三階 電話北支 5888番

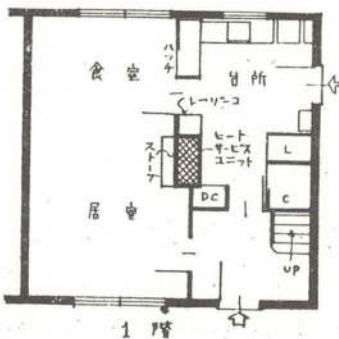
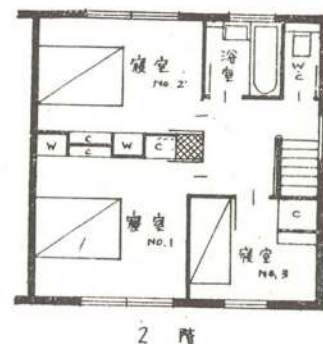




ブを利用して空洞中に温気を通し床を暖めると共にその温気を窓下から室に吹出させるものがある。これは床による輻射暖房と従来の温気暖房との共用であつて、Panel-Convection Heating 又は Open Panel Heating と呼ばれるものである。第5図にそれを示した。

射 暖 房

アメリカではここ数年来盛んに実施されている。



第5図 A.S.H.V.E (アメリカ暖房換気技術協会) の研究面にも輻射暖房に関する研究は数多くみられるし、著書にも Raber, Hutchinson の "Panel Heating and Cooling Analysis" 1947 のような長年の実験研究に基いた良書がある。輻射暖房は従来パイプを床や天井に埋込んだものが多いし、木造の場合でもその取付けはなかなか面倒であつたが

最近、工場生産のユニットが出来ている。これは第6図の如くコイルは2本平行に走り、その径は5/8吋銅製で鍍はアルミニウム製である。このユニットを現場で適当な長さに接合して Ceiling Joist で天井に釣り下げ又は壁の間柱の間に取付けるのである。この輻射暖房で室内との間を開いて温められた空気を室内に入れるようにしているものもある。open にした場合は輻射のみ、あるいは対流のみによる場より居住者の意見では快適だという。これらの比較実験も行われているそうだが結果はまだ分らない。

電気による暖房は電力が他の燃料に比して高価なのでアメリカでも一般には利用されていない。電気輻射暖房は予熱時間の少いことや操作が簡単な点で便利なものだが、最近ではニクロ線によらない新しい発熱体によつてゐる。その一つはゴムと炭素を特殊な織物に定着させたもので、電導性のゴム製品である。パネルの大きさは4呎×4呎及び3呎×4呎の2種があり、放熱量は75及び58 BTU/ft²h である。パネルの周囲は巾2吋の絶縁材料でかこまれ天井や壁に簡単に取付けられるようになってゐる。又アルミニウムをとくして耐熱ガラスに混ぜ適当な発熱体としたものがある。これにはアルミニウムの反射板が取付けられる。大きさは16吋×24吋である。

暖 炉

イギリスの文献によると伝統的な暖炉——イギリスの多数の住宅はアメリカと違って今でも暖炉が暖房の主体である——を改良して対流効果を増すと共に、輻射も広い範囲に亘るような研究が行われている。即ち火床の改良、輻射板の設置、床下から空気を取り入れて暖炉の裏側を通し室内に温気を送るなど種々改良が加えられている。1942年 Dufton によつて行われた改良暖炉の比較試験の結果は第7図に示すような室温分布である。改良されたものは燃料が少くとも従来のものより良い結果を示している。

空気の浄化

食品の貯蔵庫、食器棚の中に設置して殺菌を行う紫外線殺菌ランプは蛍光ランプの発達にともなつて簡単に有効なものが出来たようになった。殺菌ランプは紫外線が最も強く出る低圧水銀灯で蛍光ランプは蛍光物質をガラスの裏に塗つてある点でこれと違つただけで之は同じものである。ダクトの中に設置すれば簡単に空気中のバクテリアを殺すことが出来るので、住宅向のものも出来ている。電力消費量は4〜5室住宅で15ワットですむという。Germicidal Lamp, Steri Lamp 東芝の蛍光サンランプはこの種のものである。

その他暖房関係の設備にはヒートポンプ、太陽熱利用、ユニット・エアーコンディショナー等あげればきり

がない程だがアメリカでも殆んど普及していないし、またこれらは最近紹介もされているから省略する。ヒートポンプは直接電熱を利用する設備に比較すれば低廉であつても、石炭やガスよりはるかに高くつく。暖房と冷房を行うのだから暖房装置だけのものと比較するのは妥当でないが、いづれにせよ経常費も設備費も高くなるので住宅にはまだまだ採用されまい。それにヒートポンプに対する経済的負荷は暖房負荷と冷房負荷が等しい場合であるから両負荷に開きのある土地では不経済なものになるであろう。太陽熱の利用による暖房は現在なお実験の段階にあつて実験住宅について研究されているが将来性は余り期待出来ないといっている向もある。古くからアメリカ南部で実施されている太陽熱利用の給湯設備は貯蔵タンクを採熱コイルより高い位置におけば循環ポンプも不必要であつて工場生産で作れば表日本の気候ならば充分実用になる可能性はある。

設備の集中

暖房、給水、給湯、換気、排水等各設備を1ヶ所に集中し一つのユニットにまとめて工場生産とする。従来の現場作業でも設備の集中、位置の適当な選定によつて非常に経済的になるがこれは更に一步を進めたものである。しかしその半面、平面計画が設備によつて製約されるといふ缺点是どうしても生ずる。従つて大量生産される組立住宅には適当であるが現在の段階では一般に利用される見込は少いようである。

アメリカの Ingersoll Unit はこの一種であるがすでに紹介されているので、ここにはイギリスの公営低廉住宅に採用された "Heat Service Unit" について紹介しよう。※※ これはイギリスの労働省が戦後大量に建設すべき低廉住宅に設備するため設計したものである。第8図に示すようにユニットは完全な工場生産で、運搬上ABCの3部分に分けられるが組立てた場合その高さは2階建の住宅の高さになる。構造は自立するスチール製のフレームで出来ていて、その中に各種の設備が包含され、フレームに支持されている。ユニットの外側は薄金属板でカバーされるが現場に立てた後、室に面する外面はプラスターボードやその他の内装材料でカバーされる。ユニットの内部には固体燃料による暖房器具、容量30ガロンの温水タンク、温気ダクト、パネルガス暖炉が収められている。固体燃料による暖房器具とはバックボイラーを持つたオーブツプファイヤーである。温水はボイラーからの温水に

(16頁より)

或るものは間接照明に用いられたり、使用する場所によつてはテーブルランプにもブラケットにも利用される様考慮されている。(第9図) 之等の新しいインダストリアルアートは、家具と同じ様に何の拘束もなく室の雰囲気に調和しています。標準化され普遍化された洗練味を見出し得る所に、近代的な特徴があるのでせう。

住宅の室内の装備についてとの課題でしたが、思いついた儘、全般的な事項に亘つて、しかも疎雑な点をお詫致します。(筆者・内外木材工業株式会社勤務)

よつて円筒形の貯湯タンク内で熱交換を行つて得た。

暖房を必要とせぬ時期にはガス又は電熱によつて温水が得られるように出来ている。温水管は浴槽、流し、手洗器、浴室内のタオルレール、食器棚内のコイルに接続している。2本の新鮮空気を取り入れるダクトがあつて家の外部から床下を通つてユニットの下部へ入る。その中1本はボイラーに空気を送るもので他の1本はユニット内に新鮮空気を送るためのものである。このダクトから入った空気はストーブ、煙突の外側を通つて暖められ2階のユニットに隣接する2つの寢室に送り込まれる。またパネルガス暖炉は2階のユニットの一面に取付けられ、その煙突はユニット内に収められている。対流をうまく利用しファンを用いずに温気を送っている点、器具からの余熱を出来るだけ利用している点などすぐれた点が多い。実物のテストによると全体の熱効率率は70%であつたそうであるが、この程度のもものではこれ以上の効率はちよつと望めないであろう。このようなユニットにしても暖炉をとつているところはイギリスらしさである。

このユニットを公営住宅の1種 (permanent prefabricated house Type I.G.) に設備した例を第9図に示した。このユニットによる住宅が現在どの程度建設されているかは不明だがこの程度のものが一般大衆の住宅設備として国家の支援をうけて実施されているのはイギリスの社会の従つてまた技術の健全さを示すものである。

結 び

個々別々の住宅設備を根本的に、全般的に高めるためには結局、都市の設備、国土開発の問題に至る。全体の住居水準をあげなければ一部の住宅だけが高水準になることも実は出来ないのである。このような点からソビエトやイギリスの地域暖房、発電施設は将来の方向を示唆するものである。ソビエトに於ける火力発電の排気利用による計画性ある地域暖房はソビエト全地域を対象に計画され、現に実施されつつあるが全ての建物に熱媒を送るという原則(ソビエト地域暖房計画の原則の1つ)が実行出来るのは他国のまねられない点であろう。

参考文献

- ・※ T. Beoford "Basic Principles of Ventilation And Heating" 1948
- ・※※ 衛生工業協会誌 昭24年7~8月号
- ・ Architectural Record 1949, 4月号 1950, 1月号及び5月号(筆者 京都工芸繊維大学助教授)

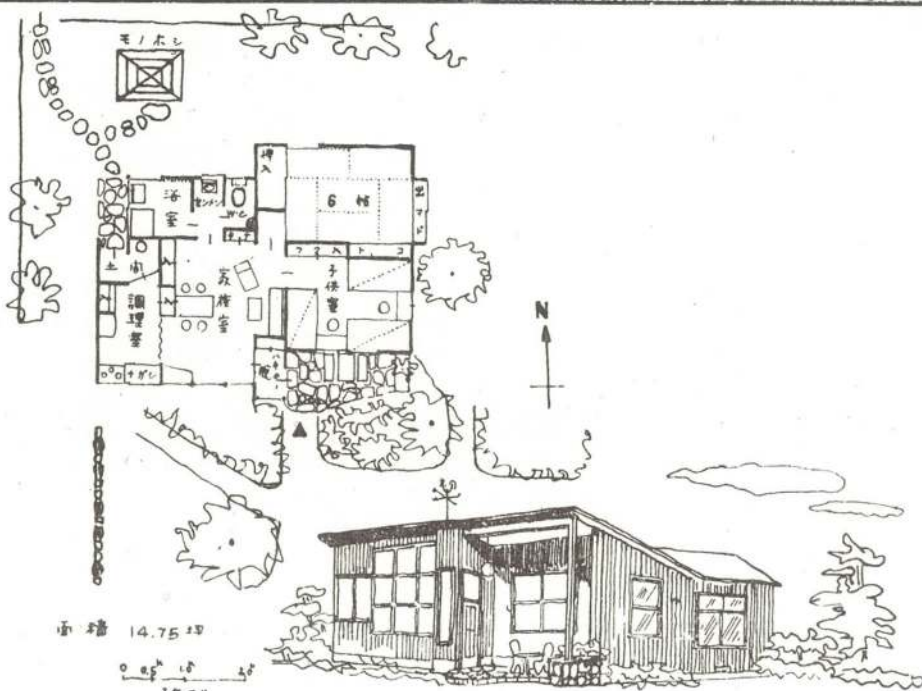
ペデスタル杭
太洋組株式会社

大阪市北区綱笠町堂ビル

電話 堀川 951 1820.

若し自分が家を建てるなら

松本政雄



「えにしだ」の黄色の花の芽がすつかりふくらんでもう窓辺近く早春の賦が奏であれているのを聞く。まだ残されている垣辺に机を寄せて春の日を想いつつ吾が家の設計をすることは愉しい。

間取りを考え、家の姿に心をはせて想いのうちに建ちあげることはたやすい。けれどもその理想は実際的にはなかなか一致しないで生活の環境と時代の相に依るかわり等がダブツター一つの焦点をつくつて呉れないことが多い。然し住む人達はその生活を現実にもつめてそこに営まれる生活を充分に基本的な問題から取上げて生活内容を整理分析して方針を樹ていけばかならず理想の実現は可能だと思う。その一つ一つに就て具体的に考えてみるならば例えば生活を組立てている家族の数とか、家族の形つまり家族の職業とか、通学の状態とか、或は家族達の年令的な大きい小さいこととかということ、それから将来に対しこの生活のあり方、又住い方の実際の面に就てとかいうことが最も基本的なものになると思う。次ぎには建て様とする家に対して可能な金額の限度の想定が必要である。これは一家の経済の上から考えておのずから限定もされるし、又その可能な範囲内で考えていかなければ返つて将来に禍根を残すことになる。なぜならば建築そのものにしろ設備にしろ考えていけば種々の面で良くすることはどれ程にでも出来て、生活をより豊かにすることは可能ではあるけれども生活経済の枠から余りに離れる様な場合経済的に破たんを来すことになるのである。

現在の生活に最もマッチしたもので満足することが家を建てる一つのコツである。よく雑誌や見かけたものを研究もしないで思いつきで取入れたり、あまりに趣味的な材料を使つたり必要以上の設備に多くの金をかけたりすることは充分考えなければならない。次ぎにはいわゆる経常費として、つまり家に関連しての経費としての税金光熱費、或は建設費の償却等考えておくことも当然必要なことである。以上を要約してみれば、1—家族構成と住い方、2—経済的措置、3—生活の将来性に対する一運営等の他、色々考えていけばまだ細かなこともあろうが以上の様なことに一応なると思う。

ただここで思うことはこれからの新しい生活計画の意味からいえば出来るだけ重点的に考えて例えば調理のための設備とか或は洗濯のために手を省ける様にするとか又家族全般のためになる様な方途に就ては、可能な範囲内で大いに生かしていくことが望ましいことだし、その実現に力を注ぎたい。大ぶ話しが理に落ちてかた苦しいことになつて来たから話題を変えませう。

そこで家を建てる計画が熟していよいよ建築にとりかかれる様になつたとして、そこから又話しをつけませう。それにはまず敷地の問題がありますがその撰定に当つては勿論理想的には東南に展けた少々南下りのところを望みたい。そして北西の側にはまげらにでも雑木が梢を交わしていることは好ましいし、冬のなどには風防ともなりそこになく秋の小とりの声はしみじみとした風情を与えるものである。そして都心からは交通機関で一時

間位のところが良い。さもなければ一都府の山手風の場所に考えてみることも良い。然し何れにしても将来のどんな変化にも対応の可能な土地を撰ぶことは必要であるし、又住居費や交通費や其他経常費などにも関連があり、それから家に依ては来客の訪問に対しても一応の考慮は払うことも必要であろう。その敷地の広さは建物の広さの3倍は欲しいしその土地の格好も、東西に少々長い矩形の形が大体それに近い形のものか間どりの上からも好ましい。然し余り土地の格好に捉われると経済的に有利な土地を撰ぶことに失敗することもある。

間取はある程度土地の形ちに依つて作られることがほとんどなことで、よく間取も作つてそれを土地に当てはめ様とする人もあるがそれは無理な話だ。敷地の方位、道路などは間取りが考えには大きい要素となるものだから建築家はいつでも敷地に対しては非常に細心であるし、又敷地と間取りの関係に就ては多くの注意を払っている。それから今時電気の来ていない様なところは殆どないと思うが、水道やガスは場所に依ては来ていないところも多いからこれも敷地を決めるためには大きな条件として考えなければならない。

さあ次ぎにはいよいよ間取りのことになる訳ではあるが、その前に一つの課題が出されて、一応どの家庭でも首をひねることがある。それは住い方としての形ち、つまり座居か腰居かという問題で別にいへば部屋を疊敷にして座するか或は板敷として椅子にかけるということである。これももう久しく色々な面から随分考えざされたことではあるが、まだまだ実際には、はつきり解決されてはいないと思う。そして椅子式の方が生活的にいつて仮りに種々な面からみて良いということがいえるとしても、現今の様に住宅の質の向上の問題よりはその量が多く出来ることが望まれる場合に椅子式が生活のあり方からいつて總べての家に用いられるべきものと断定することは少し早計な様な気がする。然し若しその椅子を用いることが可能な生活環境を有するものとすればそこには出来るだけ腰掛式をすすめたいものである。勿論その場合には椅子だけで間に合う訳ではないしその他の家具も数多くそなえなければならないし、又冬季にはストーブなどの設備も必要なこととなる。新しい生活のためという立場から一応椅子式という形ちに従つていくことにしてみよう。

大ざつぱにいつてみると家の中のあり方は食事をするための場所と睡眠をとるための場所とに大別して考えられる。それに附帯して調理室や便所・浴室・履物の脱ぎ場、物を入れる押入等依て、間どり全般が組立てられて来る訳である。そこに家族の数だと男女の別とか、或は年令とかいうことが大きく反映して寢室の数も、室の大さも帰納的に決められて来ることになる。

ただそれ等の室を決めていく場合に各室の有機的な関

係を充分考慮していかないといわゆる使い勝手の悪いものになる。その各室の配置はもちろん日当りの良いことと、同時に風通しの良いことは条件の第一のものであることは確かではあるが、その中でも調理室についていへばここは一家の栄養の補給源を作る処であり、又主婦は一日中の多くの時間を費やすところである意味からも、便利であると共に衛生的にも良い場所であればなるまい。それから食事室との絡がりや又浴室や洗濯場も容易にいけるといふことも考えなければならない。ここだけは設備費が少し余計にかかるとしても、調理室の食器や食料の戸棚、或は流しやレンジ等から洗濯槽（出来れば洗濯器）などに就ても多くの考慮を払うことに依て主婦だけでなく家中の人達も調理室等の仕事をすすんでやる様になるであらう。

ただここでアメリカなどでやつている様な方法をその儘鵜呑みにすることは食材料のちがひや或は下水などの設備の程度の問題から使用上で支障を来すことも考え合わせなくてはならない。その他便所を水洗式にするとか浴室をタイル張りにするとかいうことは特別にいうまでもないことであるがこれこそ工事の費用とにらみ合せていくことが必要である。

又食卓とか椅子、或はベッドなどのことは好みを色々云わない限りもう相当よいものを自由に撰ぶことが出来る様になつたことはまことに結構なことではあるが、ただ細かい部分に就ては普通には目がとどかないことが多いから大きいデパートの様な処で撰ぶことが必要である。

寢室の大きさや、食事室などの広さはそこを使うという用途的な立場を主として考えていくことに依つて自然決まつて来るし、小さい家などでは余り細かい間仕切などをつけない方が使い勝手の上からも便利である。要は居住性ということから快適さが与えられることが根本的条件になるものである。

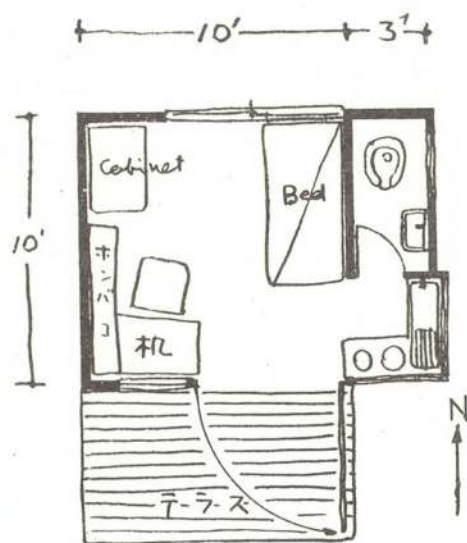
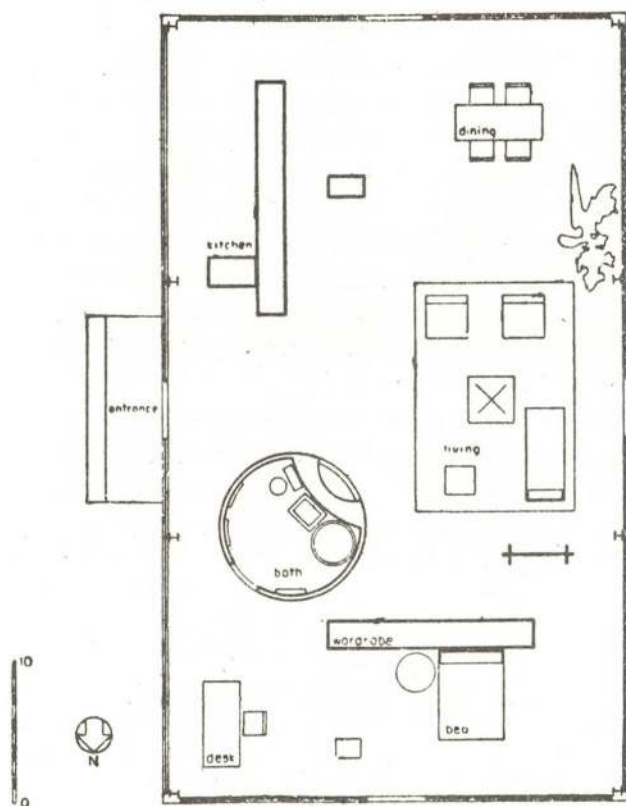
外観とか構造のことになるとそれ相応のむずかしさがあつて一概にはいえない。外観については出来るだけ単純な形ちがよいけれども、木造家屋でコンクリート造などの様な陸家根にすることは雨漏りなどの原因を作る様な結果が多い。要は雨漏りをしない材料で間取りと考え合わせて築上げることが良く、又外壁などは最近の建築基準法で場所に依つては、不燃質のものとしなければならないこともあるけれども一般的には堅羽目などでベイントなどの塗装をすることが永持ちする。俗にいう「擬つて思案の他」ということが思い浮べられる。構造も特別に耐震的な方法にすることなども良いが、建築基準法に示された方法に依つていけばいいことだと考える。

家の中が明るく家族達も日々健康であるためには生活そのものに対して大なる意欲と明日への希望に満ちていることが必要だ。そのための楽しい吾が家はいつでもお互いの愛情の灯をともしよう（筆者愛知県工業指導所）

若し自分が家を建てるなら

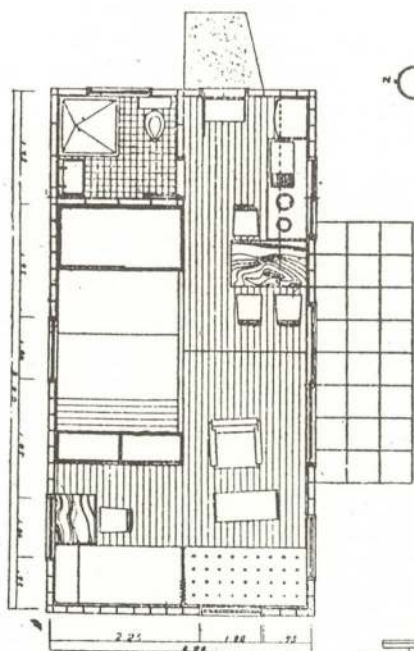
第三図

清 家 清



第一図

第二図



ゆく河のながれはたえずして、しかも、もとの水にあらず。よどみにうかぶうたかたはかつきえかつむすびて、ひさしくとどまることなし。世の中にある、人と栖と又かくの如し。これは「方丈記」の冒頭に書かれたことばである。だがもし誰かが「若し自分で家を作るなら」どんな家を作りますかと質問したとき、楽天家の方丈記作者は彼の家のデザインを次のように伝えている。「その家のありさまよのつねにもにず。広さはわずかに方丈、高さは7尺がうち（内法の意）なり。所を思いさだめざるが故に地をしめてつくらず（アンカーをしないという意であろう）。つちいをくみ、うちおほいをふきて、つぎめごとにかけがねをかけたり（組立式構造の意、プレファブ建築の祖?）。若し心にかかわぬ事あらば、やすくほかえうつさむがためなり。そのあらためつくる事いくばくのわずらいかある。つむところわずかに2面。車のちからをむくゆるほかに、さらに他のようどいらず。いま日野山のおくにあとをかくしてのち、東に3尺余のひさしをさして、しげをりくぶるよすがとす。（キッチンをつくるために3尺の庇を出したとの意。）南に竹のすのこをしき、その西にあかたな（関伽棚）をつくり、北によせて障子をへだて、阿彌陀の絵像を安置し、そばに普賢をかけ、まえに浪花経をおけり。東のきにははわらびのほどろを敷きて、よるのゆかとす（東側にベッドを置いた）。西南に竹のつりたなをかまえて、くろきかはご（皮籠であつてカバン在意であろう）三合をお

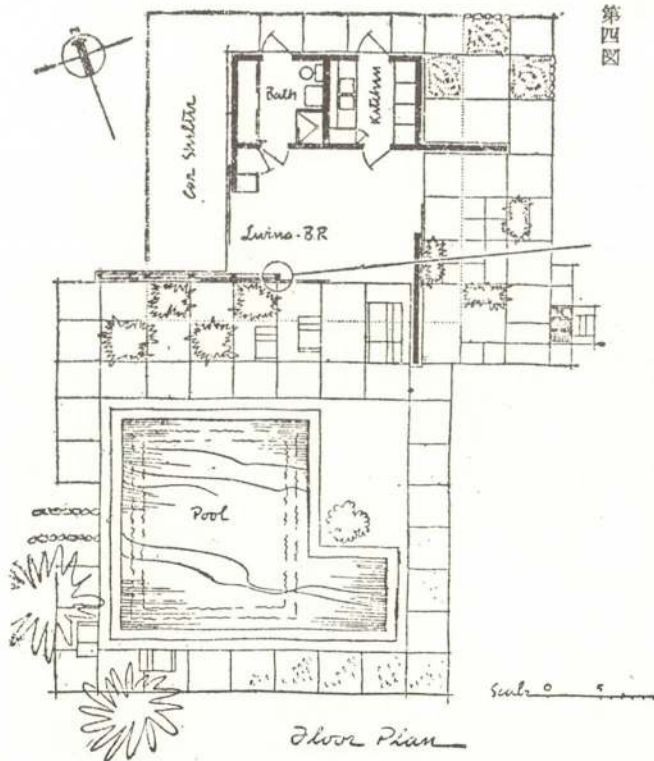
第五図



けり。すなわち和歌、管絃、往生要集のごとき抄物をいれたり。かたわらに、琴琵琶のおのおの一張をたつ、いはゆるをり琴つぎびはこれなり。かりのいほりのありようかくの如し」

之をプランに画いて多少現代化してみると大体第一図のようになると思われる。鴨長明は応保の頃のひとといわれているが、応保というのは西暦1160年が元年であつて、その翌々年長寛に改元になつている。この頃は例の保元、平治の乱の直後でいわゆる「アブレゲール」時代であつてまことに現代と似ていたものと考えられる。

第四図



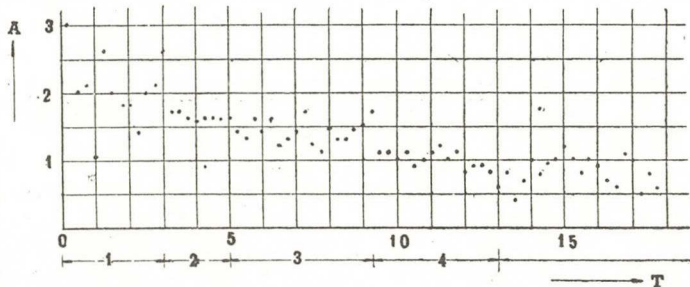
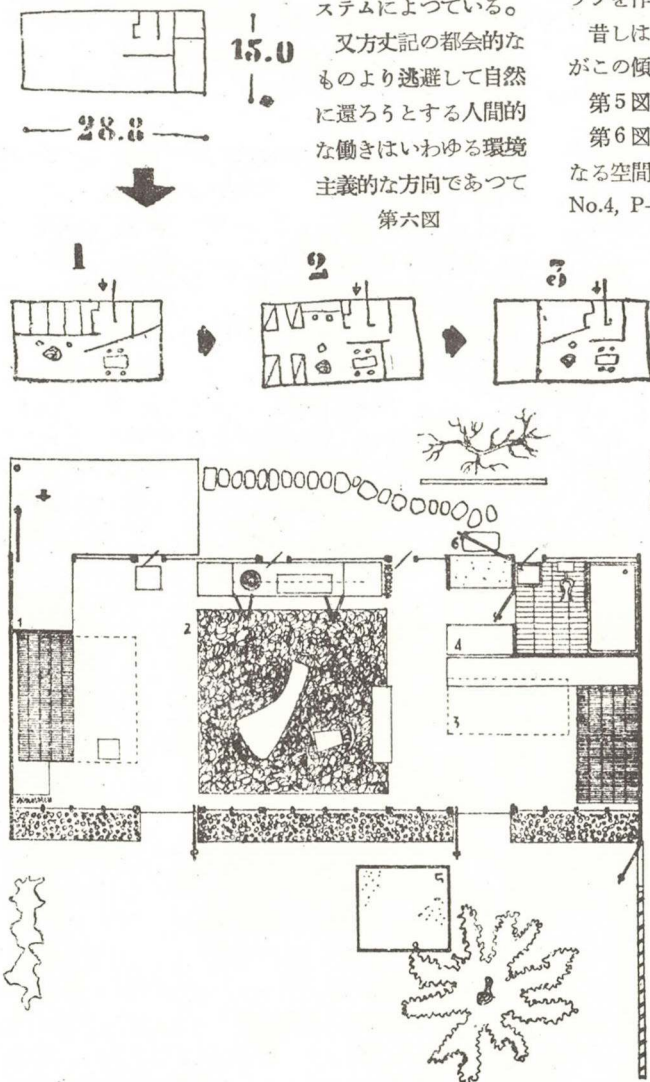
私もし家をつくるならこの鴨長明を学ばたいような気がする。戦争はもうこりごりだと思ひながら、強大な隣国と占領軍はその武装をゆるめようとなしない。「朝に死に夕に生るるならひ、ただ水の泡にぞ似りける。知らず、うまれ、死ぬる人いずかたよりきたり、いづかたえか去る。又知らずかりのやどり、たが為にか心をなやまし、なにによりてか目をよろこばしむる。そのあるじとすみかと無常をあらそうさま、いはばあさがほの露にことならず。」と。我々の生活空間は好むと好まざるとにかかわらず与えられた、天から与えられたとも思えるしもつと形而下的に考えれば占領軍によつて与えられた捕虜的な空間でもあろう。我々の生活圏は与えられた空間にはなかなかなじむことができない。またこの空間は不本意な他の——全く他の力でどうにでも変えられるものでもある。我々がこの不本意な空間に住み而も当分は住まねばならないかぎり、我々の生活圏と与えられた空間は合同となり得ない。我々はこの与えられ

た空間に鋪設し、年中行事に或はその他のいろいろなファクタにしたがつて「几帳」「屏風」「障子」「置畳」等で生活空間と与えられた空間の不調をカバーしなければ到底人間的な生活は送れないであろう。このような意味からも家具の固定化よりも家具の本来的な使命にしたがつて自由に鋪設——すなわち自由に置き換えて生活空間のフレキシビリティを保持させる方向を支持したいと思っている。大きな一室をとつてそこに自由に鋪設する、そのときそのときに従つて自由に空間をつくりかえてゆく、環境主義というもの

こういう点を多く含んでいる。本誌(建築と社会)のvol. — 31, No.2, の12頁は1つの試案ではあるが第2図挿入、戸棚の類まで家具のようにして工場生産しこれを建物の中に収めて平面計画をつくりあげようというシステムによつて

又方丈記の都会的なものより逃避して自然に還ろうとする人間的な働きはいわゆる環境主義的な方向であつて

第六図



第八図

フィリップ・ジョンソンのグラスハウス第3図(新建築Vol.25, No.6, P-171.・国際建築 Vol.17, No.5, P-21, 参照)のような行き方にも魅力を感じないではおられない。

又建築家アルバートフレイが「日夜自然のさ中にある様な住い方の佳さはなかなか因襲的な住宅で育つた人には理解されないだろう」と云い乍ら、第4図のようなプランを作り上げている。(新建築Vol.24, No.6, P-188.)

昔しはプロチダの住宅にまでさかのぼるかもしれないがこの傾向は私にとって魅力を失わない。

第5図は野木健雄氏の案であるが同氏は、

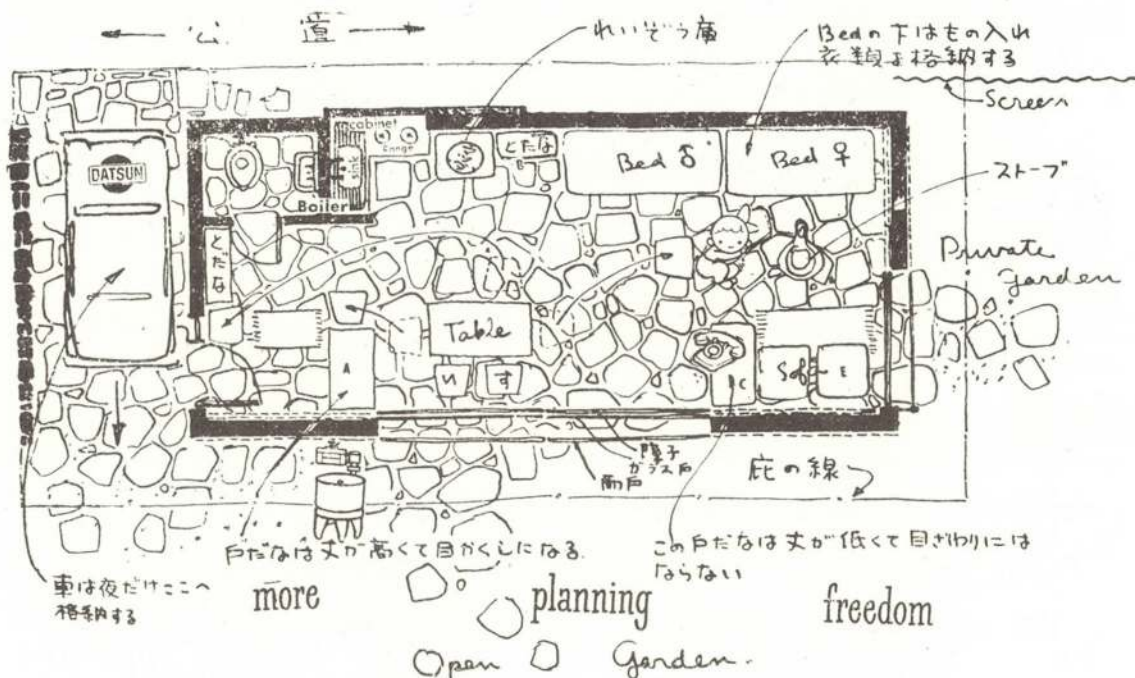
第6図のような基本型の中に家具を適当にいれて如何なる空間をも構成すると云つてゐる。(新建築Vol.23, No.4, P-15) 第7図は菊竹清訓氏案(田辺泰編洋風住宅

図集)の住宅だが之も一室制を大きく持ち出している。そしてそれに自由に鋪設する意向である。

次にもし私が建てるというわけであるから、海外の民度の高い国々とちがつて敗戦国の而も貧乏教師が建てようというわけで、まず面積の制限、適正規模の問題となつてくる。

第七図

第8図は掃除をするとき人がどのように疲労をしてゆくかを示している、..t軸は単位時間、(min)a軸は清掃面積(m²)である。図に於いて第Ⅰ期は作業習熟の期間であつてベースが定まらぬため作業能率に動揺があるがやがて第Ⅱ期に入り適正なベースを発見してその作業量は定常化する。しかしこの間にも疲労は徐々に蓄積されていつて作業能率が低下しようとする。しかし身体的疲労のある限界まではこの能率の低下に対して、精神的努力により補償しようとする、いわゆる疲労努力があらわれ、やがて第Ⅲ期に入る。これは図に於ても明らかなように肉体的疲労と精神的努力の交替によるはげしいベースの乱れとなる。その後疲労が益々進行してくると意志緊張によつて一時的にもせよ作業能率の低下に対抗しようとする傾向は失われて、要求水準の低下という精神構造そのものの変容によ



つて、作業量の一層低い段階にある程度安定したベースを見出すようになる(第Ⅳ期)。このようなくりかえしによつて身体的、精神的疲労は生体そのものの破壊へと向くわけである。そこで図に於ける第Ⅱ期で作業が終了するならば生体は殆んど疲労を感じないことになる。では、第2期の終る5minを代入してみると $\int_0^5 f(a)dt$ は約60平方米となる。(拙稿 日本建築学会研究報告No.4, 参照) そこでいろいろ安全率を考え、経済的な理由も考慮にいれるなら不雨者には約その半分位が適当と思われるので住宅をいつもきれいにしていられる面積は約10坪ということになりそうである。今野啓一氏の研究によれば2階建ては階段の上下に相当エネルギーを消費するので格別の理由がないなら止めることにしたほうが得であろう。(建設省建築研究所要報No.118)、又椅子式、座式の問題だが軍隊で靴をはいて一日中生活した経験からみて「たたみ」には何の未練もない。また次表は旧海軍が求めた動作エネルギー表であるが参考までに記しておく、

動作	寝	横	坐	椅	立	洗	立坐	歩
	子	臥	る	子	つ	濯	つたり	く
エネルギー消費量 Calmin	0.85	0.97	1.12	1.14	1.31	2.53	3.37	2.71

第1表でもわかる通り立つたり坐つたりするのは案外くたびれるものである。だからこの立つたり坐つたりにポテンシャルエネルギーを少しでも少くする椅子式にし

てみたらと思つている。しかし何はともあれそれを建てる資金は到底できそうにもないのでただ表題のような編集部のお求めに応じて設計だけしてみたのが終末第9図の案である。これには、書ききれない多くのアイデアが盛り込まれてあるが読者が之をくみとつて下されば幸甚というものであろう。

構造は鉄筋コンクリート造り大きさは2間×5間床は鉄平石張り。靴のまま生活する、戸棚、押入の類が少いのはこの家を建てる資金に持物をみんな売ってしまうからだが、又このような着たきりの生活も悪くないと思う。

天井高は方丈記の通り内法7尺、要するに、Simple life and High thinking である。子供が生まれたらハンモックを天井から釣つてねかせる紺屋の白袴というが、あまりに建築的でない結果になつてしまった。しかしこのような生活をしてみたいものだと思つている。まして国民の大半が、住宅もなくして生活していることを忘れてはならない。「宮殿秘閣」も望みなし。今さびしきすまい、ひとまのいほり、みづからこれを愛す」と方丈記の作者はいう。幸福とはこういう類であらう。

設計図説明 A: 家事用器具格納

B: 食糧、コーヒ、等を格納

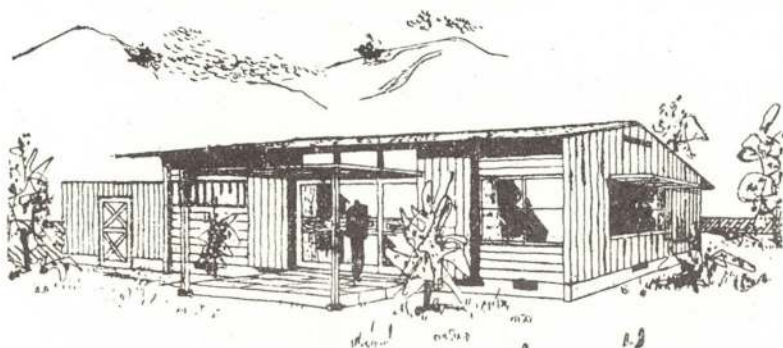
C: 衣類、肌衣等を格納

D: はきもの・傘・掃除具等を格納

E: 子供のひるねにも用いる。

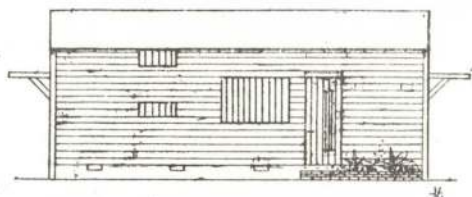
敷地: 北に道路、約150坪

(筆者・東京工業大学助教授)



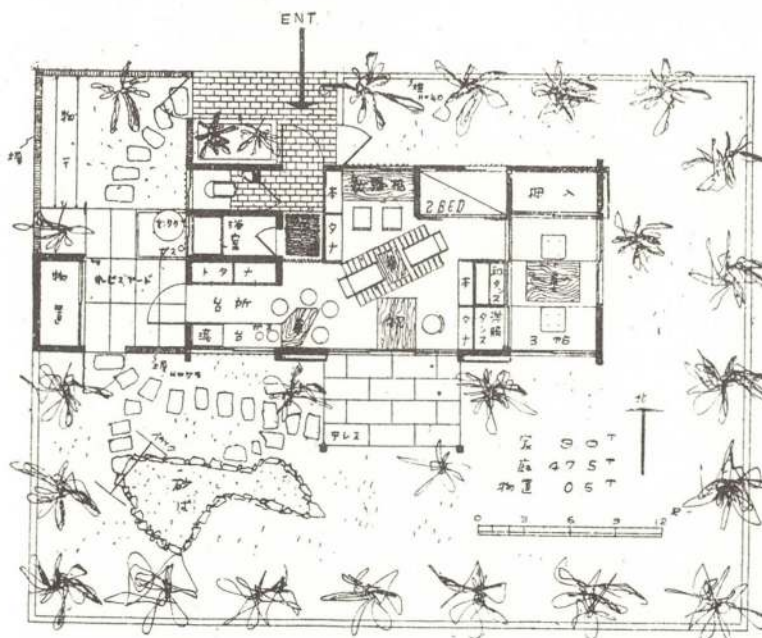
若し自分が家を建てるなら

岩 本 博 行



最小限の家を住宅公庫で建てるなら、或は私でさえも建て得るかも知れない、それで最小限の家を考えて見ました。家族は夫婦子供2人の4人です。私は今、朝日ホームと云う家に住んでおりますが(新住宅第3巻1月号所載)この7.5坪の家で結構楽しく、快的に暮しております。3帖と6帖の家に家族4人と、家の割に多い家具をつめて、それでも中々面白く暮しています。この小さい家にうまく住むには家具の配置をうまくしなければならぬ住み方になります。この小さい家に、和簾第2、洋タンス1、机が2、テーブル1、腰掛2のセット、茶台1、本棚3、茶棚1と中々物持ちであります。人間4人もうまく入りこんでなかなかとのつております。だから私は狭い家に住む面白さと、よさを知る事が出来ました。第一

主婦の掃除が甚だ簡単にすみませす。家族はいつも一部屋にかたまっておりますのでスイートホームです。飯をたけば硝子がかかる程暖かになります。すき焼などすると全く暖かいです、私は夜遅くまで一人でよく起きています。子供の寝顔がすぐそばにあります。子供が布団からとび出しているのを見てなおしてやります。するとスイートホームの感じが、夜遅いこの小さな家にただよつてまいります。この家は小さい、もう一間欲しい、と時々家内が言いますが、まことにそうでありましようがそれでもその愚痴はさしそまつて真剣ではありません。住めば都、殖生の宿もいいものであります。



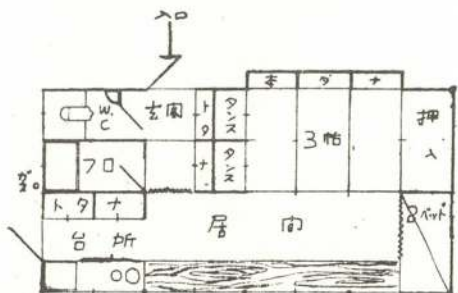
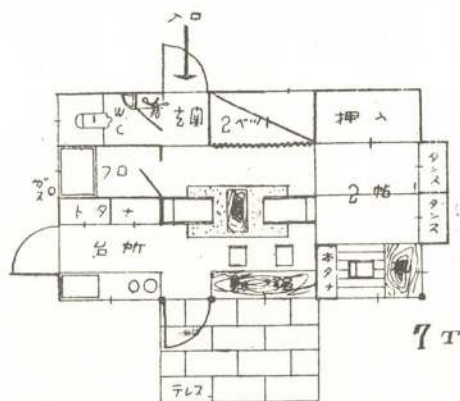
私はこの家に住む前に6坪あまりの家に住んだ事もあります。便所も浴室も3軒共用のもので、いつたん外に出なければならぬのです。やはり夫婦子供4人で、子供がまだずっと小さい時でした。その時も結構楽しいものでした。それで、私は小さい家はいいものだと言う事を知り得て、自由なプランをエスキースする時には必ず最小限のものを考えています。表題の課題を与えられた時、私は最初7坪を設計して見ました。それから8坪、それから9坪と3案考えました。(図示参照) いづれも私には楽しい生活を空想する事が出来るのです、之は私の持論ですが、住宅は建物自体よりも、設備や庭に金をかけた方が良く云う事です。この小さい家でも便所が水洗式で、風呂、炊事共燃料はガス、電気、電灯、ガスのアウトレットは適宜配置すると全く快的なものになります。加うるに庭は樹や花で、青く、美しい環境をつくるなら、この小さい囲いの中は天国になります。それでも尙、家を大きくする余力があるなら、家よりも電着やレコードを買いたいものです。本も買い度、絵も買い度、写真機も買い度、そんなものが全て生活を美しくして呉れるからです。私の買い度くないものは必要以外の装身具つまり単に身を飾るばかりのものです、単に家を大きくするよりも、生活を豊に、美しくする様に考える方がこの人生は楽しいと思います。

室内の壁は杉の中板を釘打て素地のまま、天井もそのままの打上げ、床も6分の板貼でフローリングまで貼らない。そんな部屋は殺風景だと云えば無論そうではありますが、この壁に原画はなくても複写の美しい絵、本、彫刻、花、ぼろ布で作ったマット、カーテン家具等で結構美しくかざる事が出来ます。外壁も杉板のクレオソートで充分です。ただ樹や花で美しい環境をつくる事を忘れてはなりません。それからサービス、ヤードはぜひ設け度いと思います。之はいわゆる築屋裏を囲む意味であります、それでも、この中は雑然としていていいと云うのではなく、ここはまづ美しい環境をつくり難いからです。春風に赤きなにやらひるがえると云う句がありました、あまり色々なものがひるがえつては困ります。又この中で作業に便利な作文の環境をつくる為にも、このサービスヤードと云う囲いはつくり度いと思うのです。この囲いはデザインで色々面白く設計する事が出来ます。こうして生活環境をいかに小さくても美しく、明るく、快的に、楽しく、あり度いと思うのです。お金をいくら使つても構わないのなら、それなら、壮麗なものも出来ましようが、誰にしても経済的に済む事は望ましい事です。それなら経済的とはお金の使い処を適確に処理する事だと思います。

仕上材を前述の様に最低のものにしても筋違や基礎や部材や床下の防湿処置等充分に考え度いと思います。家が否んで建具の処に隙間が出来るのは基礎や軸組

を堅固にしないからです。こう云う所を充分に注意して、仕上材はお金がなければ最低のもので良いと思います。それから屋根でも、柿板を葺いてその上に瓦を葺く様にすれば、雨漏のおそれも少なくなります、屋根の形も複雑なのは出来るだけかけて簡単に水の流れ易い様に、谷樋等も取らない様にするべきです。

どんな小さい家でも仕事自体をいい加減にしていゐるのではなく、いかに小さくとも、いかに粗末な材料であろうとも、仕事は入念に立派にしたいものであります。誠実のある仕事をして出来たものこそはくのある物が出来上るのは当然でありましよう。私はこの様に考えて、若し自分が家を建てるなら——つまり具体的に図示の様なものを考えて見たわけであります。9坪のプランには今持っている家具をそのスケールのまま配置して画いてあります。こうして見るといやにせせこましく見えるでしょうが、住んで見るとそれ程ではありません。もつとも、大きくゆつたりした事に越した事はありませんが、これで結構ゆうづうのつくものであります。小さい家はどう配置しても、南向なら光線は部屋中にとる事は出来ますが、一応基礎概念として、主婦の台所作業を快的に、子供の勉強場は明るく静かに(子供の勉強場は南面は夏は暑すぎます、もつとも、冬は南面するのはいいでしょうが、このプランでは冬でもこの当りまで日がさします。) そうして家族はいつも一部屋で団楽出来る様にと



8T

考えたわけです。主婦が台所の作業をしていても、子供が勉強していても、私が仕事をしていても、一室に皆夫々の事をして、夫々の配慮を持ち、それぞれの愛情をただよわせている、と云う気持ちであります。台所の設備を快的にすれば是否共 Living Kitchen にしたいもので、之はまことに能率的でいいものであります。わざわざ料理している処を見せて客に喰わす料理屋もあるのでからこうした試みは既に試験済で、もつと思いきつてBAR式に処理しても面白いものが出来ます。客の事は考慮に要れておりません。客の為の設備も住宅には必要な条件ですが、それは出来得るならと云う条件がつくものであります。泊る客なら身内か、心易い人でありますから3帖につめて寝てもいいわけでありまして、板の間に布団をひいても悪いわけはありません、これは二六時中のものでないでありますし、又ゆうづうのきくものであ

りますから、この様な最小限の家では考えていては納りません。この事を重要に考えるから、ゆうづうのきく疊敷を懲しがるのであります。そうするとやはり疊が基調になりますから、きまりきつたプランになり、家具や収納に処理が手際よくまとまらず、疊の上にタンス等の重いものをのせて部屋をせまくしたり、大掃除の時に重いものをかつがなければ疊を上げられない有様になるのであります、敷地も最小限に考えて見ました。必要なれば、家も庭も大きくする事は容易な事です。若し自分が家を建てるなら——最小限を考えて住宅のあり方を知つておれば、その基礎条件に応じてどんな事も考え得るわけがあります。住み方のうまさ、人生の生き方のうまさにつながるもので、大変重要な事と思います。

(筆者・竹中工務店設計部)

若し自分が家を建てるなら

増 田 友 也

設計概要

構造 基礎：コンクリート

壁：煉瓦造及鉄筋コンクリート造。一部木造

屋根：鉄筋コンクリート造

仕上げ 床：居間廻り色モルタル塗、目地切

寢間廻り縁甲板貼り二重床

壁：外廻り煉瓦は化粧積コンクリートは打放し

居間廻り煉瓦は化粧積コンクリートは小叩き

炊事場廻りはプラスター塗一部タイル貼

寢間廻りベニヤ板貼り

浴室廻りは断るまでもよくタイルを床及腰に廻す

天井：プラスター塗

庭園 ポーチはコンクリートブロック敷き、其他置芝又は砂或いは玉砂利敷きの取合せ。

樹木：南庭には大きい楡か榎かの落葉雑木。入口附近のは楓。北側にはぎんもくせいかな。

菜園とサンポーチの境には茶がいい。

其他荻薄或ひは雑草少々、特に寒椿も。

北側花壇には西洋の草花に匂やかなげら垣。

スリーピングパティオの池にのぞんで水うつぎか白のライラック。

家族 この家の主人は内海の島で生れた。南方の血が流れているらしい。

その憧れはむしろ北方にあるのだが、血は争えぬ。時には北窓に依つて浄机を愛し、時としては南庭に出て小吟を作す。

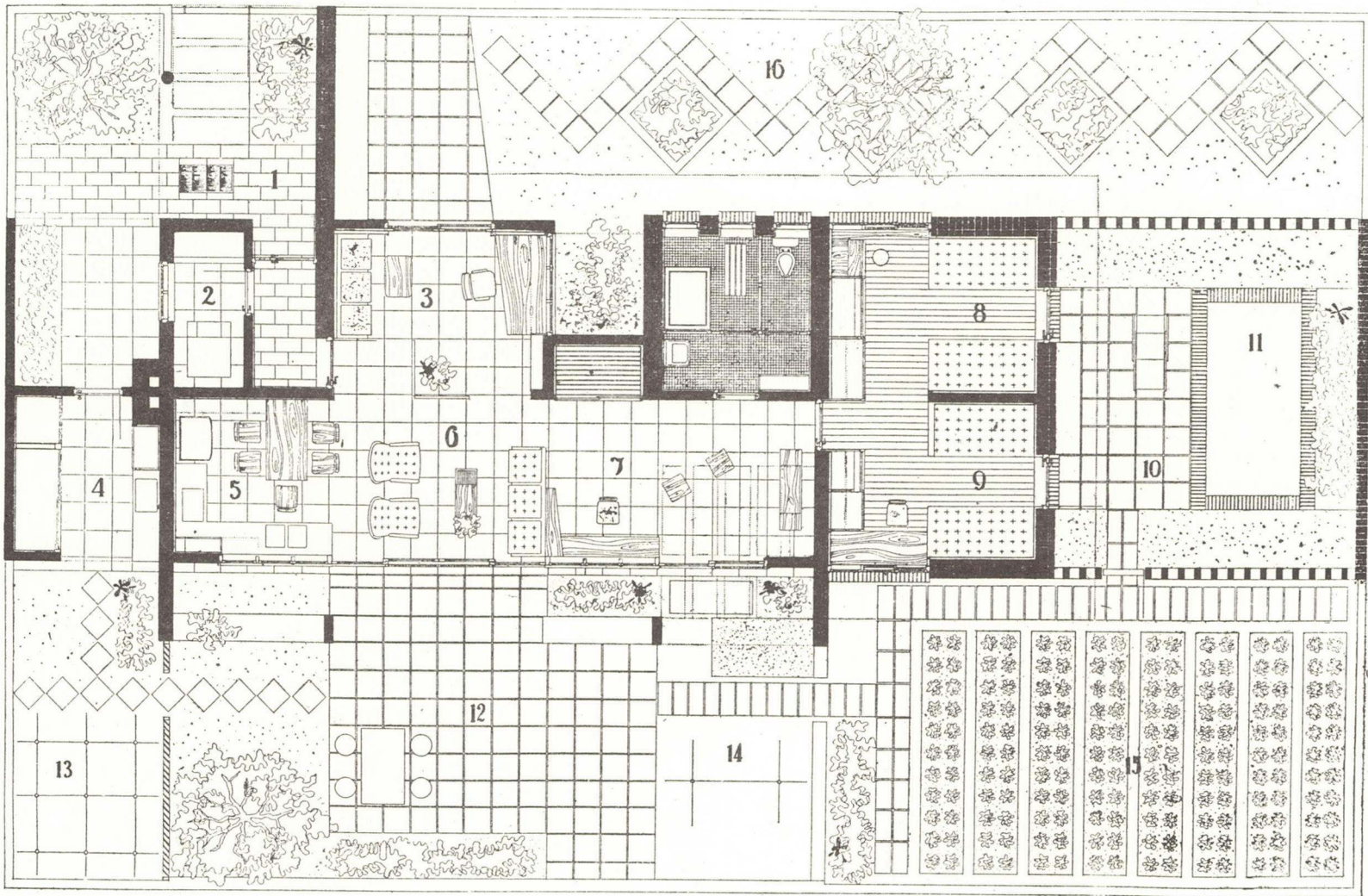
主婦は異郷に育つて頗る潤達であり、その志を彩管に托し乍ら、家計のやりくりと育児に追われて青年期を終えた。

掌中の宝は兩個の童児のみである——仮りに作者にマイヤールの発明あつたとしても、つまりは華々たる小家庭である、さう言うものに拘束されることを喜びぬであらう。況して作者は、これら4人の生活の自由な姿態にその場を提供し得るかどうかに汲々。

仕上げの色は、これは家が建ち上つたら4本のブラッシュがめいめい気ままに決めるだろう。さうしてそれが全体として、ある雰囲気をつくつたならば、つまりはそれが家だろうと思う。

(筆者、京都大学建築学科講師)

設計図説明	6：居間	11：池
1：入口	7：主婦仕事場	12：サン・ポーチ
2：ボイラー室	8：夫婦寢間	13：物干場
3：主人仕事場	9：子供寢間	14：子供遊戯場
4：雑仕場	10：スリーピン	15：菜園
5：炊事場	グ・パティオ	16：花壇





若し私が家を建てるなら

福田朝生

自分の住宅は建てないのがこの国の建築家の礼儀ではないのかも知れないが、自宅を建てるほどの建築家は極めて恵まれた部類に属する。「若し私が家を建てるなら」などと言われてドキッとする私など恵まれた部類に入るとはつゆ申せぬ。しかし仮定の事柄にはお答え出来ぬと言った人もあるらしいが、それほどむつかしく考えなくても宜しかろう。

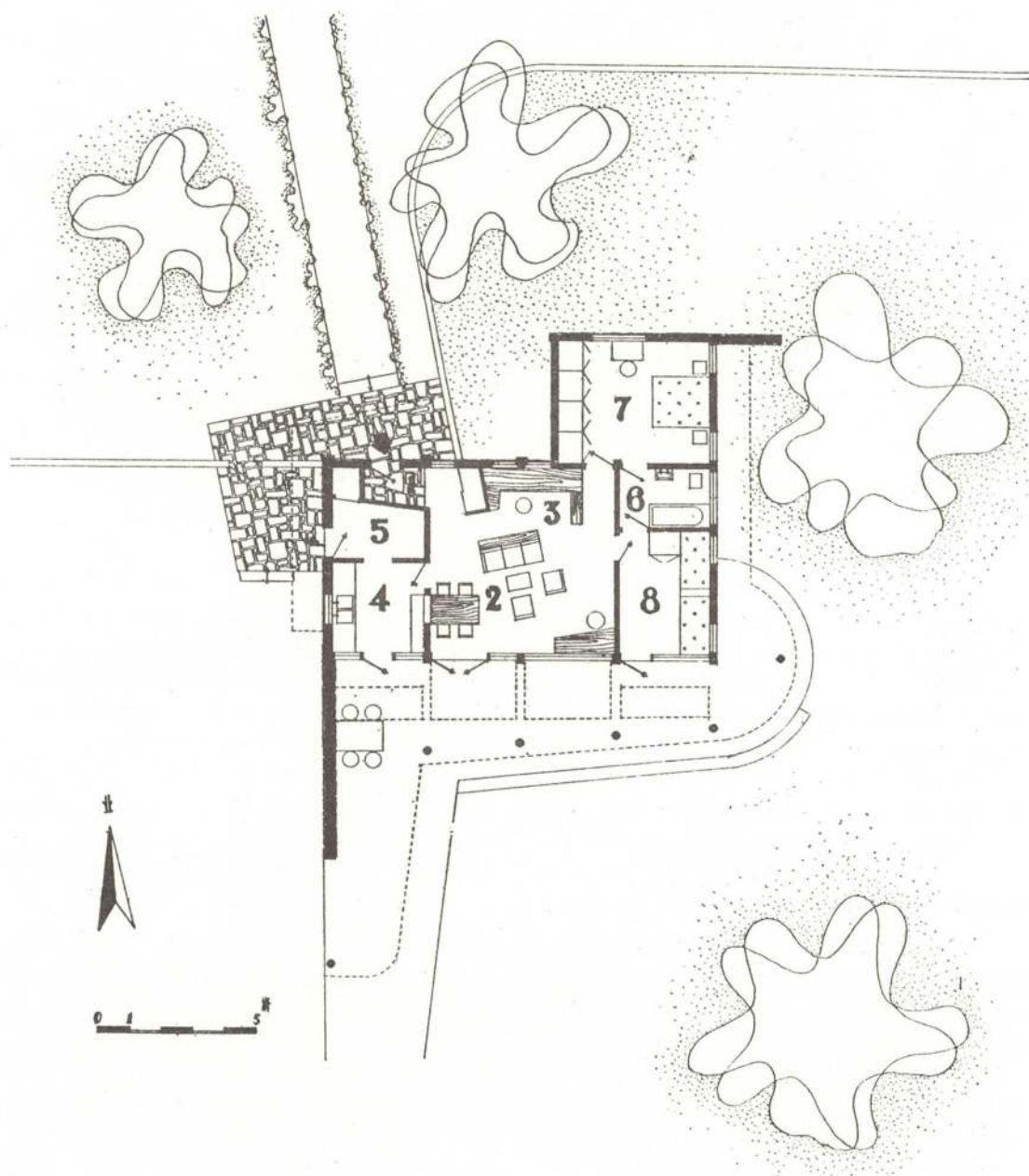
さて「若し私が家を建てるなら」と開き直ると、俗念うづぼつと現われて、学生に講義をするのとは聊か勝手が違う。地震、雷、火事それにアプレゲールの風と水、あきす、どろぼう、ごうとうなど、自然不自然の暴力が頭の中に出没して臆病者の心臓を波立たせる。自宅を建てると聞く毎にその人の勇気と心臓（勿論財力もだが）に驚嘆する私である。自然の暴力はしかし何とか防げるし又万一犠牲になつても仲間が多いからあきらめもつくけれど、不自然の暴力はどうして防げるだろう。窓や出入口の小さいエジプトや支那の住宅なら先づ心配はあるまいが、夏向きの日本住宅では何としても心許ない。又そう言う奴に限って最も弱点を突き破つて侵入する。只物を持って逃げる奴なら不幸中の幸とあきらめも出来ようが、命まで持つて行くのが居るから油断がならない。

安全保障の問題はゆめゆめ人ごととは申せぬ。武装しようにも経済力は許さぬ。

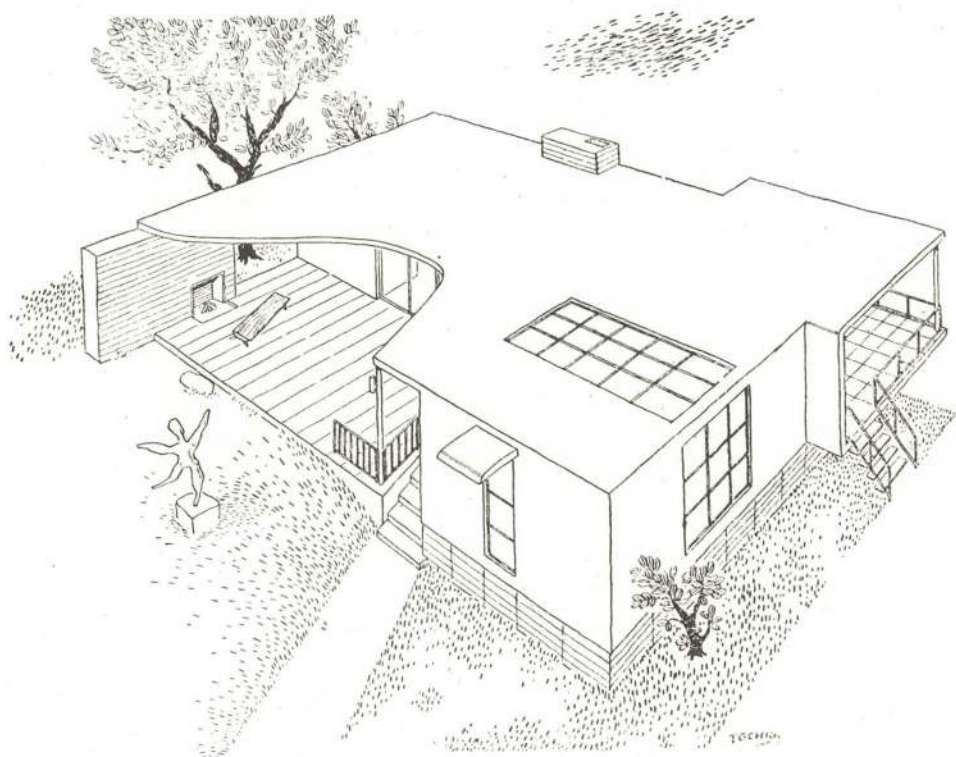
領土の問題亦然り。瘦せたりとは言え四つの島を持つ此の国はまだまだ上の上、一片の土くれすら持たぬ吾々は一体どうなるだろう。いや飛んだ余談となつて了つた。

若し私が家を建てるなら、構造は鉄筋コンクリート平家建、様式は洋式、しかし本当のことを言えばすき焼でもつつき乍らチビリチビリやる四疊半一室だけは確保したいのだが。アトリエと共に離れを作るのも一案。南北の開いた夏向きとして冬はパネルヒーティング、ボイラー室は洗濯場を兼ねる。真夏の食事はテラスで涼み乍ら摂るのがこのプランのミソ。7の寝室は子供達が成長してから増築。敷地は広々とした郊外の一角、くすか何かの太木の間におちんまりと建てる。夏などは木かげで風寝でもしたい。詳しいことは図に譲ろう。

コンクリートだから自由な曲線が使えるのだから角つばいものになつて了つた。製図器具の奴レイと言われても仕方あるまい。セクションペーパーのせいでもある。窓わりも何か畳のにおいがして田舎くさい。悪口の封じ手ではないが。画いてしまつたらあが目について叶わぬ。建築家根性とても言おうか。（筆者京都工芸繊維大学講師）



- | | | | |
|---------|-------|-------|---------|
| 1 玄 関 | 2 居 間 | 3 書 齋 | 4 台 所 |
| 5 ボイラー室 | 6 浴 室 | 7 寢 室 | 8 子 供 室 |



絵と文 光 藤 俊 夫

「若し自分が家を建てるなら」と言う題を与えられた私は、さてそれが今迄に何度となく夢想してみたことであつたにも拘わらず、改まつてそう尋ねられたと言うことの故に、纏まらぬまま錯綜する色々な想像が、容易に巧く口をついて出て来ないのを感じます。

ところで「若し自分が家を建てるなら」と尋ねられて、先づ最初に想うことは「環境」と言うことでした。視野のどく限りに広々とした緑の丘の上に、さんさんと降りそそぐ太陽の光と新鮮な空気のもと、ただ一軒ボツネンと建つているロマンチックな家を私はいつも想像するのです。そこには都塵や機械の喧騒も、いわんや交通の危険にさらされることもなく、ただ飛び交う小鳥の唱声と、乱れ咲く花の芳香があるばかりです。その上四季に応じて変化する自然の美しさが、きつと私の生活を明るく楽しくしてくれるに違いありません。たとえ都会の夜にネオンと映画が恋しくなつたとしても、この丘から都会の中心部に通ずるハイウェイに、私は私の自家用車をものの十分も走らせればそれで済むのです。

そこで私は、この様な夢に胸をはらませ乍ら、「若し自分が家を建てるなら」と「私の家」を或る丘の上にスケッチしてみたのでした。

家族構成は、私が新婚の家庭を持つたときを想像してのことですから、私と私の妻の二人です。或は子供が一人ぐらい既にあつてもかまいません。

構造は一部に鉄骨を使つて鉄筋コンクリート造にするのが理想なのですが、ともあれ何とかしてこの様な屋根

をかけてみたいと思いました。雨水の処理は軒まわりに排水溝をめぐるせれば良いかと思ひます。

生活様式は立式を採用、殊に機能、設備、衛生の面に留意し、しかも休息の場としての住宅の意義を保つことの出来る「うるおい」の色どりを忘れたくないものです。

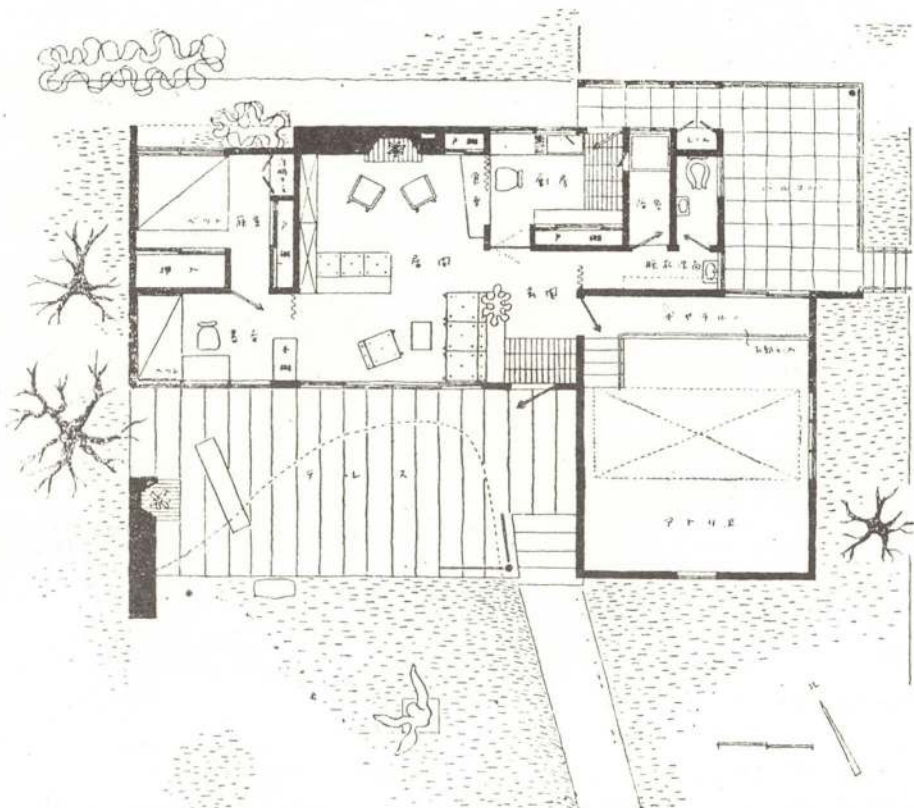
建物の色は真白が良いと思いますが、鉄平石や自然石を随所に使用して変化を持たします。カーテンや開口部まわりの色も、夫々調和のあるものにしたいと思ひます。

その南側にテラスを持つ居間は、随分スペースを広くとりましたが、季節に応ずるバリエーションを持たせるために、家具や簡単な仕切りの役目をしてくれるスクリーンを色々に移置しなければならない故の考えです。ときには数人の友人を招んで騒いだり、家具を片づけてダンスをしたりする事の出来る、「居間の転用性」と言う間も、この広さが解決してくれることせう。開放された扉のむかうに拡がる縁と居間が、一つに溶け合つて涼しい夏のひるさがり、或はファイアープレースを囲んで、誰かが朗誦する詩に耳を傾ける冬の夕等と、そしてその大半の時間をこの部屋で過ごす私達の生活が、いつも楽しいものである様に壁の飾りつけや家具の配置等を色々工夫してみる必要があるでせう。

食事の場所は、主婦の労働を削減するために、或は設備の重複的な繁雑さを避ける意味でスナックバーの形式をとりました。居間用の椅子を転用すれば簡単です。

拙くともあれ絵を描く私は、私の表現活動を自由に約束してくれる制作の場所が欲しいと思ひ、可成り広いア

若し自分が家を建てるなら



トリエを設けました。何段かの階段を降りて入るこの部屋の高い天井には、ブラインドで採光を調節出来る様にした天窗を作りましたが、殊更に北の光線げかしを尊重する故の陰気さを脱してとつた南側の窓と共に、この部屋を明るくし且制作にも希望の光を投じてくれることでせう。作品の幾つかを飾つて、一寸した画廊の役目をしてくれるギャラリーから バルコニーへ出ることの出来る開口部は、画材の搬入、作品の搬出等に役立てるためのものですが、或は又バルコニーは、とある日、アトリエに私を訪れて来た画友との談笑の場として利用することも出来そうです。

そしてカンチレバーではね出たバルコニーの下部には、ガレーヂを設けておけばと思つてみました。

寝室はベッドを使い、押入、戸棚、洋服ダンス等を充分とつておきました。寝室のそばに書斎を設けましたが、子供が大きくなれば勉強室として利用出来るでせうし、一寸した来客のための寝室にも応用出来ると思います。

台所、浴室は電気設備、便所は洋風水洗式をとりました。照明は一部を除いて間接照明を採用し、アトリエに於ける夜の制作は蛍光ランプが便利でせう。部屋々々が、その光と陰の支配によつて、美しい雰囲気をかもし出してくれる様工夫したいと思ひます。アトリエだけでも暖房設備があればそれに越したことはありません。

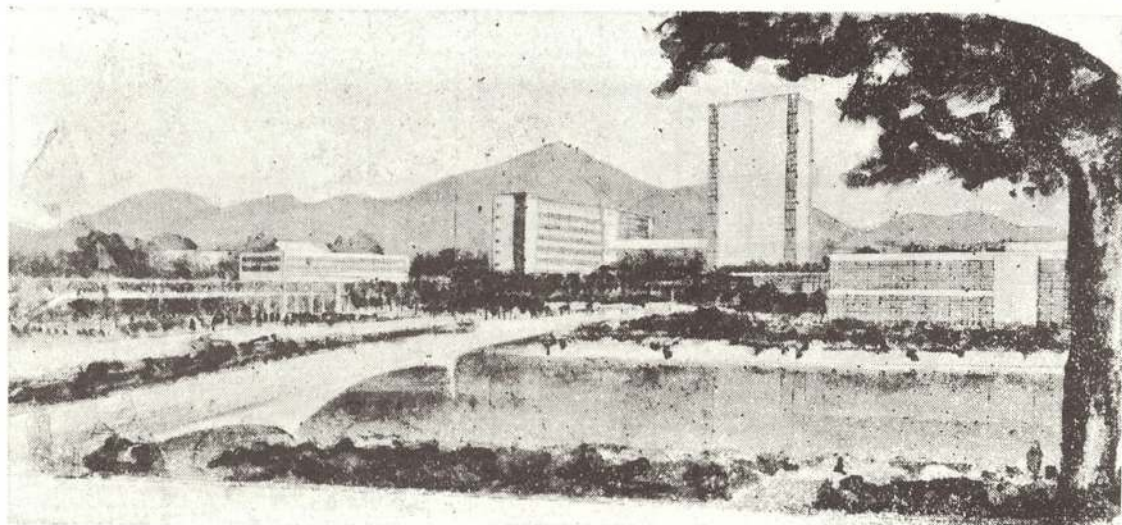
テレスに設けた暖炉は、戸外での火を楽しもうと言

ときのものですが、塵埃の処理等に大きな役立てを持っています。居間の延長として意味のあるこの広いテレスを更に意味づけるためにも、ここに暖炉のあることがとても愉快に思えます。ところで私は、このスケッチの中「タタミの部屋」を設けなかつたと言うことについて、もう一度考えてみなければならないのです。

私達の生活の中に着物があり、お茶があり、活花がある以上、タタミは日本人にとつて切つても切りはなせない存在です。たとえ外的なものとしてタタミを要求しなかつたにせよ、私達の心の底に根強く流れる伝統的な情操は、常に日本的なものを求めて已まないのが当然です。

ただそうしたセンスは、工夫さえすればどの様にしてでも作り出すことが出来るのではないかと言うことと、何も「タタミの部屋」だけがその様な要求を充たしてくれるすべてではないと言う考えから、更に又何かと不便な座式生活から脱がれたいと言う潜在意識が、ついつい「タタミの部屋」をボイコットしてしまつたのでした。とは言ひ余、着物を着用した私の妻が、椅子に坐つて茶をたてると言うことで、その美しさが半減してしまつた等となつては不愉快ですから、たとえ小さくとも「タタミの部屋」を設けておけば良かったと思ひます。若しどうしても必要であれば、バルコニーから東へ、渡廊下を伝つてゆける「タタミの部屋」を増築しようと考えます。

(43頁に続く)



今昔・是非

滝沢真弓

年期の必要 毎度のことながら今度の展覧会で痛感させられたことは、建築の勉強には年期が要するということがあつた。如何なる勉強もそれにちがいないが、特に建築設計においては、直観的総合と論理的分析の両面の才能の調和の上に製図技術の面も加わるので年期がものを言う。そういう点で旧制大学の諸君の作品が優れていたということは（作者の才能を一応考慮外として）何ともいたし方ない次第であつた。と同時に考えさせられた問題は——今回の展覧会と直接の関係はないことだが——来るべき新制大学の専門コースの年期の甚だ心もとないという一事である。

が、とにかく今までの制度でも決して長いと言えぬ年期で、あれだけの成績が上つたということは、学生諸君の努力はもとよりのこと、何となく日本の文化力も追々に回復しつつある証拠だと有難いことに思う次第である。

平面計画の散漫 ところで、あの会場で私は諸君の労作に対し妄評を加え、しかもそれが単なる当座の思ひつきだつたりしたことは今更ながら相すまぬことに思う。それはあたかも私自身が未だかつて学生だつたことがな

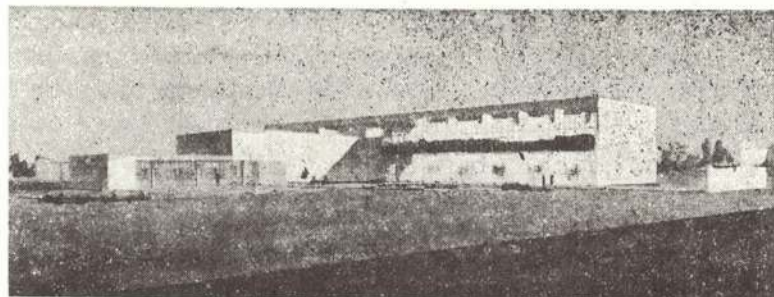
（京都大学、文化センター）

かつたかの如くであつたかも知れない。が、あの席で言つたことは実は私自身に向つて言わねばならぬことだつたのである。と同時に、つくづくと思われたことは、私共が学生時代に先輩たちから評されたと同じことを、私自身もまた諸君に向つて言つていたということである。

そこで具体的な問題として先ず注意せねばならぬのは、多くの作品の造形的構成が——特に平面計画において——散漫だということである。私共は学生時代に、すでに老教授といわねばならぬような先生から教えられたのであるが、その老先生が常にくり返された言葉で今でも耳の底に残っているように思われるのは「平面はできるかぎりコンパクトに」ということであつた。これは古い・新しいに関せぬ建築計画の要諦であると思う。特に日本人に対する最大の警告ではないかとさえ思うのである。古来メイソンリー・コンストラクションの伝統をもたぬ日本人はこの点で先天的に西洋人にはかなわない。それは、言わば木造様式的性格とでもいうべきものか——その根底に気候風土という条件を考慮するにしても——日本人の計画は概してコンパクトでない。その極端な例は、あたかも桂離宮や二条離宮の書院のように折れ尺式に屈曲している。尤も西洋でも最近は大分變つて來た。

が彼らのいわゆる開放様式と吾人の先天的な散漫性とは似て、その実非なるものだ。それは正にビフテキとスキヤキほどに異なるのである。

立体のアヤ 平面が散漫だということに対応して立面の取扱にアヤがありすぎる。茶室は日本の性格の最もよく現れたものとされているが、あの狭い空間

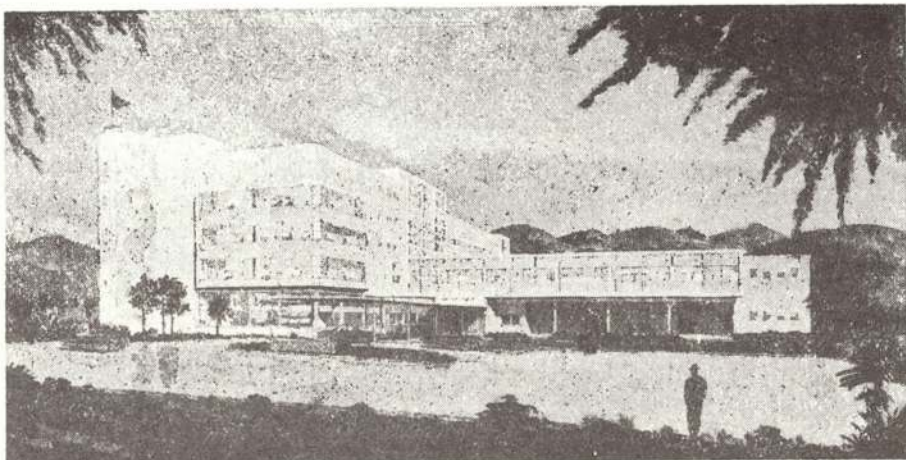


（大阪工業大学図書館）

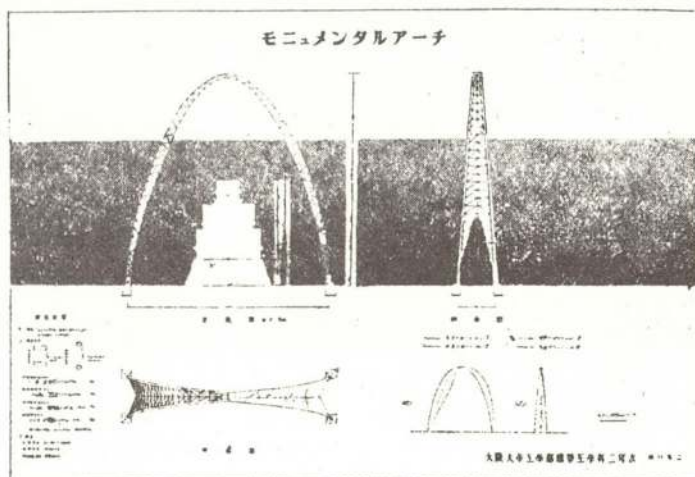
に何という手の込んだアヤがあることだろう。簡素であるという反面において、実にコマシヤクした構成である。一つの強力なテーマを基本として、その上にカッコリとしたヴァリエーションを展開する西洋人の論理的な構成に、日本人は更めて眼を

開かねばなるまい。その際、言わば外国の新しいスタイル・ブックに移ろいをしてはいけない。

機能と表現 私共学生時代によく話題に上つたことは、立面の構成が全く予期せぬ背面において最も成功するということであつた。誰でもファサードは最も美しくと苦心する。そのためには屢々平面を犠牲にさえる。次いで側面を考慮する。そして最後に背面だが、それは大抵の場合、他の三面から必然に、というよりも止むを得ず、決つてしまふ。ところがそれが一番優秀だ。これは逆説のようだが、実はそこに建築の本当の姿が現れた、というわけではあるまいか。つまり形の美しさというものは主観的に求めるべきでなく、もつと客観的なものから自ら決つてくるものなのだ。私共の時代にはまだ「機能」という用語はなかつたが、そういう考はあつた。そして、今度の展覧会の作品においても、単なる主観から求められたらしく思われる「新



(神戸工専、美術館)

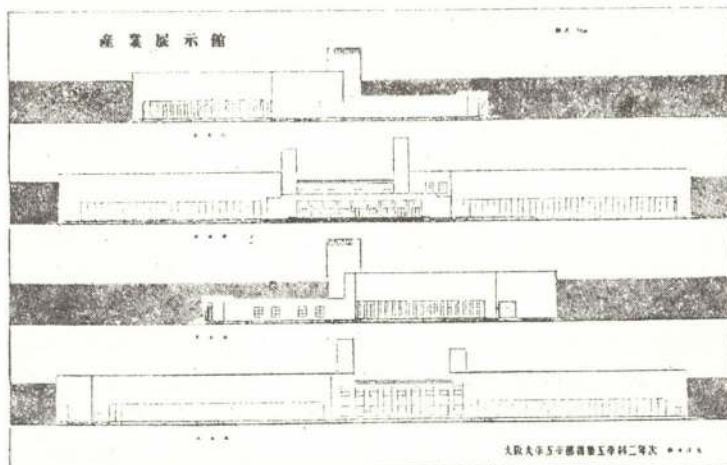


(大阪大学モニュメンタルアーチ)

しい形」が少なくなつた。妄評多謝。但し、掲載の図面は就中優秀の作品であろうから上記の妄評はそれらには妥当しないであろう。(筆者・大阪市立大学理工学部教授)

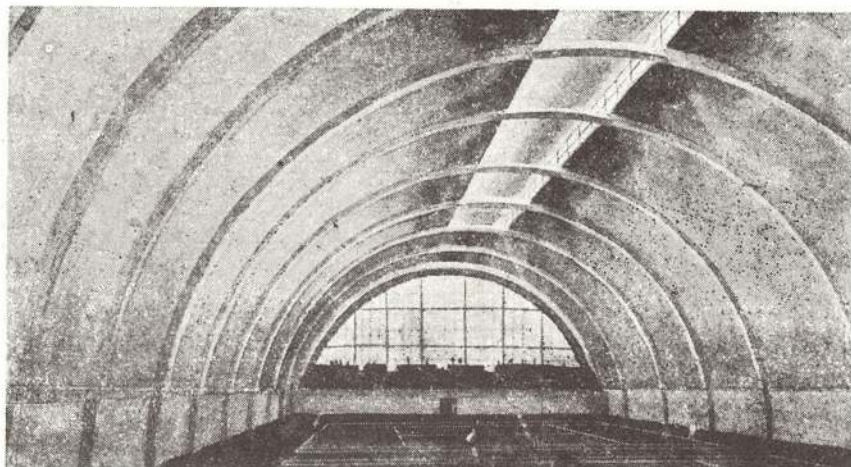
平凡・異常

石川 純一郎



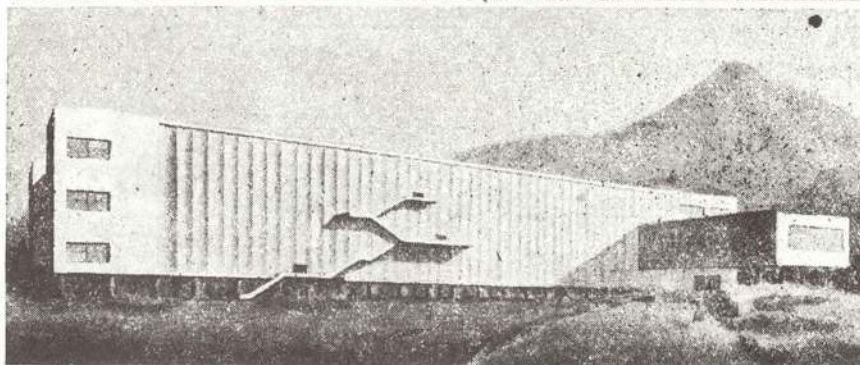
(大阪大学、産業展示館)

戦後派的とかアブレ的とかいわれる性格なり様相なりは、今日のあらゆる面で我々の目をそばだたしめ、耳を驚かしつつあるが、あたりまえのことを、あたりまえのこととして行動するなどということは、およそ無意味であつて、何か異常な奇矯な、人の耳目を驚かせるテイのものでなくては満足出来ない気持、一種の英雄主義、こんな気持は必ずしも今日の若い人達の専売ではなく、凡ての時代の若い人達に共通な心理のやうにも思われる。否それどころか、かくいう我々、所謂戦前派とい



われる我々、も時に戦前派的ならざる考え方や行動の片鱗を、我れと我が身に発見して、びつくりすることがあるので、人ごとではないのかも知れないが、兎に角人間にとつて、平凡より異常の方が刺激的で興味あることに間違はない。

しかし平凡から異常え連る一聯のスペクトルの意味内容を一応認識し、平凡と異常との区別が兎にも角にもつけられるところが、純戦後派と我々との相違でもあろうか。今日の若い人達が異常を異常とも感ぜず、異常の特異な刺激に、単に、反射的に惹きつけられてゆくが如く見えるのは



(京工芸繊維大学・美術館(下) 室内競技場(上))

我々のヒガ目であろうか。今日の若い人達の辞書の中には「独断」とか「思い上り」とかいう語彙はないかに見える

関西六大学の設計コンクール展を見ながら、私はこんなことを考えていた。昨年度の展覧会ではそんなにも感じなかつた傾向が、今年度はかなり強く出ているのが私を刺激したのであろう。

尤も最近アメリカあたりの外国雑誌が自由に見られるやうになつて、自然トラはその辺に求められることもその一因であろう。しかしアメリカの雑誌と雖も異常ばかりで充たされているわけでもなく、寧ろ我々から見て平凡な、あたりまえな、素直な作品の方が多く紹介されている。にも拘らず眩惑的な異常え異常えと惹かれてゆく現象は、今日の心理傾向から、まことに当然に感ぜられるのだが、さればといつて、異常の異常たる所以を考えても見ないこと、換言すれば、平凡な、あたりまえな、素直な作品の「よさ」を噛みしめて味わつて見やうともしないこと、これも困つたことといわうか、寂しいことといわうか。

具体的にいえば、平面にあらわれる傾斜した壁、曲りくねつた壁、横這いてなければ登れぬ階段など、外観では建物の隅角部にあらわれる鋭い突出や曲面、二階以上を利用して一階は柱だけの家、同様な連絡廊下などきりがない。

しかし私はこれらを排斥しやうとはしない。一尤も横這いの階段はいささか困るが一ただこれが無意味に突如としてあらわれて来る、出現する必要のないところに出現し、出現すべからざるところに出現するのは困ると考えるだけである。

しかし、異常が無意味に突如として出現するところにアプレのアプレたる真隨があるのかも知れないが、一応内省して見る必要ありと我々は考える。鋸は鋸、鑿は鑿、その使用のところを得なければならず、又その目的に適合する様な型式を備えて居り、又そのために美しい。板は鑿で切断すべきか。柄穴は鋸で穿つべきか。充分思考すべきである。単なる異常は低劣だと思う。

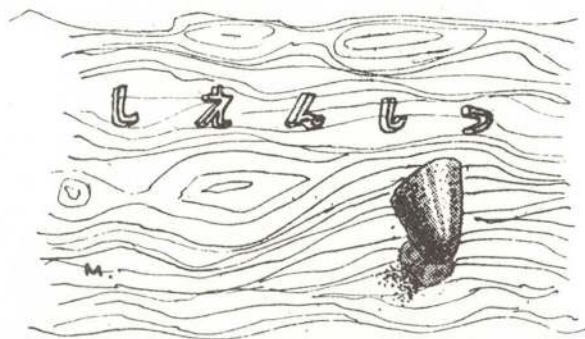
考人の慨嘆 めいた感想になつてしまつたやうだが、しかしこれはことさらに作品中の異常な部分をいささか誇張し過ぎた嫌がある。私にもアプレ的異常癖が感染したらしい。

兎に角関西の各大学が共通のテーマによつて斯様なコンクールを行うこともよく、いささか荷が重過ぎると思われる「文化センター」の総合的計画設計にぶつかつて共同制作することもよく、又全体として実のところ我々の予想以上の出来映であり、中には我々を驚かせるに足る優秀作をも発見し得たことは喜びに堪えない。

(筆者・竹中工務店技師長)

街の顔を 美しく

星 広 文



街の顔を美しく！醜惡なポスターや看板は都市の恥になりませんか、ネオンサインにも芸術化の余地がありません。ポスター看板でも私は看板美術と言いたいと思います。

戦災で久しくこの醜惡さを忘れて居りましたが最近又ネオンにブリキ製ペンキ塗り看板にポスターに都市はまるで踊子のような厚化粧を載っています。なんとか整理ができないものでしょうか、例えば広告美！のための美観地区とか一定の場所を設けて更に進んで税をかけてその数まで制限することです。

人間の最も必要とする家庭の家具に物品税をかけて、宣伝広告に税をかけないのは広告屋の職業保護だろうか、そうだとしたら家具職も保護すべきだが税政はむづかしいもの。

青い灯、紅い灯、それからげげげしい看板、広告塔などはなるほど都会の花だといえるかも知れないが種々雑多所きらわず並び立つ醜惡さはむしろ近代都市の大きな悩みになってきているのではないのでしょうか秩序ある都市美がほしいものです。

もう私等の造型の世界にも春が来たのでしょうか、秩序への慾望、人間だけしか持っていない理性の世界。機械文化に一時はだまされかけた20世紀の人間も真の機械文化の認識、即ち真の人間性の認識の時代がやって来ている。

二回も生き方に就て大きな戦争をした人間だもの犠牲者に対して申し訳けないじゃないか。

看板の話から飛んだ話がはずんだが本論に戻って先づブリキ製ペンキ塗

りの看板は大都市ではやめてほしいものです、ネオンやポスターに較べてずーと幼稚で見苦しい。ゴチャゴチャとむやみに数ばかり多く大きさも型も全くの無統制です、塀筋辺の看板をずらりと見渡しても建物との調和が悪く引立たないものが多い様です、松屋町筋、天六、福島附近には顔を背けたいような看板の並列をみます。戦前の大阪駅前「うどん」「井」「おやど」それに「おでん」あの醜惡きわまりなきブリキ製ペンキ塗り看板、建物は大半が平屋建これが大阪の表玄関でした、アベノ橋と築港の両玄関がかくならねばよいかと念ずる一人です。

私は建築家としての考えですが本音をいうと看板広告では今日ではもう時代おくれで人目をひくためには店頭装飾と店内の感覚に重点をおくべきだと思います現に都市のデパートや丸善あたりで相当のものを見られます。

而しながら広告看板の問題も今日の産業を主とする都市では重要な問題で、なほ当分はハンテン時代が続くものと思いますが、それにしても経営者も識者もモット関心を持つことです。

かつて私は数年前に「往時権勢威示のための建築は今ポスターのための建築」と世はアドビル時代ともなろう」と提唱したことがありましたが更に進んで今は看板美術の時代とも言います、看板がいつまでも気のきかないソバカスだらけの複製品のだらしなで軒先や入口にぶら吊つてるのはおかしい。近代商

業都市の表徴は看板美術から、そして最も尖端を行くコンマーシャルアートの流行兒たらしめたいものです。

それには照明技術家も街頭美術家も看板業者もモット建築家と協力し平行して努力することです。

建築家にも質の向上を要求され建築士法が制定されーおいおい文化向上されるはずだから、美術家にも美術士法と云うものが出来て美術省が出来ることになる。そうすると哲学省が必要になつて来る、随分ウキスキーが頭に過つて葉巻も大方へつたが、兎角私の黒い目のある間に東洋のバリーが日本の何処かに実現出来て、原子力が真理の為に美しく飾られる場面を見度いものである。

そこで美術省の美術大臣も建築から総ての造型美術に美しい「タクト」を振る時、始めて秩序ある都市美が生れ街の顔も美しく「ユートピア」が現実に出現するでしょう。

(株式会社・星工務店代表取締役)

(39頁より続く)

ともあれ私は、人間が人間としての本当の喜びを感じる事の出来る様な生活、或は仕事がしたいと思えました。そしてこの丘の上から、この「私の家」での生活の中から、ささやかではあつても私の詩と芸術が、私とその喜びをともにしてくれる人々のために生まれて行くことを想つてみるのです。

さて求められるままに書いたこの絵と文が、とうとう私の一人よがりにつづつてしまつた様です。私に与えられた「若し自分が家を建てるなら」と言う題の責が、果してどれだけ成し得たかを案じます。

(筆者・京都市立美術大学美術学部)

石綿スレート標準仕様書

関西建材協会編

一、浪形スレート葺の部

1、木骨母屋の場合

屋根は浪形スレート日本工業規格品を使用し縦 150 耗、横 1 山半を重ね掛け上下の浪形スレートを重ね縫いせざるよう隅切葺とす。

浪形スレート釘孔は1列2ヶ所の割合にハンドドリルを用いて穿孔し亜鉛鍍弧形鉄座及フェルト座を添えたる径5耗以上、長76耗（重ねの場所は88耗）の亜鉛鍍打込釘（又は捻子釘）を以てし母屋と馴染よく直角に配列せしめスレートに無理を生ぜしめるざる状態において入念葺上げるものとす。

2、鉄骨母屋の場合

屋根は浪形スレート日本工業規格品を使用し縦 150 耗、横 1 山半を重ね掛け浪形スレート竪端は母屋上端と平行せる位置に於て重ね掛け上下の浪形スレートを重ね縫いせざる様隅切葺とす。

浪形スレート釘孔は1列2ヶ所の割合にハンドドリルを用いて穿孔し径6耗亜鉛鍍フックボルト（稲妻金

物使用する場合あり）を以て母屋アングルに引掛け浪形スレートを通し前掲の鉄座及フェルト座を附し、ナットにて締付け入念に葺上げるものとす。

3、下見張の場合

下見張は浪形スレート日本工業規格品を使用し縦90耗、横 1 山半を重ね掛け馴染よく隅切葺に張上げるものとす。*場合により浪形スレートの谷に鉛座を附したる捻子釘を以て締付ける事もある。

（注1）隅切葺とは上下左右重り部分の2枚目及3枚目の板端の封角線を1山半より縦重ねとなるべき150耗の位置に向い斜に金鋸を用いて切落したるものを順次重ね掛けて葺上げるものなり。

（注2）釘孔2ヶ所とあるは上部に重なるべき浪形スレートの2山目及之より5山目の山頂に孔明けするものにして下部のスレートと縫合せざるものとす。

（注3）屋根葺の場合縦の重ねは勾配及び流れの長短に依り90耗乃至200耗迄伸縮することを得。

（注4）浪形スレートの釘孔はボルト径より3耗乃至

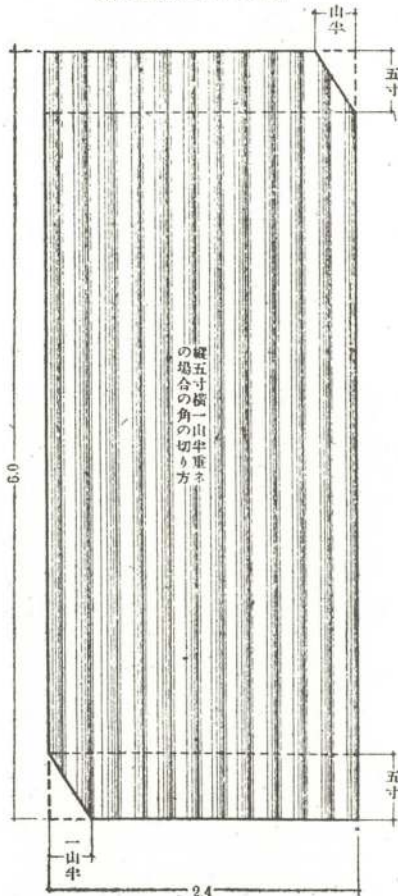
4耗大きく明けること。

（注5）葺上の際は必ず歩み板を使用し同板以外の場所に乗らぬこと。

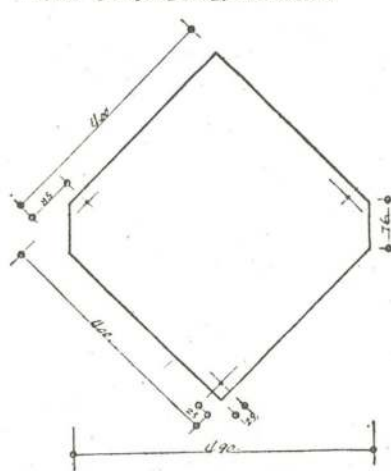
（注6）浪形スレートを野積にして放置すると不均の膨脹や収縮が起り亀裂を生じ易いから覆や囲いをして置くこと。

（注7）凸凹の地面や床の上に其儘重ねて置くと亀裂を生じ易いから適當の材料を下敷として水平に積重ねて置くこと。

波型板角切の図



四百耗（16吋）菱形葺標準規格図



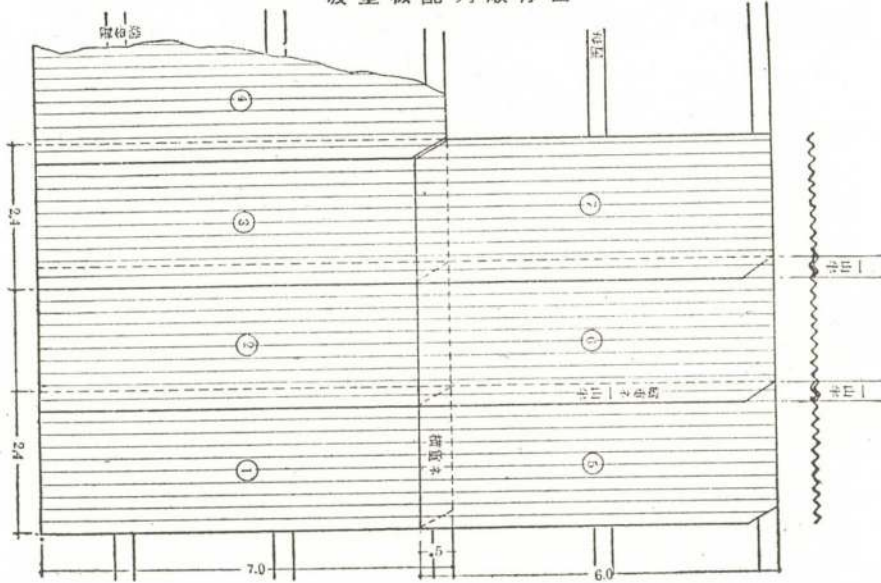
菱形葺の一坪に於ける所要枚数（概数）

四百耗菱形葺 (十六吋)	三百耗菱形葺 (十二吋)	二百耗菱形葺 (八吋)
重ネ 63 耗 (二寸一分) 二吋半	重ネ 76 耗 (二寸五分) 三吋	重ネ 63 耗 (二寸一分) 二吋半
30枚	32枚	57枚

縦一文字葺一坪の所要枚数（概数）

四百耗板一文字葺 (十六吋板)	三百耗板一文字葺 (十二吋板)	二百耗板一文字葺 (八吋板)
葺足 166 耗 (五寸五分)	葺足 136 耗 (四寸五分)	葺足 114 耗 (三寸八分)
400耗角板 50枚	400耗角板 56枚	300 耗 角 板 97枚

波型板配列順序図



76耗とし菱形葺に
仕合せ軒先通りに
敷平を使用し、其
上に半隅切板を重
ねそれより順次上
方に向つて隅切小
平板を重ね掛け、
銅鋸（足長30耗）
及平頭釘（長36耗）
を以つて対角線
通り筋目良く入念
に葺上ぐるものと
す。但、野地板を
使用せず棧葺とこ
するを得。

◎縦一文字葺模準
仕様書

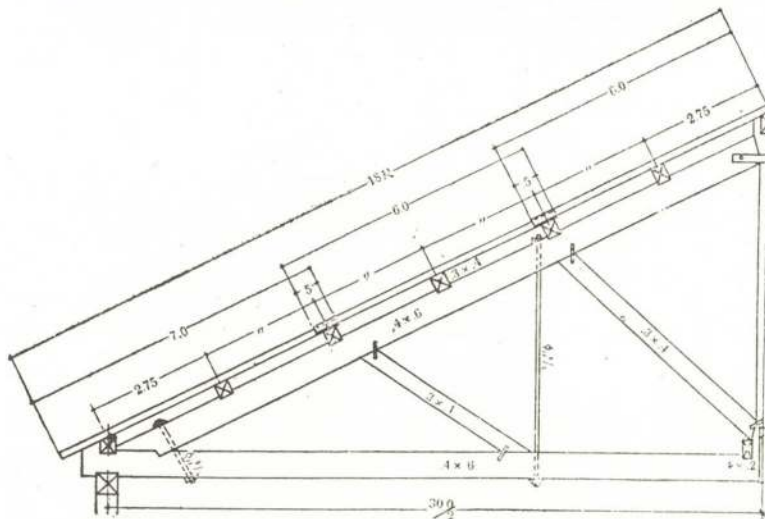
屋根は野地板上

に下敷アスファルトフェルト20
疋品を丁寧に敷詰め墨打ちの上
（或は土居葺とし）灰白色小平
板（400耗×200耗×6耗又は4耗
厚）を日本標準規格品を使用し
縦一文字葺に葺足150耗とし軒
先通りは敷平を使用し順次通り
良く重ね掛け、棟際及妻登（ケ
ラバ）共400耗×200耗角を使用
し本額葺とし長さ36耗平頭釘を
以て入念葺上ぐるものとす。

◎横一文字標準仕様書

屋根は野地板上にアスファ
ルトフェルト20疋品を丁寧に敷詰
め墨打ちの上（或は土居葺とな
し）灰白色小平板400耗×200耗×6耗又は4耗厚日本標準
規格品を使用し、横一文字葺に葺足76耗とし軒先通り敷
平を使用し順次通り良く重ね掛け、棟際、妻登共200耗
角板を使用し本額葺とし長さ36耗平頭釘を以て入念に葺
上るものとす。

（朝日スレート株式会社提供）



波型板葺小屋断面母屋割の図

二、大平板下見張の部

下見は大平板、日本工業規格品厚さ7.5耗を長さ1820
耗巾33耗に切断せるものを使用し、鎧張とし羽重ねは30
耗重な掛け横は突付張として捨板（亜鉛鍍、鉄板23番を
ハゼ折とせしもの）を柱及間柱に当てがいたる上化粧釘
は長さ36耗真鍮丸頭捻子釘座金付（隠し釘は長さ36耗亜
鉛鍍平頭釘を使用）を柱及間柱毎に使用し何れもハンド
ドリルを用いて穿孔し水平通り良く入念に葺上ぐるもの
とす。

◎小平板菱葺

屋根は野地板上に、下敷アスファルトフェルト20疋品
を丁寧に敷詰め墨打ちの上（或は土居葺とし）灰白色小
板日本標準規格品400耗×400耗×6耗又は4耗厚隅切、
鋸穴、釘穴等事前に於て加工済みのものを使用し、重ね

合理的工法・責任施工	防錆完全・中空防音	耐震・耐火・軽量・堅牢	い	式を御採用下さ	軽鉄骨は日進	は軽鉄骨を	間仕切・天井に
会社 奥村重兵衛商店 大阪府北区本橋町三一番 電話 堀川 四一六四番							

(昭和二十五年)

46

委員 水谷正男	同	鷺尾健三	同	中野吉彌	同	桐本楠雅
同 藪中一良	委員	五百藏芳明	同	羽原德衛	同	神田省三
請負規程改正委員会			同	布施忠司	同	早良俊夫
委員長 尾崎久助	同	飯田精次郎	同	益尾辰雄	同	島村佐次郎
幹事 藪中一良	同	池田達雄	同	三木榮逸	同	田村正夫
委員 菅谷三郎	同	岩津潤	同	村島彰	同	高山馨
同 妹尾一夫	同	上田良治	同	森田康次	同	竹内孝
同 田辺信	同	大下順三郎	同	森本文章	同	竹腰健造
同 那須武雄	同	奥島正一	同	横尾義貫	同	中野順次郎
同 藤阪捨治郎	同	鬼武信夫	建築資材審査委員会			称屋毅一
同 松久保敬三	同	菊地庄太郎	委員長 置塩章	同	同	古塚正治
同 山口久五郎	同	小泉昇	副委員長 岡田孝男	同	同	真口愼夫
同 鷺尾九郎	同	小西岬	幹事 小松文明	同	同	増井敏克
災害調査委員会			同 竹内成夫	同	同	水野喜一郎
委員長 池田宮彦	同	島田啓太郎	同 西村勝	同	同	村野藤吾
副委員長 堀口甚吉	同	高橋慶夫	委員 井手正雄	同	同	元吉勇太郎
幹事 津村重一	同	谷口尙武	同 奥島正一	同	同	山内正一
同 伴 潔	同	塚本猛次	同 加島信之輔	同	同	

会 員 動 静

入 會 者

二 号 正 会 員

(本 部)

- 旭大理石工作所(1) 旭区大宮町5,6
 建築工業新報社(1) 東住吉区北田辺町68
 小林建築事務所(1) 東区南久宝寺町5,18
 鈴木シャタア工業株式会社(1) 北区茶屋町33
 大同鑄造株式会社(1) 南区順慶町1,20
 丹後工業株式会社(1) 福島区海老求中1,9
 東亜工業所(1) 此花区四貫島大通1,8
 株式会社 中村組(3) 東住吉区駒川町7,12
 (株)くろふね工芸社(1) 北区高垣町19
 (株)鶴田組(1) 芦屋市東芦屋町147
 松井建築事務所(1) 旭区新森小路中2の113

(東海支部)

- 石原産業(株)総務課(1) 三重県南牟婁郡入鹿村板屋

正 会 員

(本 部)

- 安達昭 尼崎市建家町38
 生駒忠彦 八尾市庵華町竹淵548
 (安井建設株式会社)
 伊崎秀一 尼崎市昭和南通4,90(自 営)
 石河晃太郎 芦屋市前田町15(竹中工務店)
 出水正良 中河内郡松原町高見

(大阪市建築局整地部)

- 稲葉彌吉 京都市左京区下鴨蓼倉町60
 (株式会社共栄社)
 白井憲夫 西淀川区野里東3,14第3流志寮
 (淀川製鋼所工務課)
 尾崎義己 守口市寺内町1の65(松村組)
 岡本博介 京都府乙訓郡久世村字築山
 (大林組)
 金子幸孝 東住吉区田辺本町7の28
 (大日本土木)
 川手一海 西区京町堀上通り1の33 同社内
 (銭高組)
 清原泰 布施市俊徳町1の1838(自 営)
 窪田美智治 堺市少林寺町東1の7(//)
 倉本清城 布施市近江堂485(八尾市土木課)
 国友忠雄 尼崎市塚口和楽園88号(大林組)
 佐竹巳之助 北区天満橋筋2の33(自 営)
 高島太郎 西成区松田町1の50(高島土木)
 高田弘 都島区友淵町336(銭高組)
 高橋素一 奈良県生駒郡郡山町大字北郡山370
 (鶴池組)
 辻義雄 貝塚市中960(自 営)
 戸明愛太郎 兵庫県武庫郡鳴尾村小曾根同社内
 (善野工務店)
 土井生 西宮市甲子園口3の54(自 営)
 友永茂 旭区豊里町1758(都島工高等学校)
 名倉嘉次 大正区大正通6の143 同店内
 (鍵谷工務店)
 浜口勝美 豊中市曾根37(日東コンクリート)

早川 幾次郎 南区東清水町2 (自 営)
 原 川 一 巳 堺市砂道町2 大和川府住232号
 (大阪刑務所)
 東 尾 七 郎 住吉区西住ノ江町4の21
 (新田帯革製造所)
 藤 田 昭 雄 東淀川区木川東之町2の36
 (明産興業)
 松 本 弘 堺市浜寺公円町1の31
 (大阪府営繕課)
 丸 井 勝 美 奈良県生駒郡郡山町字藪32
 (近鉄上本町営業局)
 村 井 清 敏 神戸市須磨区上細沢町6(大林組)
 村 上 好 文 堺市三国ヶ丘御幸通6 (自 営)
 (兵庫支部)
 榎 利 夫 尼崎市塚口上慶長1025, 1
 (三都建築事務所)
 上 島 為 治 明石市上ノ丸1, 3280
 (三井倉庫KK)
 大 隅 武 夫 兵庫県武庫郡鳴尾村(明和工務店)
 谷 弘之助 明石市西新町5ノ114
 (明石土建工業KK)
 原 田 光 明 兵庫県美囊郡三本町府内
 (三本建築KK)
 藤 本 義 一 兵庫県加古郡二見町福里
 (東洋紡績月見工場)
 政 所 好 策 神戸市灘区高羽竹丸
 (新扶桑金属KK)
 石 田 耕 治 姫路市網干区新在家幸町1267の1
 (有) 大宝工務店
 坂 根 一 之 助 神戸市葺合区小野柄通り7の1
 (清水建設(株))
 松 本 清 一 明石市二見町西二見 東洋紡社宅
 10号 (東洋紡績(株))
 吉 田 稔 彦 神戸市葺合区熊田町5の13の1
 (自 営)

准 会 員

(本 部)

吉 田 昭 東成区大今里本町1, 596

(東郵便局郵便課)

(和歌山支部)

角 禎 展 和歌山県那賀郡田中村大字赤尾
 松 原 康 雄 和歌山県那賀郡田中村字打田
 井 崎 清 一 和歌山市王藻町2の5

(光風工高)

川 瀬 武 次 郎 和歌山県海草郡岡崎村井辺

(自 営)

中 野 伸 太 郎 和歌山市畑屋敷西ノ丁5 (〃)

湯 原 渉 和歌山市広瀬中之町3の11

(和歌山市建築課)

(京都支部)

北 村 泰 造 京都市下京区木屋町通松原上ル

(京都府教委事務局)

中 西 潔 京都市左京区岩倉下在地60

(大鉄京都建築区)

村 田 芳 三 〃 下京区西七条八反町21

(塗装建築指導所)

会員倍加会勢に御協力下さいます各位に対し協会当局は深く感謝致して居りますので近き将来何にかの方法に依て謝意を表し度く存じます。

「建 築 講 座」 日本建築協会発行

今般建築学科全般に亘つて建築士試験を対象としつつ再研究を望む人にも有意義のように去る一月会告せし建築講習会を開催致しました。

場所は都島工高に於て二月三日より同月二十六日迄、700 余名の多数の熱心なる聴講生が来講され亦講師各位も適切なる講義に依り誠に好評を博しつつ先ず第一回の講習会は終講致しました。

其の時の講師全体のテキストが合本され非聴講生の熱望と地理的に広き声に答えて小數乍当協会事務局に準備する事が出来ましたので残部少き故至急御申越しあらん事を望みます。

B 列 5 号 本文 370 余頁 定價 300 円 書留小包料 65 円

「地震と其対策の常識」

日本建築協会災害委員会編

好評の上記パンフレットは昨年来広く分頒して残部少くなりましたが尙若干の手持あり、希望の方は品切れにならぬ内申越下さい。

尙本パンフレットにより学校、会社、組合、各会、に地震と其対策の常識の普及を念願としているに就き各位の御斡旋と御支援を熱望している。

B 列 5 号、本文 28 P 写真 8 P 会員一部定價 40 円
 会員外 定價 50 円 送料 6 円

ス チ ール サ ツ シ ュ
 // ド ア ー
 // シ ャ ッ タ ー

オペレーター・伸縮戸・面格子
 設計・製作・修理

日本サツシユ株式会社

大阪市東区高麗橋二丁目九番地
 電話土佐堀②995.3979番

会 務 (十二月分)

理事会 7日 2時より朝日ビルで滝沢主記外10名出席、建築講習会開催の件—開催決定、朝日ビル事務室対策問題の件—次回再検討、ジェーン台風記録会誌に掲載の件—2月号に掲載決定、関西建材会より申出の件—次回再検討、事務局職員下半期賞与支給の件—支給決定、会員証衡一入退会承認、其他報告10件

26日 2時より天神橋分室で竹腰会長外8名出席、創立35周年記念事業の件—一回に審議、建築と社会誌定価改正の件—80円に改正決定、新年初理事会開催日の件—1月18日に決定、大林副会長、鴻池理事帰朝歓迎会の件—大阪建設業協会と共同主催で開催方交渉、其他報告5件。

会勢委員会 2日 2時より天神橋分室で政岡副委員長外7名出席、1月以降見学会計画の件、会員倍加運動の件—其他を議した。

大阪高等裁判所見学会 11日10時出席者32名により公判廷傍聴、所内建物見学、検事の講演等聴取、午後2時30分盛会裡に散会した。

建築講習会委員会 22日 3時より朝日ビルで井上副会長外13名出席して開会、井上副会長より中野順次郎氏を委員長に委嘱し同氏により万事進行する旨挨拶、委員長を中心に具体案作成1月末より開講し2月末日までに終る様計画することに決定した。

編輯委員会 7日3時より、朝日ビル本会々議室で小川副委員長外7名出席、12月号雑誌批評及昭和26年度の表紙図案の審査、2月号編輯企画を寒地建築と決定。

21日 3時より、朝日ビル本会々議室で小川副委員長外8名出席、昭和26年度担当号迄の編輯方針と3月号の企画と広告部員との懇談。

会 務 (一月分)

理事会 18日正午より朝日ビルで竹腰会長外12名出席、創立35周年記念事業計画の件—委員会を設け計画することに決定、通常総会開催の件—1月30日開催に決定、井上副会長逝去につき香花料贈供の件—贈供決定、大和事務理事病氣につき見舞金贈呈の件—贈呈決定、会員証衡一入退会承認、其他報告3件。

中座観劇会 20日 4時より出席者40名で東西合同歌舞伎を観劇、会務委員長寄贈の土産袋を出席者一同に呈した。

高島屋とメトロ見学会 23日10時30分より約60名出席の下に高島屋新館を見学後特別室で設計者坂倉準三氏より詳細な説明を聴取、高島屋より茶菓其他の接待を受けて盛会裡に散会、引続き第2会場のメトロに於て施

工者株式会社鈴木事務の詳細な説明を聴き、同社より茶菓の饗応を受けて2時30分意義ある見学会を終了した。

通常総会 30日 2時より朝日ビルで竹腰会長議長の下に出席者13名で開催、監事並びに評議員の半数改選を行い(2月号会告の通り)尚顧問推薦の件、昭和24年度決算報告、昭和25年度予算及び更正予算の件を議した。

大林副会長、鴻池理事帰朝報告会並びに歓迎会 29日 1時30分より大阪建設業協会と共同主催の下に建設会館で開催、出席者約100名あり両氏から夫々有益な視察報告があつた(鴻池理事より写真及び映画の撮影あり)終つて4時より観迎会に移り竹腰本会々長、市村建設業協会副会長の観迎の辞に対し両氏より謝辞ありて開宴7時半盛会裡に散会した。

編集委員会 9日4時より大阪建設会館会議室にて大林委員長外10名出席26年度編輯方針に於て記事中広告を基準寸法にする事、活字8ポに依りスライド制に原稿料決定カットの作者を一年間専任と決定し議事終了後、大林委員長の米国よりの帰朝談とフォーラム社。アートアンドアーキテクチュア社。アーキテクチュアルレコード社の三社と建築と社会に写真版の転載許可を得られた報告あり編集委員一同感謝し新年の初会合を終えり。

相互欄 人を求む

① 旧専門学校程度の建築科出身者にして、将来建築事務所経営の志を有する熱意ある誠実家を希望。勤務地中国某建築事務所、主として広島、山口県下(入所後漸次副所長として待遇する外、相互の信頼によりて事務所譲渡をも考慮する。

② 大学又は旧専門学校建築科出身者にして再建日本の建材界に勇飛せんと志す有能の士を求む。勤務地大阪支店(本社東京に在る本邦有数の某建材会社にして採用後大要社業に通じ次第支店長又は幹部に嘱し其の職に相応じき待遇を以てお迎えする。無経験者の方を歓迎します。

以上①②共履歴書多数頂いて居りますが尚御希望の方は至急履歴書と写真御送附下さい。又友人知己其他御心当りの方もあらば御紹介御斡旋方願います。

日 本 建 築 協 会

本件御連絡は事務局長宛親展の事。

26. 3. 5

會 告

株式會社 高田アルミニウム製作所見學會開催

標記見学を下誦の通り催しますから折返し御申込み下さい。

1. 日 時 3月27日(火) 午後2時集合時間(晴雨不論)
1. 集 合 所 高田アルミニウム製作所正門(堺市海山町6の224堺4120)
道順 市電出島線、三寶車庫前下車東北20米
1. 会 費 30円(申込みと同時に払込みのこと)
1. 申込締切 26日午前中、但し予定人員に達したときは期日前でも締切る

会勢委員会委員長 松 村 雄 吉

会 員 各 位 へ 御 願 ひ

来る三月末は本会年度決算期であります。御承知の通り昨夏来家賃統制撤廃後借室料の暴騰や時局の影響で雑誌費、集金費、其他諸経費も著しく自然増となり、このため総合、電気、管工各部門から夫々御援助を受け、曩に審議を得ました通り、更正予算を作成し、辛うじて今日に及んでいる状態ではありますが、此儘の状態では決算をなせば相当額の赤字となり危機に直面します。一面会費の払込が大変遅れている向が相当数にあり、之等遅払の会員各位が深き御理解の下に会費払込に御協力、完納されるならば、予期の決算が出来ると同時に目下編成中の廿六年度収入予算に確実な基礎を把握する事が出来ます、若し未払会員の御協力と御援助が足りない時は多額の借入金を必要とし、明年度事業計画も立ち難く、会務も滞滞する事となります、斯様な重大な岐路に立っている事を充分御賢察の上、請求書を受けられた方は三月迄の未拂額を是非三月中に御拂込み下さる様お願い申上ます。(会費は一ヶ年前前納の規定)

御払込は三月号挿入の振替用紙(払込料協会負担)を御利用願うのが一番便利で確実です

追而定款第17条にある滞納者の権利停止除名云々の事は長期の滞納者には会の運営に支障を来たす為整理上止むを得ず処置いたしますが、希くば会員各位の絶大な御協力により、斯様な項はいつも空文である事を念願するものであります。

昭和26年3月1日

編 集 後 記

社団法人

日 本 建 築 協 会

主 記 理 事 主 計 理 事

講和がすぐそこにやつて来たようなひそかな喜びも、ドレス特使が帰国されて日の過ぐるにつれ世界経済の波濤が岸辺に強よく打ち上げられ、建築界もとかく仕事が生にくくなつて来た。

私等日常生活に深く溶け込みすぎた二月堂の御水取の儀式は無関心の中に過ぎ行こうとしている三月の中場、此の住宅特輯号を御送する。

四月の春の若芽の力強い姿を誰れしも引き付けられるイマジエ、造型芸術家としての建築家は此れをモチーフとして忘れられない此の季節の前に。若し自分が家を建てるならを主題とする特輯を25年度編輯委員会のエビログの一こまとして企画した。又本号より大林編輯委員長の御蔭で転載の許可を得た一つにアートアンドアーキテクチャー誌の写真をトップに飾ることにした。

米国の文化の一端を紹介出来る喜びは同時にヨーロッパにも「建築と社会」は雄飛し度いと思わずにはいられない。会員諸兄の愛会の情を望みつつ次号をアメリカ特輯号とする。

建 築 と 社 会

第 3 2 輯 第 3 号

賣價 1部80円(送料共)

昭和26年2月25日印刷・昭和26年3月1日発行

編集発行人 戸 川 弘

発行所 社団法人 日本建築協会

大阪市北区中ノ島3ノ3朝日ビル
電話 北 浜 ③ 1334~9 番
振替 口座 大阪 39975 番

大阪市北区堂山町66

印刷者 網 野 栄

大阪市北区堂山町66

印刷所 研 文 社 電話 崎 ② 056

●第三二集 第三号 掲載広告一覧（掲載順）

野沢セメント
日本レイヨン
田島応用化工
協和製作所
久保商店
日新電設
協和建材工業
栗山板硝子店
三機工業
大阪城口研究所
大阪電気商会
桐田商会
齊久工業
須賀工業
西原衛生工業所
大島応用化学工業
建材社
三晃商会
栄興商会
近畿電気工事
立花商会
ヤマト電気商会

高野アスファルト工業
金剛商会
小島工業
三高製作所
岡居宇一商店
鈴木シヤッタア工業
理研サツシュ
和田末商店
中川ラス製作所
室谷商店
江昌工業所
片山鉄工所
福島商事
明正社
兵庫県瓦工事
芦屋左官工業所
豊国建材店
尾北商店
関西塗装工業
万勢商会
神治屋
米谷建材店

宝珠園
額田製作所
檜野石灰工業
三舟窯業
林塗装店
原田商店
水島商店
三幸商会
川岸窯業
新京建材社
吉田芳雄商店
①タイル営業所
くろふね工芸社
興亜建設工業
大和金属工業
矢橋大理石商店
満点製作所
福屋工業所
日新工業
内外建材
日本セメント防水剤製造所
関城化学工業所
大阪コンベス建材社
コーサイ化学工業

ライトラバー興業
産業スレート
琴港堂七彩工芸
スタビラー工業
内外土木建材社
朝日電子工業
玉屋
ライト製作所
日東商会
木下謹三商店
正晃建材興業
旭化工板製造
天王寺木工
ライト青写真工業
古石床材店
北尾商店
大阪耐酸工業所
平山円治商店
片倉の鋼管
大阪建材工業
山本建材社
浪速建材工業
内外アスベスト
油脂化工社

建材信和会事務所

岩住鉄工所

日東紡績

大阪窯業セメント